

- 禹(う・北尾) → 墨香(ぼっこう・北尾きたお、書肆/書家) E 3 9 6 6
- 雨(う・高橋) → 草坪(そうへい・高橋たかはし、絵師) C 2 5 8 8
- 卯(う・高橋) → 義泰(よしやす・高橋たかはし、藩士/和算家) H 4 7 8 4
- 宇庵(うあん・半井) → 成明(なりあきら・半井なからい、幕医) H 3 2 0 2
- 迂庵(うあん・榛間) → 法住(ほうじゅう:法諱・鳳巖・榛間はりま、僧/歌) G 3 9 3 4
- 惟一(うい、道実:法諱) → 道実(どうじつ・惟一;道号、黄檗僧) E 3 1 8 0
- 宇一(ういち・瀬波屋) → 東北斎飲居(とうほくさいいんきよ、狂歌) C 3 0 5 6
- 宇一衛門(ういちえもん・谷田部/高倉) → 逸斎(いつさい・高倉、藩士/考証) H 1 1 1 5
- 宇一太夫(ういちだゆう・宇都宮) → 綱根(つなね・宇都宮、神職/歌人) B 2 9 1 7
 [保定(;名)の通称/屋号]通称;右一郎、屋号;小川屋
- 右一郎(ういちろう・小川屋) → 保定(やすさだ・加藤かとう、商家/歌人) F 4 5 6 4
- 卯一郎(ういちろう・長田) → 美年(よしとし・長田ながた、藩士/歌人) N 4 7 8 4
- 1213 宇逸(ういつ・白水しろうず、名;重栄しげひで) 1799-1872 74歳 筑前福岡の俳人;筑前3傑の1、幼時失明、詩歌;二川ふたがわ相近すけか門/和漢学を修学、1790「いつみの音」94「夢家集」編、「栗津の道草」著、
 [宇逸(;号)の別号] 北筑失明逸人/心聞舎
- ウイリアム=アダムズ(William Adams) → 按針(あんじん・三浦、幕府顧問) C 1 0 1 4
- Wilhelmus-Botanicus(ウィルヘルムス・ボタニクス) → 国寧(くにやす・桂川/6世、蘭医) D 1 7 3 1
- 外郎(ういろう・陳) → 祖田(そでん・陳ちん、医者/文化人) E 2 5 0 7
- 羽陰樵夫(ういんしょうふ) → 敬治(けいじ・初岡はつおか、藩士/儒者) F 1 8 9 0
- 羽陰陳人(ういんちんじん) → 謙斎(けんさい・吉田、藩士/詩文) I 1 8 9 0
- 芋印亭(ういんてい) → 六林(ろくりん・堀田、恒山、詩/俳人) B 5 2 1 8
- 宇院藤太(ういんとうた) → 興風(おきかぜ・藤原、古今歌人) 1 4 1 1
- 芋々園(ううえん) → 芋丈(うじょう、市田いちだ、俳人) B 1 2 3 7
- 上柿芳竜(うえがきはうりゅう) → 芳竜(ほうりゅう・上柿うえがき;号、絵師) C 3 9 7 0
- 植木園(うえきえん) → 侶業(りよぎょう・水鯉亭、狂歌作者) J 4 9 7 1
- 植吉(うえきち・青木) → 典則(つねのり・青木あおき、里正/国学/画) F 2 9 1 1
- 上杉蔵人入道(うえずぎくろうどにゅうどう) → 頼成(よりしげ・上杉[上相]/藤原、武将/歌) I 4 7 7 1
- 1200 於田(うえた/於由おゆ・服部はとりべ) ?-? 755防人、武蔵都筑郡つきのこおり上丁/歌;万葉廿4421、
 [わが行きの息衝つくしかば足柄の峰延はほ雲を見とと俣はね]、
 (万葉;4421/息衝くは歎息/私の旅を嘆く時はの意)
 妻 → 咎女(あざめ・服部、万葉歌) B 1 0 0 6
- 他田広津娘子(うえたのひろつおとめ) → 他田広津娘子(おさだのひろつおとめ) 1 4 8 2
- 上永檢校(うえながけんぎょう・城談) → 八橋檢校(やつはしけんぎょう、箏曲/作曲) D 4 5 7 8
- 上野山人(うえのさんじん) → 秀根(ひでね・河村、藩士/国学者/歌) D 3 7 5 4
- 上野山房(うえのさんぼう) → 益根(ますね・河村、秀根男/儒・国学者) J 4 0 1 2
- 上宮王(うえのみやのおおきみ) → 聖徳太子(しょうとくたいし、皇太子/摂政) Q 2 2 3 0
- 植宏(うえひろ・実野) → 半(なかば・実野しの、藩士/神職/扶桑教) N 3 2 3 1
- C1200 上水下見(うえみずしたみ、本名;久保理右衛門) ?-? 狂歌作者、1789四方側判者-98「名取の老」編
- C1203 右衛門(うえもん) ? - ? 平安期男性歌人、右衛門府の武官、後撰1094、
 [我のみは立ちもかへらぬ暁にわきても置ける袖の露かな](後撰;雑1094)、
 (斎院の禊の後まで勤務し斎院の女房馬むまに贈った歌)
- 1203 右衛門(うえもん、源兼澄女?) ?- ? 平安前期歌人/頼忠家女房、977三条左大臣頼忠前栽合参加、988実資家歌合入、拾遺336、960天徳内裏歌合参加の右衛門命婦と同一?
 [命をぞいかならむとは思ひ来こし生きて別るゝ世にこそありけれ](拾遺;別336)
- B1265 宇右衛門(うえもん・片島かたしま) ?- ? 南嶺の友人、「弁々破竹抄」(1729南嶺「敗箒添塵」入)

- C1205 宇右衛門(うえもん・樹下じゅげ、名;恂、号;樹下翁、屋号;板屋)?-1840/41 大坂長浜の心学者、
心学講舎都講、1827-46「心の行衛」、36/39「極楽住居」、48「古今道之栞」49「今昔道之栞」著
- 宇右衛門(うえもん・神戸)→ 兼郁(けんいく・猪苗代/神戸、連歌) B 1 8 2 6
 宇右衛門(うえもん・熊坂)→ 磐谷(ばんこく・熊坂/熊阪くまさか、儒者) H 3 6 6 3
 宇右衛門(うえもん・津田)→ 正重(まさしげ・津田つだ/川北、藩士) C 4 0 7 4
 宇右衛門(うえもん・西川)→ 祐信(すけのぶ・西川にしかわ、絵師/絵本) C 2 3 7 4
 宇右衛門(うえもん・松平)→ 康門(やすかど・松平まつだいら、幕臣/和学) G 4 5 7 1
 宇右衛門(うえもん・片島/大野)→ 武矩(武範たけのり・大野/片島、砲術家) E 2 6 4 8
 宇右衛門(うえもん・薬師寺)→ 種永(たねなが・薬師寺やくしじ、砲術家) R 2 6 8 8
 宇右衛門(うえもん・稲葉)→ 正往(まさゆき・稲葉いなば、藩主/老中/茶) N 4 0 7 3
 宇右衛門(うえもん・加藤)→ 蘭山(らんざん・加藤かとう、藩士/儒者) C 4 8 2 8
 宇右衛門(うえもん・熊坂)→ 台洲(たいしゅう・熊坂くまさか、儒者/教育) 2 6 0 5
 宇右衛門(うえもん・宮田)→ 金峯(きんぼう・宮田みやた、藩士/儒者) I 1 6 2 6
 宇右衛門(うえもん・米津/隠岐)→ 茱軒(しゅけん・隠岐おき、与力/詩人) I 2 1 6 5
 宇右衛門(うえもん・大村/玉木/橘)→ 正英(まさひで・玉木/橘、神道家) G 4 0 6 6
 宇右衛門(うえもん・高野/車屋)→ 束根(つかね・高野たかの、歌人) 2 9 4 8
 宇右衛門(うえもん・人見)→ 蕉雨(しょうう・蕉雨斎・人見、藩士/詩文) G 2 2 9 3
 宇右衛門(うえもん・三木)→ 松斎(しょうさい・三木みき、和算家) J 2 2 0 7
 宇右衛門(うえもん・岸)→ 光(ひかる・頭つむりの、町代/絵師/狂歌) 3 7 0 1
 宇右衛門(うえもん・扇屋)→ 棟上高見(むねあげのたかみ、鈴木墨河/狂歌) B 4 2 0 2
 宇右衛門(うえもん・内藤)→ 盛業(せいぎょう・内藤ないとう、藩士/俳人) H 2 4 9 4
 宇右衛門(うえもん・磯部)→ 長恒(ながつね・磯部いそべ、町年寄/歌人) L 3 2 1 7
 宇右衛門(うえもん・草加)→ 崑山(こんざん・草加くさか/そが、儒者) G 1 9 5 8
 宇右衛門(鶉右衛門うえもん・雨宮)→ 正次(まさつぐ・雨宮あめのみや、幕臣/国学) M 4 0 2 0
 宇右衛門(うえもん・佐々木)→ 吉雄(よしお・佐々木ささき、国学/歌人) M 4 7 9 9
 卯右衛門(うえもん・皆川)→ 政彬(まさあき・皆川みながわ/藤原、幕臣/歌) L 4 0 6 5
 卯右衛門(うえもん・北沢)→ 始芳(始方もとよし・北沢、養蚕家/本草) E 4 4 7 8
 羽右衛門(うえもん・尚書屋/堺屋)→ 基定(もとさだ・辻本/源、書肆/図会刊) C 4 4 5 1
 右衛門(うえもん・大久保)→ 忠恒(ただつね・大久保おおくぼ、幕臣) P 2 6 8 6
 右衛門(うえもん・鹿島)→ 則峰(のりみね・鹿島かしま/中臣/富田、神職) F 3 5 9 1
 右衛門(うえもん・鹿島)→ 則瓊(のりよし・鹿島、則峰男/神職/国学) G 3 5 3 1
 右衛門(うえもん・黒川)→ 義忠(よしただ・黒川くろかわ、藩士/日記) E 4 7 2 3
 右衛門(うえもん・窪島/田中)→ 冠帯(かんたい;号・田中たなか、農政家) H 1 5 7 2
 右衛門(うえもん・荒木田/藤波)→ 氏胤(うじたね・藤波ふじなみ、神職) C 1 2 4 3
 右衛門(うえもん・吉見)→ 幸混((ゆきむら・吉見、幸和男/神職) F 4 6 7 9
 右衛門(うえもん・永井)→ 勝則(かつのり・永井ながい、藩士/日記) N 1 5 7 7
 右衛門(うえもん・桂)→ 久武(ひさたけ・桂/島津、藩士/日記) B 3 7 2 7
 右衛門(うえもん・富田)→ 泰州(やすくに・富田とみた/源、藩士/歌人) B 4 5 3 4
 右衛門(うえもん・田村)→ 顕始(あきはる・田村たむら、旗本/歌) H 1 0 8 8
 右衛門(うえもん・松平)→ 信辰(のぶとき・松平まつだいら、幕臣/国学) K 3 5 0 2
 右衛門(うえもん・藤井)→ 総博(ふさひろ・藤井ふじい、故実家) C 3 8 2 3
 右衛門(うえもん・磯谷)→ 直好(なおよし・磯谷いそがや、官人/国学) L 3 2 1 8
 右衛門(うえもん・岩崎)→ 長世(ながよ・岩崎いわさき、国学/歌/神職) G 3 2 3 1
 右衛門(うえもん/えもん)→ 重武(しげたけ・上野うえの/荒木田、国学者) R 2 1 3 3
 右衛門(うえもん・六人部)→ 節香(ときか・六人部むとべ、神職/和学) W 3 1 6 4
 右衛門(うえもん・小串)→ 重郷(しげさと・小串おぐし、神職/国学) N 2 1 6 1
 右衛門(うえもん・武藤/大竹)→ 元一(もとかず・大竹/藤原/武藤、藩士/歌) J 4 4 5 4
- 1206 右衛門督(うえもんのかみ/えもん・宗尊むねたか親王[1242-74]家、阿野実遠女?)?-? 鎌倉6代將軍家女房/
歌人、続拾遺1227
[いくたびか心の中にそむくらんまことにすてぬ此世なれども](続拾十七;1227)

- 1205 **右衛門督** (うえもんのかみ/えもん-・惟康これやす親王[1267-1326]家、藤原実遠女?)?-? 鎌倉7代将軍家女房、歌人;勅撰3首;新後撰1384/続千載789/1730、
[迷はじな通ひなれたる山人のつま木の道はしをりせずとも](新後撰;雑1384)
- 1204 **右衛門督** (うえもんのかみ・えもん-・永福門院、右衛門局?)?-? 南北期永福門院鐙子しょう女房、京極派後期歌人、1343花園院六首/43五十四番歌合/70-1仙洞歌合参加、竹むきが記の右衛門局と同一?、勅撰12首;風雅(145/167/888-下11首)・新統古1955、
[見るまに軒ばの花は咲きそひて春雨かすむをちの夕暮](風雅集;春145)
章義門院小兵衛督と同一?→ **小兵衛督**(こひょうえのかみ・章義門院/永福門院) D 1 9 6 0
右衛門督(うえもんのかみ) → **家成**(いえなり/いえげ・藤原、歌合催) 1 1 5 1
右衛門督(うえもんのかみ・井伊) → **直該**(なおもり・井伊い直興/藩主/大老/歌) L 3 2 0 1
右衛門尉(うえもんのだいじょう) → **明基**(あきもと・坂上さかのうえ、明法家) E 1 0 0 1
右衛門尉(うえもんのだいじょう・斎藤) → **利賢**(としかた・斎藤さいとう、伊豆守/武将) T 3 1 6 0
宇右衛門尉(うえもんのだいじょう) → **重春**(しげはる・初坂はつさか、和算家) S 2 1 2 4
右衛門二郎(うえもんのだいじょう・依田) → **学海**(がつかい・依田よだ、儒/詩/日記) F 1 5 4 0
- 1208 **右衛門佐** (うえもんのすけ・皇后宮こうごうのみや、?)?-? 堀河皇后令子内親王[1078-1144]女房、歌人、別称;二条大宮(右)衛門佐、1135家成家歌合(散佚)参加/続詞花歌集入、金葉223/377、
[思ふこと有明がたの月影にあはれをそふるさを鹿の声](金葉;三秋223/暁聞鹿)、
[恋ひわたる歎きにもゆるけぶりこそ身をうき雲とはては成りけれ](続詞花;恋606)
- 1207 **右衛門佐** (うえもんのすけ・高松院たかまついん、園城寺覚慶女?)?-?1205存 平安後期鎌倉初期女房歌人、高松院[二条中宮姝子しゆし内親王(1141-76)]女房/のち建春門院[後白河女御滋子]女房、藤原宗家との間に宗経を/藤原俊忠男禅智との間に建春門院左京大夫を出生、歌人;勅撰5首;新古今1121/新勅撰771・843/続古今1257・1347、続詞花集・檜葉集13首入、
[よそながらあやしとだにも思へかし恋せぬ人の袖の色かは](新古今;恋1121)、
(1195摂政太政大臣藤原良経催の女房八人百首歌/片恋の苦しき)、
[高松院御出家(1160)の次の年八月ばかり月をみて、
雲井にはこよひの月ものどけきに秋はむかしの色ぞかはれる](檜葉;秋245)
息 → **宗経**(むねつね・藤原/中御門、廷臣/歌人) B 4 2 6 6
- C1206 **右衛門佐** (うえもんのすけ・建春門院?)?-? 平安後期建春門院[1142-76]女房/歌;1186「経房歌合」参加、
[三笠山雲晴れにけり秋の月すみうき世ともなき光かな](経房歌合;十二番左)
右衛門佐(うえもんのすけ・安嘉門院・四条) → **阿仏尼**(あぶつに、歌人/日記) 1 0 2 7
右衛門佐(うえもんのすけ・武田) → **信満**(のぶみつ・武田/源、武将/詩歌) D 3 5 4 6
右衛門佐(うえもんのすけ・新納) → **久詮**(ひさあき・新納に、領主/和学) K 3 7 5 4
右衛門助(うえもんのすけ・吉岡) → **鶴巢**(じやくそう・吉岡/葛西、医者/俳人) W 2 1 0 5
右衛門大尉(うえもんのだいじょう・木下) → **秀時**(ひでとき・木下きのした、官人/歌人) J 3 7 1 7
右衛門大尉(うえもんのだいじょう・町口) → **是保**(これやす・町口まぢぐち/坂上/別所、廷臣/明法博士) R 1 9 3 1
右衛門大夫(うえもんのだいぶ・堀家) → **清忠**(きよただ・堀家ほりけ/吉見、神職/国学) V 1 6 1 8
右衛門太郎(うえもんのだらう・栗原) → **茂景**(しげかげ・栗原くりはら/角井、神職/歌) O 2 1 3 2
右衛門命婦(うえもんのみょうぶ、960天徳内裏歌合参) → **右衛門**(うえもん、頼忠家女房) 1 2 0 3
雨遠(うえん:俳号) → **東門**(とうもん・山脇、医者/俳人) H 3 1 4 3
芋園(うえん:俳号) → **敬**(けい・藤本、詩/俳人) D 1 8 3 1
右翁(うおう・深見) → **有隣**(ゆうりん/ありちか・深見、幕臣/儒学) E 4 6 0 9
烏翁(うおう・福田/林) → **一鳥**(いちう・林/福田、医者) F 1 1 9 6
禹王棚叟(うおうほうそう) → **義右**(よしすけ・熊谷くまがい/小林/西村、商家/藩支援) M 4 7 6 0
- 1209 **魚名** (うおな・藤原ぶじわら、魚麿、川邊大臣、房前男) 721-78363 藤原北家魚名流の祖/廷臣;768参議、769左京大夫/771大納言/779内大臣/781左大臣太宰帥/782.6月配流
魚の屋(初世うおのや) → **得閑斎**(3世とつかんさい・砂長、書肆/狂歌) O 3 1 4 3
魚の屋(2世うおのや) → **砂兄**(さけい・魚の屋2世、砂長男/狂歌) H 2 0 3 3
- 1201 **魚丸** (うおまる・佐藤さとう、通称;釘屋藤兵衛[藤太兵衛]) 1752-182170 大阪の狂歌作者;
玉雲斎貞右[国丸]門、1795「狂歌三撰集」98「越路の雪」1803「狂歌題輪」著、

- 1812「狂歌よつの友」、「かたをなみ」「住吉神社奉納狂歌」「丸派狂歌合の巻」著、
 1805から浄瑠璃作者/梅枝軒と合作、
 1806「玉藻前囃袂」07「桜姫花洛鑑」12「四天王寺伽藍鑑」16「五天竺」、「蝙蝠軒歌集」著、
 [佐藤魚丸(；号)の別号]魚麻呂/佐川藤太/佐川佐藤太/交水館/旧路館/蝙蝠軒、後穿窟主人
- 雨華庵(うかあん) → 抱一(ほういつ・酒井、絵師/俳/諸芸) 3 9 1 3
 雨草庵(2世うかあん) → 鶯蒲(おうほ・酒井さかい/香阪、僧/絵師) B 1 4 3 6
- C1207 烏涯(うがい・坂上さかがみ、名；多仲、字；文若/武之、別号；柳窩主人) 1703-8482 上州高崎の儒者/詩、
 「燕居漫筆」「山野春光」「宴集寄贈唱和」著
- B1292 烏涯(うがい・松本まつもと/修姓；松、名；愿/原、字；恭、通称九右衛門) 1785-1810早世26 上州高崎の生、
 1796叔父の養子；江戸に出る、昌平黌に修学；古賀精里門、高崎藩主松平輝延の世子に近侍、
 藩儒、詩文に長ず、「北遊雜記」「烏涯小稿」「己丑漫録」「目耕録」著、「烏涯遺稿」
- 烏涯(うがい・清水) → 玄叔(げんしゅく；字・清水しみず、文筆家) J 1 8 6 7
 雨外(うがい・森) → 退堂(たいどう・森もり、藩儒/詩文) K 2 6 7 7
 雨街(うがい・夏田) → 秀貫(ひでつら・夏田なつた、商家/国学) K 3 7 4 6
 迂怪子(うかいし) → 沢瀉((たくしゃ・東ひがし、藩士/儒/尊王) E 2 6 2 2
 雨海僧正(かいそうじょう) → 仁海(にんかい；法諱、雨僧正、真言僧) G 3 3 1 8
 宇角(うかく・青木) → 徳峯(とくほう・青木あおき、商家/詩歌) L 3 1 3 9
 于閣(うかく・金沢) → 星阜(星岡せいこう・鷹見、藩士/儒/詩) B 2 4 4 5
- C1208 羽嶽(うがく・根本ねもと、名；通明みちあき/字；子竜、別号；健齋) 1822-190685歳 羽後秋田藩士、
 儒者；野上陳令の弟はる門、訓詁学者、秋田藩校明德館祭酒、「羽嶽文稿」著
- 雨岳(うがく・内海) → 政雄(まさお・内海うつみ、神職/国学者) O 4 0 0 0
 烏角齋(うかきさい) → 御風(ぎよふう・浅見、俳人) Q 1 6 2 5
- 1210 浮(うかぶ・源みなもと、精せい男) ?- 935? 平安期廷臣；肥前守/五位、歌人；
 後撰集671、古今集女流歌人の寵ちょうの兄、大納言源定の孫、
 [恋しきは寝ねぬに慰むともなきにあやしくあはぬ目をも見るかな](後撰；恋671、
 寝ないで睨が合わない辛い目悲しい目に逢うの目を掛る；駄洒落)
- B1266 鶺鴒柄山口(うがらのせんこう) ? - ? 狂歌作者、1785徳和歌後万載集2首/87才蔵集入；
 [今日ばかり明日といはれぬ大晦日貸した方にも借りた方にも](才蔵集)
- 1211 遊行女婦(うかれめ・あそびめ) ? - ? 万葉中人物；旅人家持関係が多い、児島・土師・左夫流児・蒲生など
- 児島(こじま、筑紫娘子、万葉三期歌人) 1 9 2 9
 → 蒲生娘子(がもうのおとめ、万葉四期歌人) 1 5 7 9
 → 左夫流児(さぶるこ、越中遊行女婦、万四期歌人) D 2 0 8 2
- 羽官(うかん・森川) → 許六(きよろく/きよりく・森川、藩士/俳人) 1 6 5 5
 卯観子(うかんし) → 水鷗(すいおう・田村たむら、絵師) E 2 3 2 1
 卯歛舎(うかんしゃ) → 文素(ぶんそ・北川きたがわ、農業/俳人) G 3 8 0 1
 右菅生(うかんせい) → 文時(ふみとき・菅原、漢学者/詩人) 3 8 1 6
 烏巖雪山(うがんせつざん) → 雪山(せつざん・北島きたじま、書家/儒者) E 2 4 3 7
 于季(うき・秋田) → 侑季(よしすえ・秋田あきた/安倍、藩主) D 4 7 7 2
 宇喜寿老人(うきすろうじん) → 忠永(ただなが・本多、藩主/兵学/俳人) Q 2 6 3 3
 雨奇晴好楼(うきせいこうろう) → 春夫(はるお・佐々木、商人/国学/歌) G 3 6 0 5
 宇吉(うきち・秋山) → 御風(ぎよふう・秋山あきやま、藩士/俳人) H 1 6 5 5
 宇吉(うきち・会田) → 素山(そざん・会田、藩士/御風門俳人) J 2 5 7 8
 宇吉(うきち・三牧/佐藤) → 慶五(けいご・三牧/佐藤、俳人) F 1 8 5 4
 右吉(うきち・林野/小石) → 元俊(げんしゅん・小石こいし、医者) J 1 8 7 3
 卯吉(右吉うきち・佐野) → 経彦(つねひこ・佐野、神道家/国学) D 2 9 3 4
 卯吉(うきち・安部) → 眞貞(まさだ・安部あべ、国学者) D 4 0 1 1
 卯吉(うきち・小原) → 実雄(じつゆう・小原おはら/原、僧/国学) N 2 1 6 8
 卯吉(うきち・中島) → 栄武(よしたけ・中島なかじま、大庄屋/歌人) O 4 7 1 8
 卯吉(うきち・原) → 誠道(のぶみち・原はら、藩士/国学) J 3 5 7 0
 卯吉郎(うきちろう・竹内) → 貞基(さだもと・竹内たけのうち/山本、航海術) J 2 0 9 4

- 卯吉郎(うきちろう・原) → 誠道(のぶみち・原はら、藩士/国学) J 3 5 7 0
- B1227 雨橋(うきつ・小川おがわ、通称;彦兵衛、別号;撃鈴亭)1680-1740 61 江戸の俳人;沾徳門、
「真砂集聞書」著、1723浮生ふしよう追善集「野明り」編
- C1209 雨橋(うきつ・戸原とばら、名;一明/継明、字;公実、一伸男)1835-63 自刃 29 筑前秋月藩士、
医;元立門、儒;木下韮村いそん門、尊王論/1863脱藩;但馬の義挙に参加、
敗北;1863岩須賀山妙見堂で自刃、「北豊紀行」「正名論」「答客辨義」著、
[雨橋(;通称)の号] 遜志斎/聊復爾りようふくじ軒、法号;伊蘇志神
- 右橋(うきつ・佐野) → 経彦(つねひこ・佐野、神道/医者) D 2 9 3 4
- 右橋(うきつ・新田目あらため) → 道茂(みちしげ・新田目/藤原/橋本、藩士/検地) B 4 1 6 2
- 右吉鷹(うきつまる・佐野) → 経彦(つねひこ・佐野、神道家/国学) D 2 9 3 4
- 浮世庵(うきよあん) → 国直(初世くになお・歌川、絵師) 1 7 7 9
- 1212 右京(うきょう・本院ほんいん、藤原治方女or重親女?)?-? 藤原時平女仁善子[保明親王妃]の女房?、
歌人;956坊城右大臣師輔歌合参加、藤原国用くにもちと交渉、秋葉集入、後撰609、
[ともかくも言ふことの葉の見えぬ哉いづらは露のかゝり所は](後撰;恋609、
藤原国用くにもち[季方男/菅根の孫or敏行の孫/伊衡の甥]からの音信がないので贈る歌、
露のようにはかない我が命をどこに託したらよいのか)
- C1210 雨橋(うきょう・磯田いそだ、芭蕉門俳人昌房の曾孫?)?-? 近江瀬田の俳人;蝶夢門、1795「しくれ会」編
- C1211 宇喬(うきょう・佐々木ささき、名;当水、宇考男?)-1838 羽前米沢俳人;父門、1821「ひとつ松」編、
[宇喬(;号)の別号] 宇狂/栗斎2世/木蘭居、涼莎りようさの父
- B1226 宇橋(うきょう・草川くさかわ、通称;助左衛門)1768-1829 62 但馬仙石藩士/俳;青蘿・玉屑門、
鳴立庵中興の祖、「不尽の雪」、1815「栗本雑記」著/22「茗荷」編/28「小君」編、
[宇橋(;号)の別号] 不二叟/栗の本/栗庵3世
- C1212 右京(うきょう・中条ちゅうじょう、吉村勇吉重国の長男)1843-63 自決 21歳 但馬出石藩士の生、
幼少より棒術を習得/国史・歌を修学、1861(文久元;19歳)上京;押小路家に出仕、
のち姉小路公知に出仕;中条右京に改名/尊攘を主唱、
1863(文久3)公知が刺客に襲撃時に防戦;その功で用人格;2人扶持、
1863沢宣嘉に従い長州に赴く/生野の変に参加;長州に逃亡中に播磨篠村で自決、
1863「姉小路公知遭難始末」著、
[右京(;通称)の名/別通称]名;基好、別通称;熊太郎
- 右京(うきょう・金剛) → 頼勝(よりかつ・12世金剛、能役者) I 4 7 5 1
- 右京(うきょう・諏訪) → 忠晴(ただはる・諏訪すわ、藩主/詩人) F 2 6 6 5
- 右京(うきょう・狩野、右京進/右京亮) → 光信(みつのぶ・狩野かのう、絵師) E 4 1 3 4
- 右京(うきょう・狩野) → 安信(やすのぶ・狩野家八世/藤原、絵師) C 4 5 5 4
- 右京(うきょう・稲葉) → 景通(かげみち・稲葉いなば、藩主/藩中興/歌) W 1 5 1 8
- 右京(うきょう・松平) → 頼重(よりしげ・松平、藩主/茶・歌人) I 4 7 7 3
- 右京(うきょう・松平) → 頼常(よりつね・松平/徳川、藩主/学問) J 4 7 0 8
- 右京(うきょう・伊勢) → 貞広(さだひろ・伊勢/平、藩士;故実家) J 2 0 4 7
- 右京(うきょう・松木) → 高彦(たかひこ・松木/度会、神職/記録) M 2 6 9 4
- 右京(うきょう・毛利) → 綱元(つなもと・毛利/大江、藩主/歌人) B 2 9 3 8
- 右京(うきょう・伊達/田村) → 宗良(むねよし・田村/坂上/伊達、藩主) C 4 2 8 6
- 右京(うきょう・田村) → 村隆(むらたか・田村/伊達、藩主) 4 2 1 8
- 右京(うきょう・伊達) → 村風(むらかぜ・伊達だて、藩士/右京家) D 4 2 9 4
- 右京(うきょう・重松) → 安勝(やすかつ・重松しげまつ、神職/国学/歌) F 4 5 9 6
- 右京(うきょう・小出) → 吉英(よしふさ・小出こいで、藩主/和学) M 4 7 7 2
- 右京(うきょう・役) → 藍泉(らんせん・役えき/島田、修験僧/詩人) C 4 8 8 3
- 右京(うきょう・西川) → 祐信(すけのぶ・西川にしかわ、絵師/絵本) C 2 3 7 4
- 右京(うきょう・堀) → 忘斎(ぼうさい・堀ほり、藩士/儒者) 3 9 8 8
- 右京(うきょう・松木) → 栄彦(さかひこ・松木/度会、神職) H 2 0 1 1
- 右京(うきょう・浅野) → 長懋(ながとし・浅野、史家) E 3 2 8 8
- 右京(うきょう・菅原) → 長好(ながよし・菅原、神職/国学) G 3 2 4 8

右京(うきょう・赤座/永原)→ 孝治(たかはる・永原ながはら、藩士/連歌) M 2 6 9 0
 右京(うきょう・荒木田) → 南陵(なんりょう・荒木田あらかた、神職/詩) J 3 2 6 6
 右京(うきょう・関藤) → 政信(まさのぶ・関藤せきとう、神職/医者) F 4 0 7 3
 右京(うきょう・間部/西田)→ 詮房(あきふさ・間部まなべ、藩主/日記) D 1 0 8 5
 右京(うきょう・足代) → 弘魚(ひろな・足代あじろ/度会、神職/歌) G 3 7 5 7
 右京(うきょう・武田) → 琴亭(きんてい・武田たけだ、儒者/卜筮) R 1 6 4 7
 右京(うきょう・金剛) → 頼勝(よりかつ・金剛こんごう、能役者) I 4 7 5 1
 右京(うきょう・藤原) → 重全(しげまさ・藤原、神職/書肆) S 2 1 6 4
 右京(うきょう・立花) → 蘭斎(らんさい・立花たちばな、儒者) C 4 8 2 3
 右京(うきょう・鍋島) → 直条(なおえだ・鍋島、藩主/詩歌) 3 2 7 7
 右京(うきょう・横井/佐分)→ 清円((きよのぶ・佐分さぶり/眞清田ますみだ、神職/国学) Q 1 6 1 0
 右京(うきょう・増田) → 垂穂(たるほ・増田ますだ、神職/郷土史家) T 2 6 0 5
 右京(うきょう・橋村) → 正衡(まさひら・橋村はしむら/度会/檜垣、神職) R 4 0 6 5
 右京(うきょう・永田) → 寿稔(じゅねん・永田ながた、篆刻家) 2 1 7 7
 右京(うきょう・酒井) → 忠明(ただあきら・酒井さかい/源、忠蓋/藩主) U 2 6 0 5
 右京(うきょう・森本/大口)→ 端山(たんざん・大口、商家/国学/歌) I 2 6 7 6
 右京(うきょう・高野) → 房子(ふさこ・高野たかの、女官) C 3 8 0 4
 右京(うきょう・太郎館) → 季賢(すえかた・太郎館たろうだち/荒木田、神職/国学) F 2 3 3 9
 右京(うきょう・沢田) → 泰綱(やすつな・沢田/荒木田/菌田、神職) C 4 5 1 0
 右京(うきょう・伊達) → 宗充(むねみつ・伊達だて、領主/民政) D 4 2 9 2
 右京(うきょう・加藤) → 泰広(やすひろ・加藤かとう、藩主/歌人) F 4 5 6 8
 右京(うきょう・木俣) → 守安(もりやす・木俣きまた/橋、藩老/歌) J 4 4 7 5
 右京(うきょう・井上) → 充仲(みつなか・井上いのうえ、神職/詩歌人) L 4 1 1 5
 右京(うきょう・井上) → 安彦(やすひこ・井上いのうえ/本庄、神職) F 4 5 2 5
 右京(うきょう・門司) → 成道(なりみち・門司もじ、神職/国学者) P 3 2 0 5
 右京(うきょう・広田) → 正愛(まさあか・広田ひろた/度会、神職/国学) S 4 0 2 0
 右京(うきょう・広田) → 則明(のりあき・広田ひろた/度会/橋村、神職) J 3 5 8 6
 于喬(うきょう・尾崎/谷川)→ 于喬(ゆきたか・谷川/尾崎、医/国学者) E 4 6 6 4
 卯喬亭(うきょうてい) → 蓼阿(りょうあ、俳人) G 4 9 0 0
 右京雅楽之助(うきょうのうたのすけ)→ 宅彦(いえひこ・松木、神職/歌/記録) E 1 1 9 5
 右京進(うきょうのしん・立石)→ 正賀(まさよし・立石たていし、武将/歴史) I 4 0 4 4
 右京之進(うきょうのしん・藤木)→ 邑頭(すみあき・藤木ふじき、国学者) J 2 3 1 8
 右京亮(うきょうのすけ・稲葉)→ 貞通(さだみち・稲葉いなば、武将/藩主/歌) C 2 0 4 7
 右京亮(右京進うきょうのすけ・狩野)→ 光信(みつね・狩野かのう、絵師) E 4 1 3 4
 右京亮(右京進うきょうのすけ・安藤)→ 定為(さだため・安藤あんどう、歌人) I 2 0 4 9
 右京亮(うきょうのすけ・酒井)→ 忠明(ただあきら・酒井さかい/源、忠蓋/藩主) U 2 6 0 5
 右京亮(うきょうのすけ・秋月)→ 種頼(たねひで・秋月、藩主) S 2 6 0 0
 右京亮(うきょうのすけ・大河内)→ 輝声(てるな・大河内/松平、藩主/詩歌) B 3 0 4 6
 右京亮(うきょうのすけ・松平)→ 輝高(てるたか・松平まつだいら/源、藩主/老中/歌) E 3 0 8 6
 右京亮(うきょうのすけ・松平)→ 輝延(てるのぶ・大河内/松平、輝高男/藩主/老中) F 3 0 0 5
 右京亮(うきょうのすけ・淡川)→ 康民(やすたみ・淡川あわか、官人/歌人) F 4 5 2 3

C1213 右京大夫(うきょうのだいふ) ? - ? 平安後期女房/歌人;1166中宮亮重家家歌合参加

[まちかねてまどろむほどに時鳥夢のもりにていまぞなくなる](重家歌合;郭公四番右)

1202 右京大夫(うきょうのだいふ・建礼門院けんれいもんいん、藤原伊行女)1155?-? 母;大神基政女の夕霧ゆうぎり、女房歌人;1173中宮徳子の女房、藤原隆信と交渉、1195後鳥羽院に出仕、箏の名手;父母と「秦箏相承血脈」入、1234?「建礼門院右京大夫集」編、伊経(皇太后宮亮)・尊円(叡山天台僧)・瞻空せんくう(浄土宗上人)の姉妹(すべて歌人)、歌人;高松院歌合/稲荷社歌合/小松内大臣家起句合参加(;いずれの歌合も散佚)、勅撰24首;新勅(842/1098)玉葉(10首1549/1660/1759以下)風雅(6首)新千(1888)以下、[忘れじの契りたがはぬ世なりせば頼みやせまし君がひとこと](新勅撰;恋842)

- C1214 **右京大夫** (うきょうのだいふ・承明しょうめい門院、藤原隆信女)?-? 後鳥羽妃源在子[1257没]の女房/
藤原信実の姉妹、連歌:「いろは連歌」参加、菟玖波;1句入、
[ぬれけるものをからひとの袖](菟玖波;1592/永明門院左京太夫の名、
詞書;月の夜女房多数でいろは字を句頭に置く連歌をした時[り]につまったとき、
永明門院宮内卿くわいきょう[流泉の琵琶の音すこき月の夜に]と詠み[ぬ]文字を置く)、
永明門院は承明門院の誤記/左京太夫は右京大夫の誤記
- 1215 **右京大夫** (うきょうのだいふ・式乾しきけん門院、左京大夫)?-? 鎌倉中期;式乾門院(利子内親王)女房歌人、
続拾遺474(;式乾門院左京大夫名/山里にて鶯の遅く鳴くので詠む歌)、
[そむきにし身にはよそなる春なれどなほ鶯の声ぞまとるる](続拾遺;雑春474)
- 1216 **右京大夫** (うきょうのだいふ・正親町院おぎまちいん覚子[1214-85/43院号]女房)?-? 鎌倉中期;女房歌人、
勅撰4首;続拾遺457・694/新後撰1127/新千載1629、
[降る雪にいくのの道の末まではいかがふみむ天橋立](続拾遺;冬457)
- 1214 **右京大夫** (うきょうのだいふ・玄輝げんき門院)?-?1304存 玄輝門院愔子いんし[後深草天皇妃]女房、
鎌倉後期歌人、玉葉282・2406(:1304永陽門院出家時の歌)、
[なれきつる花の名残もあはれなり身はななそぢの春の暮れがた](玉葉;春282)
[わきてこの秋はいかなるあきななれば露そふ袖の股しぐるらむ](玉葉;雑2406)
- B1292 **右京大夫** (うきょうのだいふ・世泰よやす親王家)?-? 南北期;後龜山天皇皇子世泰親王家の女房、
歌人、新葉集1266、
[行末のあらましにのみなぐさめて今のうき世をいとはでぞふる](新葉十八1266)
- 右京大夫 (うきょうのだいふ・佐竹) → 義堯(よししたか・佐竹さたけ/相馬、藩主) E 4 7 1 2
右京大夫 (うきょうのだいふ・小出) → 吉英(よしふさ・小出こいで、藩主/和学) M 4 7 7 2
右京大夫 (うきょうのだいふ・松平) → 輝高(てるたか・松平まつだいら/大河内/源、藩主/老中/歌) E 3 0 8 6
右京大夫 (うきょうのだいふ・松平) → 輝延(てるのぶ・大河内/松平、輝高男/藩主/老中) F 3 0 0 5
右京大夫 (うきょうのだいふ・田村) → 邦行(くにみち・田村たむら、藩主/藩政改革/歌) D 1 7 8 1
右京大夫 (うきょうのだいふ・佐竹) → 義峰(ぎほう・佐竹さたけ、藩主) N 4 7 1 0
右京大夫入道 (うきょうのだいふにゅうどう) → 満之(みつゆき・細川、守護/歌) F 4 1 0 4
浮世喜楽 (うきよきらく) → 徳瓶(とくべい・橋本/1758-1825、合巻作者) L 3 1 3 4
- C1215 **浮世喜楽斎** (うきよきらくさい)? - ? 江戸後期江戸浮世絵師;
1854-7読本;金水「大川仁政録」共画;芳梅・貞信らと
- B1228 **烏玉** (うぎよく) ? - ? 京俳、1690其角「新三百韻」入/91重徳「花見弁慶」両吟歌仙入、
1690言水「新撰都曲みやこぶり」4句入;[大雪の眺め休むる湖水かな]
烏玉 (うぎよく・有賀) → 豊秋(とよあき・有賀あきが/菅原、国学/歌/俳) U 3 1 0 2
禹玉 (うぎよく・林) → 確軒(かくけん・林はやし、幕臣/儒者) E 1 5 6 6
于漁者 (うぎよしゃ) → 蘆雪(あしゆき・長沢ながさわ/上杉、絵師) C 5 2 0 1
- B1229 **浮世偏歴齋道郎苦先生** (うきよへんれきさいどうらくせんせい)?-? 江戸洒落本作者;1774「婦美車紫鹿子」著、
帰橋の変名説(1802「花折紙」)あり → 帰橋(ききょう・蓬萊山人、戯作/狂歌) 1 6 9 3
烏銀室 (うぎんしつ) → 五絃(ごげん、俳人) M 1 9 3 7
鶯吉兵衛 (うぐいすきちべえ) → 吉兵衛(きちべえ・二朱判にしゅばん、幫間/大尽舞) F 1 6 8 3
- B1267 **鶯摺江** (うぐいすのすりえ) ? - ? 狂歌、徳和歌後万載集1首入:125、
[暮行くといへばどふやらよけれどもなんにもくれず逃げて行春](後万載;125)
鶯屋半蔵 (うぐいすやはんぞう) → 隅田舎主人(すみだのやしゅじん、本草家) D 2 3 9 2
宇九衛門 (うくえもん・野々村) → 良澄(よしずみ・野々村のむら、藩士/儒者) O 4 7 4 5
- C1216 **雨閨** (うけい) ? - ? 江前期俳人;1688不卜「続の原」3句入;
[うれしさに落馬忘るるきのこかな]
于慶 (うけい・安達) → 清河(せいが・安達あだち、修験/儒者/詩文) 2 4 8 0
羽卿 (うけい・福山) → 鳳洲(ほうしゅう・福山/福/杉山、儒者) B 3 9 4 0
荒園 (うけらぞの) → 千蔭(ちかげ・加藤、国学/歌) 2 8 0 3
- C1274 **雨玄** (うげん) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入、
[闇の夜の灯は百人の力きに増す](二葉之松;330)
雨言 (うげん・宝生/服部) → 沾圃(せんぼ、宝生/服部、能楽師/俳人) G 2 4 6 0

- 禹言(禹玄うげん・植村) → 禹言(のぶこと・植村うえむら、地誌家/紀行) B 3 5 4 0
 于言齋(うげんさい) → 常守(つねもり・中里、国学/歌/地誌) E 2 9 0 2
 右源次(うげんじ・馬場) → 正通(まさみち・馬場ばば、経世家/教育) H 4 0 4 7
 右源次(うげんじ・神田) → 良近(よしちか・神田かんだ、藩士/兵学) E 4 7 4 9
 右源太(うげんた・杉村) → 健(けん・杉村すぎむら、文筆家/年譜) H 1 8 4 7
 右源太(うげんた・箕浦) → 立齋(りつさい・箕浦みのうら、藩士/儒者) B 4 9 8 6
 右源太(うげんた・黒住) → 宗忠(むねただ・黒住くろずみ、神道家) B 4 2 5 6
 雨後庵(うごあん) → 帰一坊(きいつぱう、駒屋善右衛門、俳人) J 1 6 5 9
 B1268 羽紅(うこう・野沢のざわ凡兆妻:とめ、羽紅尼)?-? 俳人;1691剃髪尼、89あら野/91猿蓑14句/続猿入、
 「凡兆句集」入、[春の野やいづれの草にかぶれけん](続猿蓑下)
 C1217 雨行(うこう・清水しみず、孤松軒)?-? 京の俳人、1690「空戯初心抄」90「空戯縁矢」編、
 1692「時代不同発句合」編
 C1261 宇考(うこう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「若みどり」入、
 [聞下手ききべたに咄はなしの上手拍子抜け](若みどり/前句;地が傾きて舞の舞はれず)
 1219 羽紅(うこう・竹田たけだ、別号;玄々堂)1687-1743 京の俳人;鞭石門、1722「月筏」編、24「貞徳伝」、
 1729隆志「俳諧草結」2句入、
 [落葉さへ祇園は柳さくらかな](草結;214/祇園は冬落葉でも錦)、
 (本歌;見渡せば柳桜をこきまぜて都ぞ春の錦なりける/古今集;素性法師)
 1218 宇考(うこう・佐々木ささき記達・別号;栗齋[初世]/栗蒼下)1739-1820 羽前米沢藩士、俳人:暁台門、
 1800「芭蕉翁発句集蒙引」著、息子の宇喬「ひとつ松」入
 C1218 鳥江(うこう・和田わた、名;正路、通称;庄太夫、小峯忠右衛門の孫)?-? 下総関宿藩士、
 儒;河口静齋門/書家:細井広沢門、1748随筆「異説区々まちまち」66「臨池茗話」著
 C1219 雨岡(雨岡うこう・多賀たが、通称内記)1744-181168歳 美濃の俳人;松後門、1790「墨直し」編、
 1800「梅花忌」1802「南無佐久良」03「桜の首途かどで」編、「夜話の谷響」「夜永伽」「連塔集」著、
 [雨岡(雨岡)の別号] 古梁坊/雨岡齋/雨岡庵/左柳
 C1220 雨考(うこう・石井い、通称;勝右衛門・別号;夜話亭)1749-182779 岩代須賀川の俳人;桃祖門、
 同郷の垂欧堂田善と親友、夏目成美と交流;1814「青かげ」編(田善の銅板画)
 雨石と兄弟? → 雨石(うせき・石井、夜話亭/須賀川俳) C 1 2 9 4
 C1221 鵜江(うこう・正木まさき・水光亭)?-? 京の俳人;紙隔門、
 1769「俳諧伝授天地人」、「暮の露」著
 右候(うこう・高柳) → 信之(のぶゆき・高柳、俳人) D 3 5 6 9
 于恒(うこう・小槻) → 于恒(ゆきつね・小槻/壬生、廷臣/記録) E 4 6 9 4
 迂巷(うこう・羽黒) → 養潜(ようせん・羽黒はぐろ/牧野まきの、儒者) B 4 7 3 5
 禹功(うこう・長) → 清楓(せいふう・長ちよう、儒者/絵師) J 2 4 5 2
 羽高(うこう・春田) → 九阜(きゅうこう・春田はるた、藩士/儒者) I 1 6 7 3
 雨航(うこう・宇仁館) → 富元(とみもと・宇仁/宇仁館うにだて、神職/占ト) O 3 1 9 7
 雨岡(うこう・吉田) → 鵜岐(うぎ・吉田/吉、儒者/歌) I 1 9 2 3
 雨香(うこう・藤井) → 竹外(ちくがい・藤井、藩士/鉄砲/詩人) C 2 8 7 8
 雨香(うこう・塩谷) → 清史(きよふみ・塩谷/塩治しおのや、藩士/歌) U 1 6 4 6
 雨岡庵(うこうあん) → 雨岡(雨岡うこう・多賀たが、俳人) C 1 2 1 9
 雨香園(うこうえん) → 柳浪(りゅうろう・馬田うまた/広津、医/戯作者) F 4 9 8 8
 雨香外史(うこうがいし) → 竹外(ちくがい・藤井、詩人) C 2 8 7 8
 雨岡齋(うこうさい) → 雨岡(雨岡うこう・多賀たが、俳人) C 1 2 1 9
 雨岡道人(うこうどうじん:剃髪後号) → 鵜岐(うぎ、吉田桃樹、儒者) I 1 9 2 3
 雨後園(うごえん) → 半蓑(はんさ・松波/森、商家/俳人/詩) H 3 6 6 5
 C1222 雨谷(うこく) ? - ? 京伏見の俳人;1776「続明烏」3句入、
 [夜桜や従者つれたる芝居もの](続明烏;159/芝居もの;歌舞伎役者/艶な雰囲気)
 C1223 鳥谷(うこく・西島にしじま、尺樹庵)?-? 讃岐丸亀の俳人;岱念門、のち遠州見付住、
 1842「鳥谷集」編
 芋谷(うこく・中沢) → 鴻洲(こうしゅう・中沢、心学/詩) J 1 9 5 1

鳥獄山人(うごくさんじん) → 善水(よしみ・瀬見せみ、大庄屋/歌人) H 4 7 2 8

雨後亭(うごてい) → 白英(はくえい・雨後亭、地誌) C 3 6 6 2

右五郎(宇五郎うごろう・嶺田) → 楓江(ふうこう・嶺田/峰田、藩士/詩) 3 8 6 0

1217 右近(うこん、右近少将藤原季繩すえなわ[交野少将]の女、右近命婦)?-? 醍醐天皇皇后穩子女房、歌人、
960内裏歌合/962内裏歌合/966内裏前裁合参加、藤原敦忠・師輔・朝忠・元良親王らと親交、
勅撰9首;後撰(5首423/665/746/1047/1068)拾遺(870/1003/1222)新勅撰(886)、
[忘らるる身をば思はずちかひてし人の命の惜しくもあるかな](拾遺;四恋870)

C1224 右近(うこん) ? - ? 平安前期歌人;藤原頼忠家の女房、
977三条左大臣頼忠家前裁合/988実資歌合参加、
[行く水のたえむものかはきみがため千歳の秋の花のかげみむ](頼忠家前裁合;88)
枕草子の右近内侍(右近尼)と同一?

右近(うこん・林) → 復斎(ふくさい・林はやし、幕臣/儒者) B 3 8 5 4

右近(うこん・安見) → 元勝(もとかつ・安見やすみ、藩士/砲術/歌) L 4 4 7 7

右近(うこん・齋藤) → 三友(みつとも・齋藤さいとう、幕臣/国学) J 4 1 1 7

右近(うこん・林) → 読耕斎(どこうさい・林はやし、幕府儒官) O 3 1 4 8

右近(うこん・林) → 晋軒(しんけん・林、読耕斎男/幕府儒官) D 2 2 9 3

右近(うこん・稲次) → 宗雄(むねお・稲次/荻野、武将/藩家老) B 4 2 0 9

右近(うこん・稲次) → 盛苗(もりなえ・稲次いなつぐ/有馬、家老) J 4 4 3 0

右近(うこん・戸田) → 氏房(うじふさ・戸田とだ、藩主/歌) E 1 2 3 2

右近(うこん・南部) → 通信(みちのぶ・南部なんぶ、藩主/歌人) K 4 1 0 1

右近(うこん・米倉) → 長昌(ながまさ・米倉よねくら/源、幕臣/歌) K 3 2 1 3

右近(うこん・藤) → 定房(さだふさ・藤とう、神職/藩士) J 2 0 5 9

右近(うこん・生駒) → 柳亭(りゅうてい・生駒いこま、藩士/儒者) F 4 9 2 5

右近(うこん・菅原/齋藤) → 信幸(のぶゆき・齋藤さいとう、神職/国学) D 3 5 6 5

右近(うこん・荒木田) → 末偶(すえとも・荒木田/菊家・菊屋/益谷、神職/歌) B 2 3 2 8

右近(うこん・狩野) → 常信(つねのぶ・狩野かのう、絵師/鑑定/歌) D 2 9 0 2

右近(うこん・狩野) → 周信(ちかのぶ・狩野かのう、常信男/絵師) L 2 8 1 5

右近(うこん・久保倉) → 路草(ろそう・久保倉くぼくら、乙孝/神職/俳人) C 5 2 0 7

右近(うこん・水島) → 苗雅(たねまさ・水島、神職/藩士/典籍採集) S 2 6 0 5

右近(うこん・久保倉) → 弘宣(ひろのぶ・久保倉/大中臣、神職/歌) G 3 7 8 1

右近(うこん・中川) → 経林(つねしげ・中川/荒木田/沢田、神職) C 2 9 2 3

右近(うこん・井面) → 守訓(もりのり・井面いのも/荒木田、神職/国学/歌) G 4 4 2 4

右近(うこん・菅沼) → 吉次(よしつぐ・菅沼すがぬま、藩士/歌人) N 4 7 4 5

右近(うこん・佐々木) → 徳綱(のりつな・佐々木、医者/詩歌) F 3 5 1 5

右近(うこん・花房) → 正矩(まさのり・花房はなぶさ、幕臣/歌) F 4 0 9 8

右近(うこん・菌田) → 一斎(いっさい・菌田そのだ、禰宜/儒詩) E 1 1 1 8

右近(うこん・孫福) → 弘運(ひろかず・孫福まごぶく/度会、神職) F 3 7 6 9

右近(うこん・福武) → 允(まこと・福武ふくたけ、漢学/歌人) 4 0 7 6

右近(うこん・高泉) → 景規(かげのり・高泉たかいずみ/源、藩士) U 1 5 9 2

右近(うこん・磯野) → 政武(まさたけ・磯野/源/平塚、幕臣/歌) D 4 0 3 5

右近(うこん・伊達) → 宗充(むねみつ・伊達だて、領主/民政) D 4 2 9 2

右近(うこん・九里) → 将興(まさおき・九里くのり、藩士/詩人) B 4 0 4 8

右近(うこん・長井) → 雅楽(うた・長井ながい、藩士/開国論) D 1 2 0 0

右近(うこん・円山) → 応瑞(おうずい・円山まるやま/源、絵師) B 1 4 3 3

右近(うこん・浅野) → 忠敬(ただひろ・浅野あさの/藤堂、藩家老) V 2 6 1 9

右近(うこん・黒川) → 勝清(かつきよ・黒川くろかわ、神職/国学) N 1 5 2 7

右近(うこん・疋田) → 千益(ちます・疋田/匹田ひきた、医/歌人) F 2 8 4 0

右近(うこん・小谷) → 芳蔭(よしかげ・小谷こたに、神職/国学者) M 4 7 7 4

右近(うこん・榎倉) → 武文(たけふみ・榎倉えのくら、神職/国学者) V 2 6 9 3

- 右近(うこん・須田) → 為春(ためはる・須田すだ、幕臣/国学) X 2 6 6 5
 右近(うこん・矢野) → 定芳(さだよし・矢野やの、藩士/国学者) P 2 0 6 1
 右近(うこん・土肥) → 幹平(みきひら・土肥どひ、藩士・歌人) J 4 1 8 4
 右近(うこん・景山) → 豊城(とよき・景山かげやま/河村、神職/歌) U 3 1 7 1
 右近(うこん・白井) → 巖(いわお・白井しらい/原、神職/国学) K 1 1 3 2
 右近(うこん・能田) → 誉重(たかしげ・能田のうだ、神職/国学) Y 2 6 9 5
 右近右衛門(うこんえもん・鷹見) → 保具(やすとも・鷹見たかみ、宿場本陣/歌) C 4 5 3 2
 右近右衛門(うこんえもん・鷹見) → 保利(やすとし・鷹見たかみ/南条、商家/歌) G 4 5 2 2
 右近権中将(うこんごんのちゅうじょう・山本) → 実政(さねのり・山本やまもと、廷臣/歌) P 2 0 7 4
 右近将監(うこんしょうげん・小笠原) → 忠雄(ただお/ただかつ/ただたか・小笠原、藩主/故実) P 2 6 2 1
 右近将監(うこんしょうげん・戸田) → 氏房(うじぶさ・戸田とだ/淡路守、藩主/歌) E 1 2 3 2
 右近将監(うこんしょうげん・磯野) → 政武(まさたけ・磯野/源/平塚、幕臣/歌) D 4 0 3 5
 右近将監(うこんしょうげん・大久保) → 忠寛(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁、幕臣) U 2 6 3 9
 右近将監(うこんしょうげん・内藤) → 政義(まさよし・内藤/井伊、藩主/歌) I 4 0 6 9
 右近将曹(うこんしょうそう・辻) → 近友(ちかとも・辻つじ、楽人) N 2 8 0 1
 B1296 右近大夫(うこんだゆう・森本もりもと、昌栄[一瑞]男)?-? 肥後藩士/安南へ渡航;
 1632アンコールワットに仏像奉納、その壁に氏名等墨書;祇園精舎と想定;
 最初の絵図作成?/帰国後鎖国、静山「甲子夜話」入
 父;昌栄 → 一瑞(いちずい・森本、藩士/軍学) G 1 1 2 8
 右近介(うこんのすけ・長坂/松森) → 胤保(たねやす・松森/長坂、藩士/博学) S 2 6 1 1
 右近命婦(うこんのみょうぶ) → 右近(うこん、季繩すえなわの女、歌人) 1 2 1 7
 B1230 迂斎(うがい・稲葉いなば、名;通経/正義、鈴木正則男)1684-1760 77 稲葉政重の養子、
 江戸の儒者;三宅尚斎門、佐藤直方・浅見綱斎門;崎門学修学、1715唐津藩教授、
 「迂斎文集」「迂斎続集」「迂斎別集」「和書集」「続和書集」「警戒録」「浜見録」著、
 「迂斎先生学話」「迂斎先生語録」著、黙斎の父
 [迂斎(;号)の通称] 十五郎/十左衛門
 B1200 迂斎(うがい・三浦みづら、名;義芳、字;元礼/通称;甚兵衛、有隣斎男)1703-67 65 摂津高砂の庄屋、
 製塩業、屋号;塩屋、謡の研究、群産会社中/俳、紀行「東海済勝記せいしよき後編」「熊野紀行」著、
 「筑紫土産」「猿楽詳義」「迂斎文集」「高砂増々抄」「民家生要記」「樹徳堂家誠」「家誠衍義」著、
 [迂斎(;号)の別号] 源卯/迂叟/竹叟、文荊山人/竹裏散人/樹徳斎、魚甫迂台/戛玉かつぎよく堂
 C1201 迂斎(うがい・山本やまもと、名;謙、澹[泊]斎男)1819-1889 71 土佐の儒者;虎山門、
 佐川郷校名教館教授、「迂斎弊帚」著
 右斎(うがい・佐藤) → 鎮定(しずさだ・佐藤さとう、国学者) O 2 1 5 6
 迂斎(うがい・成瀬) → 当職(まさもと・成瀬なるせ、藩士/詩人) H 4 0 9 5
 迂斎(うがい・山口) → 凹巷(おうこう・山口やまぐち、詩人) B 1 4 6 4
 迂斎(うがい・宮田) → 金峯(きんぼう・宮田みやた、藩士/儒者) I 1 6 2 6
 吁斎(うがい・石川) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7
 1220 羽左衛門(初世うざえもん・市村・村山又三郎)1605-52 江戸歌舞伎俳優、村山座創設、堺の人
 1221 宇左衛門(三世うざえもん・市村:字に改称)?-1688 江戸歌舞伎俳優、市村座と改称、座元
 1222 羽左衛門(八世うざえもん・市村:羽に改称)1698-1762 江戸歌舞伎俳優、屋号菊屋、所作事
 B1289 羽左衛門(九世うざえもん・市村:8世男)1725-1785 江戸歌舞伎俳優、俳優家橘、所作事・荒事
 B1290 羽左衛門(十世うざえもん・市村:9世男)1748-1799 江戸歌舞伎俳優、俳優亀全、市村座再興
 B1291 羽左衛門(12世うざえもん・市村:11世次男)1812-1851 江戸歌舞伎作者俳優、俳優3世家橘、
 川柳号;株木かぶき、屋号;橘屋、1819父没;12世襲名/41浅草猿若町住、舞台に櫓再興、
 作;「其浦梅真砂白浪」「輪廻機綱夢白浪」、川柳作者;高砂連;五世川柳期に活躍、
 1827-39頃「柳多留」九三-一四九篇の評者、
 花火屋の正一位なり鍵と玉(柳多留;九三)
 宇左衛門(うざえもん・藤村、歌舞伎役者) → 弥五四郎(やごしろう・福岡) 4 5 6 1
 宇左衛門(うざえもん・木下) → 蘭阜(らんこう・木下/豊臣/木、藩士/漢学) B 4 8 9 8
 宇左衛門(うざえもん・東方) → 祖山(そざん・東方ひがしかた、藩士/儒者) D 2 5 7 7

宇左衛門(うざえもん・岩下)→ 君恭(くんきょう・岩下いわした、儒者) D 1 7 6 2
 宇左衛門(うざえもん・黒沢)→ 四如(しじよ・黒沢くろさわ、藩儒/易学) T 2 1 7 3
 宇左衛門(うざえもん・長野)→ 従業(よりなり・長野ながの、藩士/歌人) O 4 7 2 6
 宇左衛門(うざえもん・本庄)→ 市山(しざん・本庄/塩足、庄屋/俳人) D 2 1 7 2
 宇左衛門(うざえもん・衛藤)→ 実厚(さねあつ・衛藤えとう、国学) O 2 0 0 1
 宇左衛門(うざえもん・富田)→ 和幸(かずゆき・富田とみた、陪臣/国学) V 1 5 1 4
 卯左衛門(うざえもん・遠藤)→ 竹馬(ちくば・遠藤えんどう、俳人) D 2 8 7 2
 卯左衛門(うざえもん・野村)→ 貞則(さだのり・野村のむら、藩士/国学) P 2 0 1 0
 烏鷺の屋(うさぎのや・三谷)→ 句仏(くぶつ・三谷、俳人) D 1 7 3 9
 宇作(うさく・曾谷) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8

C1225 **卯三郎**(うさぶろう・清水しみず、名;直/なほまろ、弥右衛門男)1829-1910⁸² 父は武州羽生の酒造家、名主の家、幼時より母方の伯父根岸友山家において養育され漢学・数学・薬学を修学、江戸で蘭学;箕作阮甫門、1854ロシア使節下田来航時に幕に随行;下田でロシア語を修学、1863(文久3)生麦事件報復のため来航の英国艦に聞書訳解のため乗船;講話談判の斡旋、1867(慶応3)パリ万博に参加、維新後;書物・歯科機器輸入販売/石版印刷、仮名文字推進論者、「ゑんざりしことば」「日本大黃考」著、

[卯三郎(;通称)の字/号] 字;子礼、号;蕪軒/瑞穂屋、法号;瑞穂院

卯三郎(うさぶろう・鏑木)→ 溪庵(けいあん・鏑木かぶらき、絵師) F 1 8 2 3
 卯三郎(うさぶろう・佐藤/長谷川)→ 弘(ひろむ・長谷川/佐藤、和算家) H 3 7 4 6
 卯三郎(うさぶろう・広田)→ 清魚(きよな・広田ひろた/度会/宇治、神職) V 1 6 0 9
 卯三郎(うさぶろう・尾中)→ 善秀(よしひで・尾中おなか、村長/国学) L 4 7 9 1
 卯三郎(うさぶろう・齋藤)→ 雅言(まさこと・齋藤さいとう/菅原/森山、藩士/神風連乱) P 4 0 9 6
 禹三郎(うさぶろう・藤屋、書肆)→ 墨香(ぼくこう・北尾、書/画) E 3 9 6 6
 鶴三郎(うさぶろう・小林)→ 大茂(おおしげ・小林こばやし/三宅、藩士/歌) D 1 4 8 2
 雨山(うざん・岩瀬/小野)→ 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7
 羽山(うざん;道号)→ 維明(いみょう;法諱・羽山、臨濟僧) I 1 1 3 0
 羽山(うざん・関)→ 盈文(えいぶん・関せき、漢学/博物学) D 1 3 3 5
 烏山(うざん・浄勝寺)→ 順藝(じゅんげい;法諱、真宗大谷派僧/歌) J 2 1 4 6
 烏山(うざん・森重)→ 都由(すべよし・森重もりしげ、砲術家) D 2 3 8 6
 迂山(うざん・中岡)→ 慎太郎(しんたろう・中岡、勤王派/討幕) 2 2 5 9

C1226 **宇三太**(うさんた、本名不詳)?- ? 黄表紙、喜三二門、1782「網大慈大悲の換玉」著

C1227 **氏明**(うじあき・大館おおだち、通称;左馬助、宗氏男)?-1342自殺 南朝武将、上州大館出身、伊予守、左馬頭1333鎌倉攻めに父と参加、後醍醐天皇吉野遷幸後伊予守護、足利方細川頼春と戦闘、1342敗北;伊予世田城で自刃、「射犬正法」著

C1229 **氏昭**(うじあき・津守つり、清氏男)?-? 1486存 住吉社神官/連歌:1486宗祇を迎え「何人百韻」催、「文亀日記」「津守氏昭記」著

C1230 **氏章**(うじあき・村田むらた、幼名;鉄五郎、鈴木唯満男/氏暢うじのぶ養子)1757-1830⁷⁴ 越前福井藩士、1788家督、89奥納戸役/1824新番組/25致仕、詩歌、1781「南越雑話」著(:祖父氏純・養父氏暢の業継承)、94「龍虎一夜咄」著、
 [氏章(;名)の字/通称/号]字;子簡、通称;元作、号;竜淵/青牛

B1269 **氏曄**(うじあき・丹羽にわ、近藤司直男)?-1852 豊前小倉藩士/国学・歌:秋山光彪門、1837「大ぬさ辨」著:桂園派中川自休に反駁、小倉六歌仙の1、
 [氏曄の通称/号] 通称;幸之丞/相馬、号;鶏冠園

C1231 **氏著**(うじあき・戸田とだ、通称;伊三郎、氏香男)?-? 江後期幕臣:1819家督/小普請組/46目付、奉行、1859一橋家家老/64大目付/65二条城留守居役/66寄合、1856「御陵御取締伺」、「神武陵ノ記事」著

E1295 **氏斐**(うじあき・吉本よしもと、)? - 1867 讃岐高松藩士;作事奉行、国学者、
 [氏斐(;名)の通称]百之助/弥之助

E1287 **氏曄**(うじあき・北条ほうじょう/伊勢いせ、北条瀬兵衛氏輔長男)1822-86⁶⁵ 長門萩小松江の生、長州藩士:1830(8歳)家督嗣、1837藩校明倫館に修学/45書物方役/52手廻組;戸方大検使、

1854海防のため相模に出張/帰藩;大組/55大坂検使/59西洋学所入、
1863(文久3)当職手元役/蔵元役兼大坂頭人/64(元治元)帰国辞職、
1865表番頭格;所帯方役/66手元役/郡奉行歴任、
1866(慶応2)幕府の追及回避のため伊勢に改姓;華さかえに改名、
1867上々勘算用聞役;討幕軍会計監督、1868新政府徴士;奈良府判事/69倉敷県知事、
1871窮民救助方に専断の処置;謹慎/72退官帰国;文筆生活(茶事・文墨)/詩人/能書家、
1881宮内省京都支庁長官/86(明治19)京に没、
「北条氏華詩文稿」「聖林唱和」「浦賀行日記」著/「小湊遺稿」著、

[氏曄(;)名)の別名/字/通称/号]別名;氏華(北条)/華さかえ(伊勢)、字;君躰くみ、
通称;織之助/瀬兵衛/新左衛門(北条)、号;小湊しょうすう/こしょう(変名)/秋航/管田
氏章(うじあき・菱沼/萱場)→ 傍斎(ぼうさい・萱場かやば/菱沼、藩士) 3 9 9 0

C1232 氏朝(うじあさ/うじとも・藤波ふじなみ、菌田守諸もつら男)1803/4-7573 母;菌田三津代子、
藤波氏高の養子;伊勢内宮禰宜、1819十禰宜/58一禰宜/内宮長官/62従二位、
「神三郡分堺之図」「氏朝長官日次」「氏朝日記草稿」著
[氏朝(;)名)の別名]諸蕃/経高

E1270 氏篤(うじあつ・今田こんだ、通称;茂平)1799-185860 出羽田川郡加茂の大庄屋、和漢学;池田玄斎門、
1844自宅で梵照寺住職魯道の仲介で鈴木重胤が万葉集を講義;庄内の多数の若者が聴講
氏一(うじいち・うじかず・古川) → 氏一(うじかず・古川、和算家) B 1 2 8 2
牛右衛門(うしえもん・小堀) → 定明(さだあき・小堀こぼり、藩士/詩歌) H 2 0 6 4
氏右衛門(うじえもん・守屋) → 義門(よしかど・守屋/森屋/物部、儒/易学) C 4 7 9 3
菟道右衛門(うじだ右衛門うじえもん・遠藤) → 春足(はるたり・遠藤、商人/狂歌) G 3 6 5 1

C1233 氏興(うじおき・藤波ふじなみ/本姓荒木田、別名;氏弘、藤波氏頭男)1371-145181 藤波氏茂の養子、
伊勢内宮禰宜;1396九禰宜/50一禰宜/正五下、歌人、
「応永七年/二十五年内宮仮殿遷宮記」著

1223 氏興(うじおき・友松ともまつ/佐藤、字;忠彦、友松氏盛男)1622-8766 高知生/1634信州高遠藩主側小姓、
1644保科正之会津転封随従/63藩家老、儒;闇斎門/神道;惟足門/歌:公通門、領内地誌編集、
「会津風土記」「土地品集」「百種和歌」「見禰山秘録」、1680「孟浩録」、84家集「不学而詠集」、
「忠彦上言録」、「友松氏興遺稿」「南翁遺文」著、
[氏興の通称/号] 通称;勘十郎/内蔵、号;而翁/而斎/南翁、神号;真彦[忠彦]霊社

C1234 氏臣(うじおみ・岡本おかもと、書博士の氏足男/本姓;賀茂)1823-7351 山城愛宕郡上賀茂神社祠官、
新朔平門院北面、近江守/正四下、書家;賀茂流、
維新の時;新政府軍要請で奥羽征討の参謀などの旗を書く、1841-「岡本氏臣日記」著、
[氏臣(;)名)の別名/通称]別名;樛名麿、通称;玄蕃之丞/讃岐介/近江守
氏香(うじか・座光寺) → 為巳(ためみ・座光寺ごうじ/石尾、領主/歌人) X 2 6 2 6

1224 牛養(うしかい・大伴宿禰おとものおすくね、小吹負男)?-749 奈良期廷臣、739参議/撰津大夫/兵部卿、
749中納言;4月任官/5月末没、安麻呂の従弟、
万葉集中人物;3922-26;746雪肆宴応詔歌左注

1225 牛甘(うしかい・上毛野かみつけの)?- ? 755防人、上野国助丁すけのよほろ・万葉廿4404;
[難波道なにはちを行きて来までと我妹子が付けし紐が緒絶えにけるかも]
宇治加賀掾(うじかがのじょう) → 加賀掾(かがのじょう・宇治、浄瑠璃太夫) 1 5 0 4

1226 氏数(うじかず・東とう、益之[素明]男/本姓;平)?-1471 室町期武将、美濃篠脇城主/下野守、
歌;1442藤原盛隆勸進追善和歌に参加/43前撰政歌合参加、堯孝と親交、新続古今932、
[かへりみる雲のいつこかそれならん知らず月日を故郷の空](新続古;羈旅932)、
[氏数の法名] 素忻[素欣]そきん/宗玄、常縁じょうえん・正宗竜統しょうじゅうりゅうとうの兄

D1254 氏一(うじかず・石尾いしお/本姓;藤原、)1621-170080 江戸幕臣;寄合、氏信の父、
[氏一(;)名)の別名/通称/号]別名;治重、通称;七兵衛/長三郎/勘右衛門、号;宗雪

B1282 氏一(うじかず・古川ふるかわ、別名;謙、氏清男)1783-183755 江戸の和算家;父門、円理豁術;和田寧門、
父没後家塾の督学;至誠賛化流を広める、1797「諸角書様図解」1803「額面論義」著、
1829「算法弧矢弦解考」、「算学大系図」「珺童先生義解」「珺童先生筆題」著、氏朝の父、
[氏一(;)名)の字/通称/号]字;珺童/珺璋、通称;新之丞、号;芳春、法号;泰寛院、

- 宇治嘉太夫(うじかだゆう) → 加賀掾(かがのじょう・宇治、浄瑠璃太夫) 1 5 0 4
 氏勝(うじかつ→うじまさ・藤波) → 氏勝(うじまさ・藤波/荒木田、神職) C 1 2 3 5
- 1227 氏兼(うじかね・一色いっしき/本姓;源、法号;一翁全心、直氏男)?-1435 室町期廷臣;阿波守、
 五位/宮内少輔、右京亮、歌人;新拾遺1329、
 [照射としする夏野の鹿の音にたてぬ思ひもかくや苦しかるらん](新拾遺;恋歌1329、
 照射は狩人の鹿を追い出すための篝火)
- C1236 氏鐵(うじかね・戸田どだ、初名;重氏、一西男) 1576-1655・80 母;真木氏常女、三河二連木の生、
 1589徳川家康の家臣、1600関原参戦/1603近江膳所藩主;父の遺領/1616尼崎/35大垣移封、
 10万石、37島原出兵/51致仕、文教振興、「志学文集」編、「八道集」「戸田左門覚書」著、
 [氏鐵の通称/号] 通称;新二郎/左門、号;常閑
- C1237 氏上(うじかみ・大伴宿禰おともすくね、823伴とも宿禰に改姓)?-? 平安前期廷臣;833右中弁/
 834造船使長官/836修理遣唐舶使長官、正五下、詩人;凌雲集1首入
- 1228 氏清(うじきよ・山名やまな、時氏男/本姓;源) 1344-91討死 48 武将;1321丹波/78和泉/82山城守護兼任、
 足利義満の命で1389同族時熙・氏幸を攻撃/90但馬守護、幕府に反旗;明德乱中心人物、
 1391山城合戦で敗北;押小路大宮で一色詮範に討たれる、歌;新後拾遺1116、
 [あはざりしつらさをかこつ言の葉に今だにぬるる新枕かな](新後拾;恋1116)、
 [氏清の称/法号] 陸奥守/伊豆守/民部少輔、法号;宗鑑寺古鑑衡公
- B1283 氏清(うじきよ・古川ふるかわ、別名;随、氏美男) 1753-1820・68 幕臣;1759家督継嗣/奥右筆、
 1811従五下和泉守、1816勘定奉行、
 算学者;中西流;関川美郷門/久留島流;安井信名門/関流;栗田安之門、
 三和一致流(至誠賛化流)を称す、1780「愛宕額答術解」82「饗応算法」84「古川氏算額論」、
 1798「円中三斜矩」「算則」/1818「側円求積明解」著、「数学雑著招差審解」/「風箏全書」編、
 [氏清の字/通称/号]字;瑠璋、通称;吉次郎/吉之助、号;不求、法号;温良院、氏一の父
- 氏精(うじきよ・水無瀬) → 実徳(さねのり・園池/藤原/水無瀬、廷臣) L 2 0 2 4
 宇治郷散人(うじごうさんじん) → 経平(つねひら・土肥典膳、故実家) D 2 9 5 1
 牛籠(うじごめ・田畑) → 吉正(よしまさ・田畑/田端/源、幕臣/系譜) H 4 7 0 8
 牛五郎(うじごろう・中川) → 忠英(ただてる・中川、幕臣/奉行/文筆) F 2 6 3 4
 丑左衛門(うじざえもん・鶴峰) → 南北(なんぼく・5世鶴屋、孫太郎南北) 3 2 3 6
- 1229 氏定(うじさだ・藤原ふじわら)?-? 南朝廷臣/中納言、歌人;
 新葉集6首(176/265/265/327/664/735/1259)入集、
 [つれなさを程を知らせて有明の月にも鳴かぬほととぎすかな](新葉;夏176)
- C1269 氏貞(うじさだ・北条ほうじょう、氏朝の長男) 1703-58・56歳 河内狭山藩主;1735襲封、従五下相模・美濃守、
 藩政改革;藩士間の対立激化;狭山騒動(1760息子氏彦の代)の原因、「願成就院修治記」著
 [氏貞(;名)の通称]通称;亀之助/左京、法号;広覚院
- 氏貞(うじさだ・大館) → 氏晴(うじはる・大館おだち、故実家) C 1 2 6 0
 氏貞(うじさだ・笹) → 丘高(きゅうこう・笹ささ、神風館13世/俳人) M 1 6 5 2
- E1277 牛郷(うじさと・滝たき、旧姓;柳田) 1743-1812・70 信濃飯田藩士;江戸留守居役、
 歌人;加藤千蔭・村田春海門、
 [牛郷(;名)の通称/号]通称;平右衛門、号;樗牛/兄風/江風/白豕はくし
- C1238 氏郷(うじさと・宗像むなかた、氏弘男)?-? 室町中期筑前宗像社大宮司、
 「宗像宮年中行事」「宗像宮年中大小神事次第」編
- 1230 氏郷(うじさと・蒲生がもう、賢秀男) 1556-95・40歳 武将;信長・秀吉臣、妻;織田信長女、近江日野城主、
 伊勢松坂城主/会津若松城主、1591従三位/参議、歌/連歌;宗養・里村紹巴門、
 1592「蒲生氏郷紀行」、「中山道紀行」著、茶;千利休門;利休七哲の1、
 [信濃なる浅間の岳も何を思ふ我のみ胸をこがすと思へば]、
 [氏郷(;名)の幼名/別名/通称/法号]幼名;鶴千代/忠三郎、
 別名;賦秀/教秀/敷秀/レオン(;洗礼名)、通称;飛驒守、法号;昌林院
- E1298 氏実(うじざね・荒木田あらかた、忠成男)?-? 平安鎌倉期;伊勢内宮神職/歌人、
 1233刊[御裳濯集]入、
 [ほととぎすまつにしるしのなきかるとて尋ねぞきつる三輪の杉むら](御裳濯集;夏198)

- 1231 **氏真**(うじまね・今川いながわ・幼名;五郎/彦五郎/三丸、義元男)1538-1614⁷⁷ 母;武田信虎女、安桃期武将、1560父の討死;家督嗣;領地を喪失/徳川家の庇護を受け風流に遊ぶ、歌、連歌作者、書;尊鎮法親王流、蹴鞠を嗜む、子孫は江戸幕府の高家となる、「今川氏真百首」「今川氏真詠草」「今川氏真集」「宗閻そうぎん集」「法楽百首」著、
[氏真(;名)の号] 仙巖齋/宗閻そうぎん、法号;仙岩院
宇治左府(うじさふ) → 頼長(よりなが・藤原) 4 7 3 4
丑三郎(うしさんろう・広田) → 正陽(まさはる・広田ひろた/度会/中須、神職/絵師) S 4 0 2 1
菟道山樵(うじさんしょう) → 元愷(げんがい・平沢、旭山、儒者) B 1 8 3 9
- 1232 **氏成**(うじしげ/うじなり・姓不詳)?- ? 廷臣;従三位、歌人、1346成立「風雅集」1474、
[九十このそぢあまり老いぬる身にもなほ花にあかぬは心なりけり](風雅;雑1474)
- E1297 **氏重**(うじしげ・佐々木ささき/本姓;源)?-? 鎌倉南北期;武士/歌人、
1345?刊「藤葉集」入、
[せきかぬる袖の涙のいかなれば我がうき名をもをしまざるらん](藤葉;恋400)
- B1231 **氏重**(うじしげ) ? - ? 伊勢の神官/連歌、1679「延宝千句」入
- E1230 **氏重**(うじしげ・渡邊わたなべ) ? - ? 江前期京の俳人、1676西鶴「古今誹諧手鑑」入、
[雪降れば木毎に餅のなる世哉](手鑑/諺[木に餅の生るやう]、
古今;冬337紀友則/雪降れば木毎に花ぞ咲きにけるいづれを梅とわきて折らまし)
- E1245 **氏しげ**(うじしげ・千葉ちば) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[かは竹の身にも誠のうちとけてなさは色にあらはれにけり]、
(大江戸倭歌;雑1982/半醉美人)
- 氏茂(うじしげ・伊勢新九郎) → 早雲(そううん・北条/伊勢、武将/城主) G 2 5 0 6
氏重(うじしげ・祝部はうりべ) → 常元(じょうげん;法諱、僧/歌人) R 2 2 4 7
宇治紫文齋(うじしぶんさい) → 紫文齋(初世しぶんさい・宇治、歌/狂歌) F 2 1 6 0
宇土新(うじしん) → 明霞(めいか・宇野、儒者/詩人) 4 3 0 7
- 1233 **氏祐**(うじすけ・丹羽にわ、氏胤男)1765-1821 岐阜材木商/1783家督/町総年寄;町政参画、
歌;冷泉為泰門/心学;久世友輔・上河洪水門、蓬原舎設;教授/美濃心学の中心、
1817「鸚鵡問答」、「都大谷詣之記」著、
[氏祐の通称/号]通称;与三右衛門よそえもん/与作、号;伯亭/令新亭
氏助(うじすけ・浜松) → 歌国(うたくに・浜松、読本/随筆/脚本) 1 2 6 7
宇治大納言(うじだいなごん) → 隆国(たかくに・源、説話集/歌人) 2 6 0 8
- C1239 **氏純**(うじずみ・村田むらた、明石貞弘男)1713-88^{76歳} 村田氏庸の養子;越前福井藩士/1740番改役、
1766番外兵学講釈/76目附役/84上領郡奉行役人席、詩歌/藩故実、
「越藩貴耳録」、1743「越藩拾遺録」48「南越雑話」著、
[氏純(;名)の幼名/別名/通称]幼名;小十郎、初名;氏春、通称;左伝/元作/十太夫
- C1240 **氏純**(うじずみ/うじひろ・多羅尾たらお/本姓;藤原、別名;氏比呂、光崇男)1778-1835^{or4158-64} 幕臣:
近江甲賀郡信楽の代官、1814家督嗣;伊勢四日市を所領/采地内に法令制定/文武奨励、
国学;本居大平門/萩原広道門/歌を嗜む、妻;雅枝まさえ(中井家/歌人)、
「青柳枝伐下考」「荊萩尾乃方言」「かはづ之附記」「多羅尾村の年中行事」著、
1818「荊萩峯邑風俗」編(;弘賢「諸国風俗問状答」所収)、1819「沢田川久爾都能考」、
大平撰「八十浦の玉」下巻;長歌[吉野山]など入、庶長子の氏門ひろかどが家督嗣、
[五百鳥 千鳥はあれど 朝さらず 吾家わざへの園に 夕さらず 吾家の梅に 時自久に
来つつ木づたひ 鶯の 鳴くなる声は あやによろしも](八十浦;703鶯)、
[氏純(;名)の幼名/通称/号]幼名;亀万呂、通称;織之助/久三郎/鞆負、号;櫻舎/櫻齋、
法号;歆受院
丑蔵(うじぞう・関) → 沢雉(たくち・関せき、名主/剣術/俳人) O 2 6 1 1
宇志蔵(うじぞう・高橋) → 元貞(もとさだ・高橋たかはし、医者) C 4 4 5 3
宇治贈太政大臣(うじぞうだいいじょうだいじん、菟玖波集) → 頼長(よりなが・藤原、廷臣) 4 7 3 4
宇治大納言(うじだいなごん) → 隆国(たかくに・源、宇治大納言/歌人) 2 6 0 8
- E1291 **氏孝**(うじたか・水無瀬みなせ/本姓;藤原、兼豊男;実は祖父氏信男)1675-1741⁶⁷ 母;堀河則康女、

京の廷臣;1695従四上/1703(元禄16)従三位/1704(宝永元)治部卿、
1711(正徳元/37歳)参議/刑部卿/12正三位/16石清水放生会参向/17東照宮奉幣使、
1718(享保3/44歳)権中納言/20辞任/21従二位/36(元文元/62歳)正二位/41(寛保元)没、
兼条・経業・忠成の父、和学者

- C1241 **氏武**(うじたけ・和田たけ、通称;甚五兵衛、号;文山)?-? 江後期陸中盛岡藩士、新渡戸維民と交流、
「二郡見聞私記」著
氏筠(うじたけ・福島/林/荒木田)→斎震(さいしん・荒木田/福島、神職/詩)G 2 0 7 8
- 1234 **氏忠**(うじただ・荒木田あきだ/家名:家田、初名;延忠?、延季男)1228-75?48? 伊勢神職;1243内宮禰宜、
歌;勅撰4首;新後撰1505/続千載914/新千載949/新拾遺790、氏之うじゆきの父、
[ふり捨てて誰かは越えん鈴鹿山関屋はよはの月ももりけり](新拾遺;九羈旅790)
- C1242 **氏忠**(うじただ・大炊御門おおいのみかど、別名;氏宗、冬氏男/本姓;藤原)1302-? 1352存 廷臣;1322参議、
1342権大納言/正二位、光厳院の側近/持明院統加担/52出家;法名;紹済、
連歌;菟玖波6句入(前大納言名)、
母;藤原景俊女(遊義門院美濃)、冬信/家信の異母兄、家氏の父、
[別れほどなき春の夜の夢](菟;54/前句;有明の霞む枕に鐘きゝて)
- B1232 **氏忠**(うじただ) ? - ? 連歌師、1475「因幡千句」兼載らと催、
1476「表佐千句」参加、
[浅茅あさぢがくれの秋の草](因幡千句;何路連歌/前句清玉;急ぐ心に近きふるさと)
- E1264 **氏辰**(うじたつ・紀きの、御随身の藤原武速男)1656-171156 左官掌紀亮房の養嗣子、
京の廷臣;1670左官掌/86伊豆目/87神祇官史生/83右衛門少尉兼任、1707和泉守、
1709正六下・東宮帯刀、妻;御厨子所預の紀宗恒の女、氏兼の父、和学者、
[氏辰(;名)の通称]通称;伊豆守
- 1235 **氏胤**(うじたね・東とう/本姓;平、通称;八郎/千葉介、千葉貞胤男)1334-64?31? 武将、足利尊氏の臣、
上総/下総/伊賀守護、1345天童寺供養に参加、直義・新田義宗と戦闘/病没、新千載集1084、
[人知れずいつしか落つる涙河わたるとなしに袖ぬらすらん](新千載;恋1084)
- C1243 **氏胤**(うじたね・藤波ふじなみ、通称;右[左]衛門/修理、荒木田氏昇男)?-1675 伊勢内宮権禰宜、
藤波家の祖、歌を嗜む、1675「荒祭宮御飾記」「伊賀諾宮御飾記」、「藤波修理等書状」著
氏胤(うじたね・東) → 素珊(そさん・東とう/平、1427-95/武将/歌)D 2 5 7 5
- E1262 **氏足**(うじたり・岡本おかもと/本姓;賀茂県主)1792-184049 山城愛宕郡上賀茂神社社家、
書;岡本保考門、書博士;賀茂流、近江守、歌人、岡本氏臣の父
[氏足(;名)の初名/通称]初名;氏祥、通称;捨千代/左衛門/近江守/甲斐守
牛太郎(うじたろう・阿部) → 知翁(ちおう・阿部あべ、藩士/和算家) 2 8 5 0
丑太郎(うじたろう・夏目) → 信明(のぶあき・夏目なつめ、幕府/歌) G 3 5 6 6
丑太郎(うじたろう・瀬川) → 則孝(のりたか・瀬川せがわ、藩士/国学/歌) I 3 5 7 9
氏太郎(うじたろう・蜂須賀) → 茂韶(もちあき・蜂須賀はちすか、藩主/政治) K 4 4 9 9
- 1236 **卯七**(うじち・蓑田みのだ、通称;八平次、別号;十里亭)1663?-1727/47?65-85 肥前長崎唐人屋敷組頭、
俳人;芭蕉門、去来と親交(去来の義理の従弟)、1702「渡鳥わたどり集」去来と共編、
1705去来1周忌追善集「十日菊」編、「俳諧卯七問答」著、
1695浪花「有磯海」98「続有磯海」入/1691「猿蓑」(2句)・94「炭俵」(1句)・98「続猿蓑」(1句)入、
[俳や菊も名に散る日は十日](十日菊;去来は手向句)、
[誰とても健すやかならば雪のたび](猿蓑;卷一)
- 1237 **氏親**(うじちか・今川いまがわ、通称;彦五郎、義忠男)1473-152654 武将;駿河守護/従四上、
母;北条早雲の妹、氏輝・義元の父、1479家督嗣;上総介/治部大輔/修理大夫、
1526分国法「今川仮名目録」制定、歌・連歌を嗜む/三条西実隆・宗長・素純と交流、
歌:「続五明題集」素純と共編、連歌;「出陣千句」「浅間千句」の発句/「両吟連歌」写
[氏親(;名)の幼名/通称/法号]幼名;竜王丸、通称;彦五郎、法号;増善寺喬山紹偲
- C1244 **氏親**(うじちか・江間えま) ? - ? 江前期元禄1688-1704頃飛騨の兵学家、
諸国陸海路探索;軍用のため河川の深淺・間道など調査、1696「行囊抄」著
氏周(うじちか・宮原) → 義周(よしちか・宮原みやはら/源、幕臣;高家)E 4 7 5 2
- C1245 **宇七兵衛**(うしちべゑ・永井ながい、鼎山、俳人鳳朗男)?-? 江中期;1763肥後五町手永の総庄屋、

「拾芥圃記」著

卯七郎(うしちろう・山田) → 公章(きみあき・山田、藩士/兵学) L 1 6 9 9

迂思陳人(うしちんじん) → 眞楯(まかじ・渡辺/大岡、幕臣/教育) 4 0 4 8

- C1246 氏次(うじつぐ・丹羽にわ、通称;六郎/勘助、法号;大翁院、氏勝の長男)1550-1601⁵² 三河の武将、初め父を相続;三河岩崎城主/織田信長・信雄の家臣;勘気を蒙る/徳川家康の家臣、長久手戦で戦功/織田信雄に再度従い小田原の役に出陣、信雄配流後;豊臣秀次の家臣、1600家康の軍として会津に出陣/石田三成挙兵に東軍に属し美濃岩村城攻めに従う、関ヶ原で戦功;初代三河伊保藩主;1万石、1585「長湫記」著
- C1247 氏継(うじつぐ・森もり/本姓;道体どうたい)?-? 江後期筑後柳川和算家;至誠賛化流相伝、1834「算学筌蹄」著、55「雨水考」校、「算家系図」「雑問詳解」編、「渾発測量」「町見八線儀大全」著、[氏継の通称/号] 通称;伊三郎/鬼一、号;楽水/生葉軒瓊山
- 1238 氏綱(うじつな・宇都宮うつのみや、公綱男/本姓;藤原)1326-1370^{45歳} 母;千葉宗胤女、越後の武将、従五下/下野守伊予守、下野宇都宮10代当主/下野守護・父は南朝側の武将、氏綱は尊氏の家臣;武功;1352観応の擾乱後上杉憲頭(越後・上野守護職)を授与、鎌倉公方足利基氏の家臣;薩埵山体制の一翼を担う、基氏の信任厚い上杉憲頭が赦免;旧領返還を求め氏綱が拒否;基氏の怒りで追討される、越後・上野守護を解任、1368基氏没後足利氏満に対し挙兵;敗北/失意の中紀州出陣;病死、妻;斯波高経女、基綱・氏広・女子(今泉元朝妻)の父、歌;新千載1408、[うき人もさすがいそがぬ別れぢに心をつくる鐘のおとかな](新千;十三恋1408)[氏綱(;名)の幼名/通称/号]幼名加賀寿丸、通称;四郎、号;南齡庵、法号;元山禅綱
- B1270 氏綱(うじつな・北条ほうじょう/旧姓;伊勢、通称;新九郎、早雲男)1486-1541⁵⁶ 戦国武将、1518家督嗣;居城移転;葦山から小田原城主;1538足利義明を討ち武蔵両総に勢力、息子氏康に「五箇条の訓戒」
- 1239 氏経(うじつね・斯波しば、法号;道栄、高経男/本姓;源)?-? 南北期武将;父と逆に足利幕府方、義高父、1361鎮西管領/63高崎から周防に退却/68出家;嵯峨隠棲、歌;頓阿と親交、勅撰6首;新千載(1792)新拾遺(935/1610/1729)新後拾(545/1210)、[露霜の岡への真葛まくらみわびかれ行く秋にうづら鳴くなり](新千;雑1792)
- 1240 氏経(うじつね・藤波ふじなみ/別姓;瀬木、氏貫男/本姓;荒木田)1402-87⁸⁶ 伊勢内宮禰宜;1462一禰宜、皇太神宮祭祀の規範整備、連歌作者;伊勢連歌の中心、「氏経日記」「寛正年中日記」著、「内宮風日祈宮遷宮記」編、「荒木田両門系譜」外記録多数、息女は荒木田守武の母
- E1252 氏恒(うじつね・石野いしの、)1837-1869³³ 筑後久留米藩士、氏温うじぬの兄、国学者、[氏恒(;名)の初名/通称]初名;氏栄、通称;道太郎/理右衛門/道衛
- E1257 氏常(うじつね・小幡おはた、)? - ?明治頃没 筑前秋月藩士;藩校稽古館手伝、国学者、[氏常(;名)の通称/号]通称;直右衛門、号;岩根
- 牛貫(うしつち・蒙々斎、杉浦) → 蒙々斎(もももうさい・狂歌作者) 4 4 6 0
- C1248 氏貫(うじつち・藤波ふじなみ/本姓;荒木田)?-? 南北-室町期伊勢内宮権禰宜、「長官代始賞事」編
- C1250 氏貫(うじつち・松江まつえ、少吾の長男)1829-68⁴⁰ 加賀大聖寺藩士;1861無扶持新組御雇、漢学;東方ひしがた芝山門、1866御徒並御雇、書に長じ銭手形役所筆役を勤む、「杉垣私史」著、[氏貫(;名)の通称/号]通称;喜之助、号;杉垣さんえん
- 氏秀(うじつち・藤波/荒木田) → 氏秀(うじひで・藤波、神職/連歌) C 1 2 6 6
- 氏鉄(うじてつ・戸田) → 氏鐵(うじかね・戸田、藩主) C 1 2 3 6
- 1241 氏輝(うじてる・今川いまがわ、通称;五郎、氏親男)1513-36^{早世24} 室町期武将;駿河守護;1526家督嗣、従五下/上総介/修理大夫、母;中御門宣胤女、1533遠江の検地実施、歌;冷泉為和門、「三十種歌合」父氏親と詠、連歌;宗長と興行;31夢想百韻、法号;臨濟寺用山玄公
- C1251 氏辰(うじとき・紀き/家名;小野、藤原武速男/紀亮房養子)1656-1711⁵⁶ 廷臣;左官掌/1707和泉守、1708東宮帯刀/従六下、1679「石清水放生会参向部類」編/87「氏辰記」著、「放生会記」編
- C1252 氏俊(うじとし・宗像むなかた、氏長男)?-? 南北期宗像社大宮司/尊氏再起宿所;恩賞;五か村地頭職、「宗像年中大小神事次第」編
- E1247 氏辰(うじとき・井手いで、伊房これぶさ男)1680-1753⁷⁴ 筑前福岡藩士/国学・歌人、

- [氏辰(；名)の通称/号]通称；勘之進/勘七(代々の通称)、号；桃林
 宇治殿(うじどの) → 頼通(よりみち・藤原、宇治関白) 4 7 3 9
 宇治殿(うじどの) → 光明天皇(こうみょうてんのう、北朝、歌) B 1 9 9 3
- B1233 氏富(うじとみ・藤波ふじなみ/本姓荒木田、氏吉男)1605?-8783 伊勢内宮禰宜/1648一禰宜/従二位、
 1674両宮間の牛谷坂開削、「氏富記」「伊勢両宮服仮令」「当宮炎上覚書」「正保二年記」編、
 連歌、宗因を招聘、1679「延宝千句」催、「昌琢点百韻連歌」、「慶安五年和歌五十首」
- C1253 氏侍(うじとも・山本やまもと、別名；氏誠/氏盈、氏之うじひさ男/本姓賀茂)1633-170270 山城の貴布禰社祝、
 従四下、神道；父門、評定衆、1679「氏侍日記」、「九条殿御流遷宮次第」著
- 1242 氏朝(うじとも・北条ほうじょう、通称；龜之助/左京、氏利[氏叔]男)1669-173567 河内狭山藩主、
 1696襲封；遠江守/伏見奉行/寺社奉行、劍術；一刀流/仏学；法雲寺恵極門、
 後室；秋月種信女の信子(歌人)、氏貞の父、
 歌人；「北条氏朝詠百首和歌」「氏朝東下和歌」「古今伝受資料」、1717「万葉書」著
- E1274 氏伴(うじとも・伊達だて、)1764- 183168 伊勢四日市の国学者；本居宣長門、
 [氏伴(；名)の別名/字/通称/号]別名；茂伴/是保、字；子奂しかん、通称；源三郎、
 号；篋亭けんてい
 氏朝(うじとも・藤波) → 氏朝(うじあさ・藤波ふじなみ/菌田、神職) C 1 2 3 2
 氏寅(うじとら・西山) → 退溟(たいめい・西山、詩文) L 2 6 0 9
- 1243 氏直(うじなお・源みなもと/今川?、氏弘男?)?-933? 南北期廷臣；五位中務大輔?/歌；新後拾遺1404、
 [うきものと思ひ知りても過ぐる世をいかにすむ身と人の見るらむ](新後拾；雑1404)
- B1271 氏直(うじなお・北条ほうじょう、氏政男)1562-159130 武将、小田原城で秀吉に降伏/高野山に追放、
 歌；[浪のよるみるめを近み山谷の廻り名におふ鎌倉の里]
 氏直(うじなお・大橋) → 丸磨(まるまろ・四角亭しかくてい、戯作者) K 4 0 2 1
- C1254 氏長(うじなが・成田なりた、法名；無関采鉄、長泰男)1542-9554 武州忍城主；1566家督嗣、下総守、
 1590秀吉の小田原攻で敗北；蒲生氏郷預り/91赦免；下野烏山城主、文禄役には名護屋城詰、
 連歌；紹巴らと連歌会催/1590-91天正十八・十九年百韻連歌；「初何百韻」「何木百韻」等
- 1244 氏長(氏永うじなが・北条ほうじょう、別名；梅千代/正房、繁広男)1609-7062 幕臣；旗本/徳川秀忠の家臣、
 のち徳川家光の側近、徒歩頭、1655大目付/甲州流軍学大成；北条流軍学を創始、
 オランダ兵学導入、1657明暦大火の復興地図を作製、「土鑑用法全書」「土鑑便蒙」著、
 「北条流軍法一騎揃」「兵法正伝」「慶元記」「結要土鑑」外著多数、氏平・元氏・氏如の父、
- C1255 氏命(うじなが・藤波ふじなみ/本姓；荒木田、世木親富男)1825-190480 藤波氏養の養子/伊勢内宮禰宜、
 三禰宜、俳人/生花を嗜む、「藤波氏命日記」著
- 1245 氏成(うじなり・水無瀬みなせ、兼成男/本姓；藤原)1571-164474 母；阿波足利家、廷臣；歌人、
 1607(慶長12)従三位/13参議(慶長18)/26(寛永3)正二位・権中納言、
 1642(寛永19)出家/法名；是空、1644(正保元)没、兼俊(1593-1653)・隆修の父、
 歌；「新類題和歌集」編、1638「後鳥羽院四百年忌御会」参加；「隱岐記」(20首)著；院墳墓参拝、
 「富士五十首」「詠富士和歌」著
 [その名さへ春のゆかりの藤袴こき紫は秋に見せけり](後鳥羽院忌；55/蘭ふぢはかま)、
 [いにしへを思ひやりても身をやくはおきの小嶋の明暮れの空](隱岐記；3/燠と隱岐)、
 [氏成の法号]是空
 氏成(うじなり・姓不詳) → 氏成(うじしげ、風雅集歌人) 1 2 3 2
 鶴士寧(うじねい) → 士寧(しねい・鶴殿) F 2 1 3 9
 宇治関白太政大臣(うじのかんぱくだいじょうだいじん) → 頼通(よりみち・藤原) 4 7 3 9
 牛之丞(うしのじょう・ト田) → 清明(きよあき・ト田しめだ、国学者) U 1 6 4 9
 牛之助(うしのすけ・藤田) → 安貞(やすさだ・藤田/北川、藩士/奉行) B 4 5 4 7
 牛之助(うしのすけ・湯沢) → 慧恭(えきょう；法諱・可円、浄土僧) D 1 3 6 9
 牛之助(うしのすけ・井手) → 伊房(これふさ・井手いで、藩士/歌人) Q 1 9 2 7
 牛之助(うしのすけ・井手) → 氏房(うじふさ・井手いで、藩士/歌) E 1 2 4 8
 牛之助(うしのすけ・井手) → 伊明(これあき・井手/山内、氏房の養嗣/藩士/歌) Q 1 9 2 8
 丑之助(うしのすけ・香月) → 春岑(はるみね・香月かつき、醸造業/国学者) G 3 6 9 7
 丑之助(うしのすけ・鬼沢) → 大海(おおみ・鬼沢おにさわ、国学者/歌) C 1 4 8 4

- 丑之助(うしのすけ・国司) → 親相(親輔ちかすけ・国司くにし/高洲、藩士/歌) B 2 8 0 6
 宇治左大臣(うじのさだいじん、宇治左府) → 頼長(よりなが・藤原、日記) 4 7 3 4
 宇治僧正(うじのそうじょう) → 覚忠(かくちゅう・長谷前大僧正、天台僧/歌人) 1 5 6 4
 宇治贈太政大臣(うじのぞうだいじょうだいじん、菟玖波集) → 頼長(よりなが・藤原、廷臣) 4 7 3 4
 宇治大将(うじのたいしょう) → 通房(みちふさ・藤原、廷臣/歌) C 4 1 4 1
 宇治入道前太政大臣(うじのいゅうどうさきのだいじょうだいじん) → 頼通(よりみち・藤原) 4 7 3 9
- B1234 氏延(うじのぶ) ? - ? 伊勢神官、連歌、1679「延宝千句」入
- E1251 氏信(うじのぶ・石尾いお/本姓:藤原、氏一男) 1669-1708 40 江戸幕臣;長崎奉行(1703-05)、
 江戸勘定奉行(1705-08)、
 [氏信(;名)の通称] 織部/犬松/阿波守
- C1249 氏暢(うじのぶ・村田むらた、通称;元作、氏純うじずみ男) 1741-77 早世 37 越前福井藩士、氏章の養父、
 父氏純の業を継承;1772「南越雑話中巻」編、父より先に没
- E1261 氏順(うじのぶ・太田おた、通称;玄中、之信ゆきのぶ男) ?-1871 信濃飯田藩士、歌人;父・祖父共に歌人、
 国学・歌;父(飯田藩医/植松茂岳門)門/祖父中彦(飯田藩医/内山真竜門)も国学者
 藩主に随行し神戸に従軍;湊川神社に藩士60余人と共に夜燈を奉獻、
 大宮神社の楠神社創建にも尽力
- 氏信(うじのぶ・金春) → 禅竹(ぜんちく・金春こんばる、能役作者) 2 4 3 4
 氏信(うじのぶ・武田) → 信頼(のぶより・武田ただた、武将/日記) E 3 5 0 7
 氏信(うじのぶ・馬場) → 一梯(いつい・馬場ばば、儒者/書家) H 1 1 6 6
- C1256 氏徳(うじのり・賀茂かも・西池にしいけ、通称;左兵衛尉) 1619-92 74 山城愛宕郡の貴布禰社の御師、
 若宮社禰宜/新宮社祝/正四下、1679「氏徳日記」著
- C1257 氏教(うじのり・戸田とだ/本姓:藤原、松平武元5男) 1755-1806 52 戸田氏英の養子;氏教と改名、
 美濃大垣藩主;1768襲封/侍従・采女正、従四下、藩財政再建、奏者番/寺社奉行/側用人、
 1790老中;ロシア使節への対応/1803老中首座、大垣藩中興の人とされる、
 1798「諸御用留」著、歌;加藤枝直門、1798広道「霞関集」入、
 [ひとしほの緑をそへて千世よばふ声ものどけき松の春風](霞関;春18/聖廟法楽)、
 [氏教(;名)の別名/通称]初名;元起、通称;栄之進/采女正
- B1272 氏徳(うじのり・戸田とだ、通称;卓太郎、主膳男) ?-? 江後期幕臣;1821書物御用心得手伝/24調書頭取、
 1829御書院番/儒・国学;資料編纂、23「編脩地誌備用典籍解題」共編(総裁間宮士信らと)、
 1826「番外雑書解題」著、28「記録解題」共編
- C1258 氏範(うじのり・戸田とだ、通称;範之進、土屋彦直男/高家戸田氏敏の養嗣子) ?-1860 江後期幕臣、
 侍従、1850養家の家督嗣;1851高家、1850「家督年始五節句月並出仕諸案調」著
- E1284 氏紀(うじのり・速水はやみ、) 1809-1872 64 美濃羽栗郡の酒造業、歌人、
 [氏紀(;名)の別名/通称]初名;景幸、通称;豊四郎/又四郎
- 1246 宇治若郎子(日本紀名:菟道雅郎子・うじのわかいらつこ、応神天皇の皇子) ?-? 記紀歌謡/漢学;王仁門、
 仁徳天皇と皇位を争う
- 氏華(うじはな・北条) → 小湊(しょうすう・北条ほうじょう氏華、詩文) K 2 2 1 7
- 1247 氏春(うじはる・細川ほそかわ、通称;彦四郎、師氏男/本姓源) ?-1387 南北朝武将/1348淡路守護相続、
 兵部少輔/淡路守、清氏きよよしと南朝方/清氏敗死;北朝方、歌;新後拾遺686、
 [五月雨になほ水深き湊田はいそぐ早苗もとりてぞかねぬる](新後拾;雑春686)
- C1259 氏張(うじはる・丹羽にわ、通称;織江) 1699-1781 83歳 尾張藩士/知新流手裏剣;浅野伝右衛門門、
 丹羽流剣術創始、「水哉伝」著、「長久手戦役地図」画
- C1260 氏晴(うじはる・大館おだち、別名;教美/氏貞、氏義男) 1756-1838 83 近江彦根の故実家、諸礼に通ず、
 1830-44頃伊予で家祖氏明の古城跡に碑建立、1836「五倫訓」、「女訓百ヶ条」「礼学要種」著、
 [氏晴の通称/号]通称;亀吉/中務/主水/礼三/謙堂、号;天涯/明礼堂/不知企みどう齋/好問齋
- 氏春(うじはる・村田) → 氏純(うじずみ・村田むらた、藩士/故実) C 1 2 3 9
 氏春(うじはる・藤野) → 木槿(もくきん・藤野、儒者/仏/道教) 4 4 7 6
 宇遅部黒女(うじべのくろめ) → 黒女(くろめ・宇遅部、万葉歌人) 1 7 1 5
- E1299 氏彦(うじひこ・度会わたらい、清章男) ?-? 平安鎌倉期;伊勢外宮の神職・歌人、
 彦章の孫/為彦の兄/通章の父、歌;1233刊[御裳濯集]入、

- [あはれいかに吉野の奥に住む人の心のままに花をみるらむ](御裳濯集;春126)
- C1262 氏彦(うじひこ・藤波ふしなみ/本姓;荒木田)1725-8157 伊勢内宮の禰宜;1781一禰宜/正三位、
「氏彦長官日次記」「元文二・三・五年日次記」「寛保二年日次記」著
- 1248 氏久(うじひさ・賀茂かみ・松下、能久男/後鳥羽院落胤説あり)1211-8878 松下家の祖/上賀茂社神主、
父能久は後鳥羽院の近臣、歌人;1263住吉社歌合/玉津島歌合参加、
勅撰33首:続古今(716)続拾(450/1086/1421/1451)新後撰(6首)続千(8首)続後拾(3首)以下、
[君を祈るただひとことの神のみやふたごころなきほどはしるらむ](続古今;神祇716)
女は為世の後妻(為道/為藤ためじの母)、男は久世ひさよ/経久/景久/遠久とおひさ
- C1263 氏久(うじひさ・島津しまづ、貞久男)1328-8760 母;大友親時女、鎌倉南北期武将;奥州家島津家の祖、
1363大隅守護、1371九州探題今川貞世の配下;離反/守護領国を拡大強化、
馬術名手;「馬書」「在轡集」著、
[氏久の通称] 又三郎/三郎左衛門尉、法号;即心院
- C1264 氏之(うじひさ・賀茂かみ/山本、氏護男)1595-166268 神職;山城貴布禰社祝、神道;賀茂保矩門、
社頭衆有識名譽の人、「神社行幸」編、「賀茂県主系図参考」編、氏侍うじひもの父、
[氏之(;名)の幼名/通称]幼名;琴、通称;右馬助うまのすけ/内蔵助くらのすけ
- E1240 氏壽(氏寿うじひさ・戸田とど、氏寧うじやす男)?-1852 旗本;3500石(大垣新田藩主戸田家の分家)、
知行地;美濃揖斐郡牛洞陣屋、1839(天保10)家督;幕臣;小姓/40中奥小姓/41従五下阿波守、
室;戸田氏倚女、養嗣;氏益(欽堂)、1852(嘉永5)没、歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[夏草をくぐるいづみのいつしかと下に通へる秋の声かな](大江戸倭歌;夏629/泉)、
[古里をしのぶつまともなりぬるか仮寝の床の夜半の村雨](同;雑1835/旅宿雨)、
[氏寿(;名)の通称]栄太郎/栄次郎/阿波守
- E1241 氏壽(氏寿うじひさ・村田むらた)1821-189979歳 越前福井藩士;450石/藩主松平慶永に出仕、
橋本左内と交流、1853ペリー来航後江戸で情勢を探る/56慶永の命で横井小楠を招聘、
1858將軍継嗣問題の時橋本左内と一橋慶喜を擁立、禁門変・戊辰戦にも茂参加、
維新後;福井県参事/官僚・政治家として活動、「続再夢紀事」佐々木千尋と京著
[氏寿(;名)の字/通称/号]字;子慎、通称;巳三郎、号;文峰
- E1292 氏古(うじひさ・水谷みづたに、)1823-189169 伊勢桑名の額田神社社司、国学者、
国学・歌;黒沢翁満おきなまろ・富樫広蔭門、
[氏古(;名)の通称]拾太郎/孫右衛門
氏寿(じゅう・村田) → 氏寿(うじひさ・村田、藩士/政治家) E 1 2 4 1
氏久(うじひさ・細川) → 頼久(よりひさ・細川ほそかわ/源、武将/歌・連歌) J 4 7 5 0
- C1265 氏秀(うじひで・藤原ふじはら、七郎氏秀?、蒲生氏胤or河村政秀男)?-? 連歌;菟玖波2句入、
[影のこる夕日の山は紅葉して](菟玖;秋449/前句;時雨も染めぬ峰の松原)
- C1266 氏秀(うじひで/うじつら・藤波ふしなみ、初名;守富、荒木田守秀男)1478-155477 藤波氏綱の養嗣子、
伊勢内宮の禰宜、1498改名;氏秀、1549一禰宜、尺八を製作、
連歌;1505兄守武らと「賦何路連歌」、1543「何色百韻」(守武と)
- E1231 氏英(うじひで・古川ふるかわ/本姓源、通称;長吉郎/岡右衛門/武兵衛)1684-175168 幕臣;代官見習、
小十人組頭、歌;広通「霞関集」入、
[咲けば散るならひぞつらき花ははや木本ごとに雪とつもりて](霞関;春160)
- C1267 氏英(うじひで・村田むらた、通称;十二郎/竜之進、号;翠竹軒、氏章男)?-? 江後期越前福井藩士;
1825家督嗣、1859隠居、1824「備忘録」著
- E1242 氏英(うじひで・中村なかむら) ? - ? 江後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[足柄の高ねの雲は晴行けど八重山深くうち霞みけり](大江戸倭歌;春321/山春望)
- C1268 氏弘(うじひろ・神保じんぼ/本姓;惟宗これむね)?-? 1486存 越中射水放生津の武士、
越中守護神保家の庶流、越中阿努莊代官/1484年貢未進のため罷免、
連歌;宗祇「下草」「宇良葉」入、新菟玖波3句入、
[氏弘の通称] 四郎右衛門尉/能登守
- E1246 氏広(うじひろ・岡本おかもと、通称;縫次郎)?-? 備前赤坂郡周匝郷黒木村の生、歌人;平賀元義門、
美作の楯の舎塾入門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入;熊野意磨の帰郷を送る終の長歌

- 氏純(氏比呂うじひろ・多羅尾) → 氏純(うじずみ・多羅尾たらお、幕臣/国学) C 1 2 4 0
 氏弘(うじひろ・藤波) → 氏興(うじおき・藤波、神職/記録) C 1 2 3 3
 氏弘(うじひろ・黒瀬) → 田弘(ただひろ・黒瀬(ろせ)、神職/国学) W 2 6 9 4
 氏広(うじひろ・小池) → 内広(うちひろ・小池、国学/神道) D 1 2 1 1
- B1264 氏房(うじふさ・壺井つばい、義知[よしちか1657-1735]男)?-? 故実家;父門
 E1232 氏房(うじふさ・戸田とだ、大垣藩主氏定5男/本姓藤原) 1704-5956 美濃大垣の生/下野足利領主、
 美濃大垣新田しんでん藩主戸田氏成の養子;1719(享保4)継嗣;三河・美濃1万石を領す、
 三河渥美郡畠村に居館、従五下/右近将監/淡路守、
 江戸城刃傷事件を鎮定;大番頭/奏者番/西丸若年寄を歴任/1758辞任、
 歌;冷泉為村門、広通「霞関集」入、氏之の父、
 [暮れてゆく別れを惜しと思ふ夜に春のとどまる夢をだに見ん](霞関;春203/三月尽夜)
 [氏房(;名)の通称]豊五郎・右近/右近将監/淡路守、法号;興梁院閑誉松翁
- E1248 氏房(うじふさ・井手い、氏辰うじとき男) 1717-7761 筑前福岡藩士/歌人、
 [氏房(;名)の通称/号]通称;牛之助/勘七(代々の通称)、号;青山
 氏房(うじふさ・川端) → 陶丘(すえたか・川端かわばた、藩士/俳人) I 2 3 3 0
 氏房(うじふさ・佐野) → 義行(のりゆき・佐野さの、幕臣/文芸) G 3 5 1 3
- C1270 氏冬(うじふゆ・吉見よしみ、自楽軒)?-? 江前期岩代会津藩士/河内流兵法家、
 1658「軍林私宝」著
- C1271 氏政(うじまさ・小山おやま/本姓:藤原、小山朝氏男)?-? 武士;左衛門佐?、
 連歌作者:菟玖波3句入;130/225/1626、
 [咲まじる花の青葉の松見えて](菟玖;春130/前句;雲も霞もいろいろの春)
- B1273 氏政(うじまさ・北条ほうじょう、氏康男) 1538-90自刃53 武将;小田原城主/下総駿河常陸を攻略、
 1590秀吉により落城;自刃、歌;1665後西天皇撰「集外三十六歌仙」入
- B1274 氏正(うじまさ・8世金剛こんごう、鼻金剛) 1507?-7670 室町期;金剛流能役者、大男、薙刀・宙返りに長ず
- C1235 氏勝(うじまさ・藤波ふしなみ/本姓荒木田)?-1668 伊勢内宮禰宜/1661四禰宜、
 1659「内宮臨時御遷宮御造料請取帳」著
- E1255 氏応(うじまさ・岩堀いわぼり、) 1766- ? 出羽久保田藩士;記録方祐筆、国学者、
 [氏応(;名)の初名/通称]初名;熊寿、通称;弥四郎
 氏端(うじまさ・大和田) → 気求(ききゅう・大和田おおわだ、書肆/和漢学) 1 6 9 0
- C1272 氏益(うじます・小原おはら、直人男) 1778-185477歳 加賀大聖寺藩士/1817家督嗣;中小姓筆頭/48致仕、
 絵師;谷文晁門、1841「白山紀行」、「愚尽録」著、
 [氏益(;名)の幼名/別名/通称/号]幼名;八郎、別名;益、通称;直人、
 号;文英/魯庵/不耀/慈山叟
 丑松(うしまつ・豊田) → 松岡(しょうこう・豊田、藩儒/史書編纂) S 2 2 1 5
- 1249 牛麻呂(うしまろ・有度部うとべ)?- ? 755防人/駿河国上丁/万葉廿4337、
 [水鳥の発たちの急ぎに父母に物言ものはず来けにて今ぞ悔くやしき](万葉;廿4337)
- 1250 牛麻呂(うしまろ・建部たけべ)?- ? 筑前那珂郡伊知郷蓑島みのしまの人/万葉中人物、
 卷五813/814左注;憶良に鎮懐石の伝説を語る
 牛麿(牛丸うしまろ・英) → 一蝶(初世いちろう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8
 牛麿(うしまろ・古沢) → 蘆中(あしちゅう・古沢ふるさわ、俳人) C 5 2 1 0
- 1251 氏光(うじみつ・土岐とき/本姓:源・今峯、通称;孫二郎、土岐頼遠男)?-? 南北期武将/兵部少輔、
 右馬頭、1342父が斬罪;勢力失墜し仁木義長配下、1360義長と共に伊勢長野に籠城、
 歌人;1367新玉津歌合参加、頓阿と交流、新千載集(1334)、連歌;菟玖波集3句入、
 [今こんと契だにおけ片糸のあひもあはずも玉の緒をにせん](新千;恋1334)
- C1273 氏満(うじみつ・足利あしかが/鎌倉公方、基氏男) 1355-9844 南北期武将;関東を平定、
 将軍足利義満討伐を謀るが上杉憲春の諫言死により中止
- E1268 氏光(うじみつ・児玉こだま、) 1822-189776 信濃埴科郡坂木村の名主、国学;平田鉄胤門、
 [氏光(;名)の通称/号]通称;伝造/団右衛門/秀八郎、号;桑園、光行みつゆきの父
- 1252 氏宗(うじむね・藤原ふじわら、藤原葛野麿男) 810-87263 母;和氣清麻呂女、平安前期廷臣;蔵人頭、
 851参議/867(貞観9)正三位/869(貞観11)右大臣、869貞観格を撰上、贈正二位、

詩;文粹1首入

氏宗(うじむね・大炊御門)→ 氏忠(うじただ・大炊御門おおいのみかど、廷臣/連歌) C 1 2 4 2

氏心(うじむね・関口) → 柔心(じゅうしん・関口せきぐち、武道;柔術家) H 2 1 7 0

1253 氏村(うじむら・東とう/本姓;平、東胤行[素暹]男、行氏の弟)?-? 東時常の養嗣子/武将;従五下、下野守、歌人;後醍醐天皇の命で武者所で詠歌;名声を得る、続現葉・臨永集入。勅撰10首;続千載(776/1889/2074)続後拾(578/812)新千(3首)新拾(255)新後拾(194)、[はるかなる浪路なみちへだてて漕ぐ舟はゆくとも見えず遠ざかりつつ](続千載;羈旅776)[氏村(;名)の通称/法名]通称;平太、法名;素源/悟阿、

1254 氏元(うじもと・大江おおえ、拳冬[1347]没男)?-? 南北期歌人、従五下/掃部頭、氏広父、新後拾遺724、[わけつつや衣ほすらむ朝露にぬれて色そふ秋萩の花](新後拾八;雑秋724)

C1275 氏盛(うじもり・宗像むなかた) ? - ? 鎌倉期筑前宗像社大宮司、1302社領支配の新事書制定、1313「宗像大宮司事書」著

B1235 氏守(うじもり・藤波ふじなみ/本姓;荒木田、通称;主税/修理、前田氏行男)?-? 江前期伊勢内宮権禰宜、歌;中院通茂門/連歌、「詠十六首和歌」「皇太神宮奉納百首」、1679「延宝千句」入

C1276 氏守(うじもり・松沢) 1786 - ? 岩代会津藩士、「保科三君記」

C1277 氏養(うじもり・藤波ふじなみ/本姓;荒木田、別名;高通、中川経高男) 1801-55 藤波氏歴の養嗣子、伊勢内宮禰宜;1844二禰宜、歌を嗜む、「御屋根葺萱記」「御塩殿神遷心覚」著、[氏養(;名)の通称]通称;左京

氏養(うじもり・高尾) → 竹溪(ちくけい・高尾、儒者) C 2 8 8 6

鳥雀菴(うじやくあん) → 布磧(ふせき・浦野うらの/内藤、俳人) C 3 8 9 2

禹爵堂(うしやくどう) → 竜門(りゅうもん・渡辺/源、藩士/随筆) F 4 9 7 8

鳥鵲坊(うじやくぼう) → 原松(げんしょう・加藤、俳人) C 1 8 2 0

C1278 氏安(うじやす・秦はた) ? - ? 平安中期;秦河勝の後裔として猿楽を相伝、紫宸殿で猿楽66番を演奏;式三番制定(;風姿花伝)、文粹入、架空の人物か?

E1227 氏安(うじやす) ? - ? 戦国期連歌作者、1496頃近江野洲郡永原にて永原重泰興行「永原千句ながはらせんく」参加(;宗祇兼載らと)、[音ぞなきくもれるのみや春の雨](永原千句;第七発句)

C1279 氏泰(うじやす・安保あは) ? - ? 戦国期文明1469-87頃武州賀美郡安保郷の武将;武蔵七党の1、古河公方成氏の家臣;1478根原合戦に出陣、「貞永式目」や「職原抄」の注釈、連歌;新菟2句入

1255 氏康(うじやす・北条ほうじょう、通称;新九郎、氏綱男) 1515-71 57歳 戦国武将;小田原北条家3代、古河公方義氏を擁立/北武蔵・上野南部に勢力、小田原北条氏の全盛期を築く、検地;「小田原衆所領役帳」作成、左京大夫、書;尊鎮流/歌人;小田原歌壇を形成、「平氏康15首歌」著、1547「武蔵野紀行」偽書?、[氏康の号] 万松軒/太清軒、御本城様(隠居後の称)、法号;大聖寺殿

1256 鳥秋(うじゅう・芝川亭) ? - ? 俳人;1763雑俳論書;白亀著「筆鸚鵡」編

B1275 鳥洲(うじゅう・金井かない、名;子修/時敏/泰、字;林学、長徳[万戸]男) 1796-1857 62 上州島村豪農家、1824兄莎邨の死;家督嗣/江戸遊学/経史;善庵門/詩:五山門/文;古賀侗庵門、絵;春木南湖門、1831西遊の旅、勤王思想、1853「無声詩話」、「無声詩蛆」「耕漁余楽」「墨華帖」著、[鳥洲(;号)の通称/別号]通称;左仲太/左忠太/彦兵衛、別号;桑庵/朽木翁/白沙村翁/小禅道人/獅子吼道人/華竹庵金彦

C1281 羽洲(うじゅう・松浦まつうら、名;有秀、宮戸丸兵衛男/祖母の実家を嗣) 1827-1914 88 名古屋古着商、俳人;芝石・而后・芝前・卓池門、謡曲;観世清孝門、1861「藪すずめ」編、62「羽洲俳書」著、1862「仮初のすきび」著、「津山五哥仙」編

[羽洲の通称/別号] 通称;吉島九右衛門、別号;徂康/六松園

鵜洲(うじゅう・内田) → 鵜洲(ういじゅう・内田、儒者/詩人) B 3 0 0 9

于緝(于洲しゅう・長沢) → 蘆雪(ろせつ・長沢ながさわ/上杉、絵師) C 5 2 0 1

C1280 雨什(うじゅう・生方うぶかた、名;隆久、屋号;袋屋) 1740-1813 74 上州高崎俳人;鳥酔門、狂歌;四方側、1769「平花庵春帖」98「雨什句草」99「一歳草ひととせぐさ」「葉南能派留はなのほる」1801「蝶の夢」編、

1787「狂歌才蔵集」入、

[勇むらし寄らばけはやの勢ひにかたづをのみの宿禰方にも]、

(狂歌才蔵集、当麻蹶速と野見宿禰の相撲)

[雨什の通称/別号]通称;惣[宗]兵衛、別号松露庵4世/平花庵、狂名;埵出鷹久とやでのたかひさ

(「埵出;とやで=鳥屋出」は、夏に毛換える鷹狩の鷹を鳥屋に入れ初秋に出して狩に使うこと)

- C1282 氏行(うじゆき・荒木田あきだ)?- ? 鎌倉期伊勢内宮禰宜、
歌;1295伊勢新名所絵歌合参加
- 1257 氏之(うじゆき・荒木田あきだ/家名;家田、氏忠[歌人]男)?-? 1310存 鎌倉期;伊勢神宮神職、
歌人、柳風和歌抄入、勅撰3首;続千載1580/風雅216/新千載950、
[うき人の心のたねの忘草いつ我が中にしげりそめけん](続千;恋1580)
- B1276 氏如(うじゆき・北条ほうじょう、正房男/北条元氏の養嗣子) 1666-1727 62 江戸幕臣;1691家督;小姓組、
1713下田奉行、1715佐渡奉行、軍学者、松宮観山の師、
[氏如(;名)の別名/通称]別名;守約、通称;伝七郎/五左衛門/新左衛門
氏之(うじゆき・山本/賀茂)→ 氏之(うじゆき・賀茂/山本、神職) C 1 2 6 4
迂叔(うじゆく・箕浦) → 立斎(りつさい・箕浦みのうら、藩士/儒者) B 4 9 8 6
禹遵(うじゆん;字) → 日塔(にっとう;法諱・心地院、日蓮僧) F 3 3 4 3
- B1236 鳥掌(うじょう・藤谷ふじたに、別号;浴泉廬/浴泉庵)?-? 江戸後期俳人;布門系、五流斎3世の女婿、
五流斎4世化石の世話役、1798「時雨集」、1773-99「筆の試」編(5回)、「絵俳諧」、「宜春園」編
迂樵(うじょう・五弓) → 雪窓(せつそう・五弓ごきゅう久文、国学/儒) E 2 4 5 1
- B1237 芋丈(うじょう、市田いちだ、芋々園)?-? 近江の俳人;蒼虬門、
1845蒼虬追善「をりそへ集」編
雨蕉園(うしゅうえん) → 高般(たかかず・藤堂とうどう、詩人) L 2 6 7 1
雨蕉斎(うしゅうさい) → 重信(初世しげのぶ・柳川/鈴木、絵師) C 2 1 7 4
- 1258 氏良(うじよし・荒木田あきだ/家名;家田、元満の長男) 1153-1222 70 伊勢内宮一禰宜/正四上、
蓮阿の兄、延季のぶすえの父、歌人;西行・俊成と親交、御裳濯集7首入、
千載231/337(読人不知:御裳濯集は氏良の歌)・新古今233、
[五月雨の雲の絶え間をながめつゝ窓より西に月を待つかな](新古;夏233)
- C1283 氏喜(うじよし・日下くさか、別名;兼延) 1695-1737 43歳 岩代福島の商人、寺子屋を開き教育、
「信達風土雑記」著
- C1284 氏美(うじよし・久世くぜ/旧姓;佐脇さわき、) 1703-70 68 久世家の養嗣子;伊勢津藩士/古市奉行、
儒者/陽明学;石河道竹門/経史;佐善雪溪門、歌/俳諧、「政要話録」著
[氏美(;名)の通称/号]通称;孫之丞、号;留犢堂/一簣いっき
- C1285 氏栄(うじよし・戸田とだ、通称;寛十郎) 1799-1858 60 美濃深坂村の生/1841幕臣;西丸小姓組/目付、
駿府奉行/1847浦賀奉行;53対ペリ一主席全権、57大坂町奉行、従五下/伊豆守、
1835「干城録」、19-41「朝野旧聞袞藁」編、「南浦書信」「警箴叢彙」著
- E1258 氏義(うじよし・大館おおだち、氏真男) 1806-1834 早世 29 近江彦根藩士、氏晴うじはるの父、
兵衛;父門/歌;藤堂良璟門、江戸住;水野美濃守某に出仕
[氏義(;名)の別名/通称]別名;氏祺、通称;孫之丞/舟蔵/右馬允/万次郎/喜太郎
- E1244 氏喜(うじよし・平野ひらの) ?- ? 江戸後期;歌人、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
[夕しほに棹さしのぼる隅田川月の舟にも心のるらん](大江戸倭歌;雑1676/川上船)
氏義(うじよし・石橋/吉田)→ 和義(まさよし/かずよし・斯波しば/源、武将/歌) I 4 0 4 0
- 1259 氏頼(うじより・六角ろっかく・佐々木、六角時信男/本姓;源) 1326-70 45 母;長井時千[時于]女、
近江守護/1342檢非違使/1344左衛門尉、観応擾乱で足利直義方に参戦;1351直義敗北、
出家、1366將軍足利義詮の招請で兵を率いて上洛、
父が弟義将ゆきを寵愛し氏頼の非を進言、世を憂え出家禅門;夢窓門、
近江永源寺を建立;1379大般若経を開板、満高の父、
歌・連歌、敦阿と交流(草庵集入)、1367新玉津歌合参、1356-70北野社法楽「紫野千句」催、
勅撰3首;新拾1706・新後拾508/1104、連歌;菟玖波17句、信詮のぶあきらの兄/義将の異母兄、
[降る雪に鳥立どち尋ねてけふいくか片野のみ野を狩り暮らすらん](新拾遺;雑1706)、

- [氏頼の通称/法名] 通称;三郎/六角左衛門尉/大夫判官、法名;雪江崇永(臨濟僧名)
- C1286 **氏頼**(うじより・大森おもり、頼春男) 1418-9477歳 父は鎌倉公方足利持氏の功臣、相模小田原城主、信濃守/左衛門佐、太田道灌と共に関東管領扇谷上杉家の家臣、小田原周辺に海蔵寺・総世寺など曹洞宗寺院を建立/最乗寺を復興、「関東諫言文」著、
[氏頼(;名)の通称/号]通称;与一、号;寄栖庵、法号;明昇みょうしょう
氏頼(うじより・藤原) → 禅忍(ぜんにん;法諱、唱阿弟、廷臣/僧/歌人) N 2 4 0 4
卯四郎(牛郎うしろう・呉/鄭) → 永寧(えいねい・鄭てい、通事) D 1 3 2 7
宇次郎(うじろう・並河/中島) → 来章(らいしょう・中島なかじま/源/並河、絵師) 4 8 6 4
烏津(うしん・永井) → 士前(しぜん・永井ながい、庄屋/俳人) U 2 1 1 8
右岑(うしん・竹林) → 小諸(こもろ・竹林たけばやし、国学/歌人) Q 1 9 9 8
- 1260 **雨人**(うじん) ? - ? 俳人;青蘿門、1772蘿来追善「秋しぐれ」編
- C1287 **羽人**(うじん・吉岡よしおか、名;典見のりみ/通称;佐兵衛) 1785-187288 上総芝山山中の俳人;飛島園派、1849「藤の実集」60「寒念仏集」61「憑蔭集」著、
[羽人(;号)の別号] 蟠岡/随巢/習斎/松庫
雨新庵(うしんあん) → 敬雄(けいゆう・きょうお;法諱・韶鳳;字、天台僧/詩人) D 1 8 6 5
- E1254 **珍**(うず・入江たいりえ) 1781 - 184363 播磨明石の生/撰津兵庫の郡代役人?、国学者、
[珍(;名)の通称] 平助/愛右衛門
- B1238 **烏水**(うすい) ? - ? 京の俳人、1687「京日記」歌仙入、1690言水「新撰都曲」4句入/92助叟「俳諧新始ちょうなはじめ」入、
[山桜目印もなし順の峰](都曲;93/一面桜の中の大和大峯修行の順の峰入り)
- C1288 **烏翠**(うすい・倉田くらた、通称;孫右衛門、別号;椎亭)?-? 江後期伊勢国津の俳人、1812「松蔭集」編
- C1289 **禹水**(うすい) ? - ? 江後期肥後菊池の俳人、1826「梅雨の空」著
- C1290 **烏水**(うすい) ? - ? 江後期天保1830-44頃;江戸の俳人、1842「面影草」、「弘化三霊祀」、「三つ霊」編、
烏水(うすい) → 宝雲(ほううん・烏水、真宗僧) 3 9 1 7
烏水(うすい) → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7
迂水(うすい・碓井) → 維徳(これのり・碓井うすい、医者/歌人) Q 1 9 3 9
宇水漁翁(うすいぎょおう) → 蒼純(なすみ・有馬、藩主/文筆) G 3 2 6 3
烏水散人(うすいさんじん) → 周斎(しゅうさい・吉田よしだ、藩医・儒者) X 2 1 2 9
薄雲の中納言(うすぐものちゅうなごん) → 雅兼(まさかね・源、廷臣/歌人) 4 0 0 7
- C1291 **羽助**(うすけ・音おと、あんま羽介)?-1824 江戸歌舞伎作者・3世菊五郎門、1819「裏模様菊伊達染」、1820「梅暦曙曾我」/21「妹背山眺望千本」/「敵討櫓太鼓」/23「還木曾菊族」著
羽助(2世うすけ・音) → 和助(わすけ・音、沢田屋、歌舞伎作者) 5 3 3 5
卯助(うすけ・湯田) → 眞垣(まがき・湯田ゆた、国学者/歌人) T 4 0 6 3
宇助(うすけ・吉田) → 芝溪(しげい・吉田よしだ、商家/儒者) Q 2 1 6 0
宇助(卯助うすけ・鳥屋) → 長秋(ながあき・鳥屋とや、国学者/歌) K 3 2 2 3
宇助(うすけ・佐久間) → 光豹(こうひょう・佐久間さくま、藩儒/和算家) L 1 9 0 3
禹輔(うすけ・内海) → 貞規(さだのり・内海うつみ、名主/国学/歌) N 2 0 9 9
薄墨(うすずみ・燕石斎) → 燕石斎薄墨(えんせきさいうすずみ、往来物) F 1 3 1 2
薄墨庵(うすずみあん) → 驚秋(おどしゅう・橋井はしい、俳人) B 5 2 7 1
薄墨の神主(うすずみのかんぬし: 綽名) → 国基(くにもと・津守、神職/歌人) 1 7 1 0
- E1279 **珍彦**(うずひこ・藤とう/本姓;藤原、鍋島直与2男or5男) 1835-8652 肥前蓮池藩主家の生、国学、田島神社宮司、
[珍彦(;名)の字/通称/号]初名;悼若、字;子文、通称;二良、号;楽堂
太秦(うずまさ・伊形) → 質(すなお・伊形いがた、藩儒/故実) L 2 3 2 7
太秦法眼(うずまさのほうがん) → 源承(げんしょう、天台僧/歌人) C 1 8 1 4
- E1250 **珍満**(うずまる・生田いくた、井上源吾2男) 1811-187969 初め但馬出石藩士/のち生田弥六郎の養子、家督継嗣;播磨林田藩士、歌人;鉄禿門、林田藩において歌は珍満・文章は石印・詩は河野と称される、
[珍満(;名)の別名/通称/号]別名;珍史、通称;彦四郎、号;長秋/楽園

- E1296 **珍満**(うずまる・依岡よりおか、通称;権吉、旧姓;安岡)1842-1923⁸² 土佐高知藩士;土佐郡新町の国学者、土佐勤王党で諸活動、維新後;高知県庁に出仕
 鶉居(うずらい) → 秋成(あきなり・上田、俳人/読本作者) 1 0 0 9
- C1292 **烏西**(うせい、別号;嵐臥)?-? 明和1764-72頃京の俳人;蕪村門、1772几董「其雪影」2句「あけ鳥」1句入、83維駒「五車反古」1句入、
 [ゆく春や竹の伏見と成りにけり](其雪影;巻尾233/桃の名所も若竹の季節)
 右声(うせい・芳賀) → 光起(みつおき・芳賀/木村、藩士/産物方) D 4 1 1 5
 雨声(うせい・不眠齋) → 不乾齋雨声(ふけんさいうせい・戯作者) B 3 8 8 1
 雨静(うせい) → 了輔(りょうほ・野村のむら、俳人) J 4 9 4 3
 雨声庵(うせいあん) → 素浅(そせん・駒田こまだ、医者/俳人) D 2 5 9 3
- B1277 **烏石**(うせき・松下まつした、名;辰/雲一、常親男)1699-1777⁷⁹ 江中期江戸の書家;佐々木文山門、儒;服部南郭門、晩年は西本願寺住、
 「書法群碎」「坵土いど漫草」、「蘭花帖」「成章帖」「烏石山人乾坤帖」著、
 [烏石の字/別号]字;君嶽/竜仲/神力、別号;東海陳人/金粟/武蔵野人/白玉斎/青蘿主人
 張葛居辰と同一? → 居辰(きよしん・張葛ちようかつ、洒落本) H 1 6 4 3
- 1261 **雨夕**(うせき) ? - ? 近江平柳の俳人;1777江涯こうがい「仮日記」1句入、
 [鮎を汲くむ側に米搗く車哉](仮日記;64/水車のそばに網で魚をすくう人/文人画風景)
雨夕(うせき) ? - 1817? 川柳作者;1800芹丈追善会で楽評を勤む、
 1808-13[柳多留四一-六四篇](2世川柳編)の評者、
 [手ぬぐいをやつかひにする安すむすこ](柳多留;二三)
- C1294 **雨石**(うせき・石井いひ、通称;久右衛門、夜話亭)?-? 岩代須賀川の俳人、1808「墨直集東武」著
 雨考と兄弟? → 雨考(うこう・石井、夜話亭/須賀川俳) C 1 2 2 0
 羽積(うせき・流石菴) → 羽積(はづみ・河村/川村、俳人/歌謡) E 3 6 6 8
 禹績(うせき・永島) → 審(しん・永島ながしま、医者/引水工事) N 2 2 2 2
- C1295 **羽節**(うせつ・高木たかぎ、名;将応)?-? 江中期大阪西横堀の書家、1760「浪花随筆」書
- C1296 **烏雪**(うせつ) ? - ? 江中期俳人;1774美角「ゑぼし桶」1句入、
 [日馴れては雫たりけり冬木立](ゑぼし桶;90/日馴れては日光が馴れ染める)
 于拙(うせつ・五十嵐) → 光春(みつはる・五十嵐いがらし/武田、藩士/儒者) L 4 1 1 3
 雨雪(うせつ;初号) → 立志(6世りゅうし・関、俳人) E 4 9 4 6
 雨雪軒谷水(うせつげんこくすい) → 谷水(こくすい・雨雪軒、洒落本作者) G 1 9 4 8
- C1297 **宇川**(うせん) ? - ? 江中期俳人;1768秀億「葛藤かつらふじ」入
- C1298 **烏川**(うせん、別号;窓竹斎/廬竹斎/楼鶯居)?-? 江中期尾張枇杷島の油屋業/のち前津に住、俳人、
 1772「萩のつゆ」編/78「春興」
- E1221 **雨洗**(うせん・呉竹庵) ? - 1815 安藝川尻の俳人、1812篤老「嚴島奉納集初編」入、
 1812玄蛙「やまかつら」入、追善集「時雨草」(梧由編)、
 [雲影のうごかぬころや蓮の花](やまかつら)
- E1238 **宇仙**(うせん・堀ほり、名;長平)?- ?1825存 江後期;紀伊牟婁郡新宮の医者、1825存
 国学;本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻入;
 [御船島神の御行のたえせねば流れ久しき三熊野の川](八十浦;1023神祇)
 新宮の医者堀文之ふみゆき(?-1797/宇選)と同族?
- E1228 **芋洗**(うせん・一口舎、初号;帰潮、姓;堀田)1783-? 1856存 江戸小日向服部坂上の旗本幕臣、
 雑俳/川柳作者;1791「元祖川柳小祥忌会筵」に息子叶かろう(芋隣)を連れ参加、
 1827末広会の評者、
 1791「柳多留二四篇」(一口編)から1836-7頃「柳多留一四八篇」(五世川柳編)まで活動、
 [看病によく来たつけが解せやした](柳多留;二五)
 宇選(うせん・堀) → 文之(ふみゆき・堀ほり、医者/和学) I 3 8 7 0
 于宣(うせん・小槻) → 于宣(ゆきのぶ・小槻/壬生、廷臣/連歌) F 4 6 1 9
 雨洗(うせん) → 端隠(たんいん・福井/度会、神職/篆刻家) T 2 6 1 5
 雨洗(うせん・曲青舎) → 仲和(なかかず・岩神いわがみ、俳人) D 3 2 3 7
 烏川(うせん・藤森) → 桂谷(けいこく・藤森ふじもり、絵師/教育) F 1 8 6 0

芋仙(うせん・田能村)	→	直入(ちよくにゅう・田能村たのむら、絵師)	K 2 8 3 2
迂仙(うせん・松田)	→	菘廬(すうろ・松田まつだ、藩士/儒者/詩)	B 2 3 0 6
右善(うぜん・野村)	→	匡解(まさとき・野村のむら、藩士/歌人)	R 4 0 5 2
右膳(うぜん・近藤)	→	知新(ちしん・翠中軒、与力/茶人)	E 2 8 4 6
右膳(うぜん・猿山)	→	竜池(りゅうち・猿山さやま、書家)	F 4 9 1 8
右膳(うぜん・奥山)	→	華嶽(かがく・奥山/藤、藩士/儒者)	H 1 5 2 1
右膳(うぜん・峯)	→	貉丘(かくきゅう・峯みね、医者)	J 1 5 6 6
右膳(うぜん・福井)	→	公清(きみきよ・福井/栗野・足代、神職)	M 1 6 0 2
右膳(うぜん・栗野)	→	経麻(つねあさ・栗野/度会、神職/国学)	B 2 9 6 1
右膳(うぜん・石河)	→	積翠(せきすい・石河いしこ、幕臣/俳人)	D 2 4 6 4
右膳(うぜん・阿部)	→	北溟(ほくめい・阿部あべ、医者/儒詩)	D 3 9 9 1
右膳(うぜん・長)	→	連起(つらおき・長ちよう、藩士)	E 2 9 3 9
右膳(うぜん・山脇)	→	有実(ありざね・山脇やまわき、医者/歌人)	I 1 0 7 4
右膳(うぜん・飯田)	→	正紀(まさのり・飯田いいた、神職/国学/歌)	N 4 0 4 9
右膳(うぜん・熊懷)	→	行礼(ゆきのり・熊懷くまがい、神職/国学)	G 4 6 7 9
宇全(うぜん・唐木)	→	埴麿(はにまる・唐木からき、商家/国学/歌)	J 3 6 9 6
烏川客(うせんかく)	→	玉之(ぎよくし・黒川くろかわ、俳人)	P 1 6 0 1
雨前斎(うぜんさい、雨前亭)	→	甫人(ほじん・橋本はしもと、俳人)	E 3 9 3 0
迂仙舎(うせんしゃ)	→	菘廬(すうろ・松田、藩士/儒者/詩)	B 2 3 0 6
烏川叟(うせんそう)	→	義旭(よしあきら・宮部みやべ、藩老/蘭学)	C 4 7 0 5
羽扇堂(うせんどう)	→	景山(けいざん・大野、俳人)	1 8 5 8

C1299 鳥巢(うそう・加藤かとう、玄順) ?- ? 三河吉田医者/俳人、1691「猿蓑」入

[桃の花境さかひしまらぬ垣根哉](猿蓑;四)、

医者加藤玄順(1699-1785)とは別人だが、その父加藤謙斎(鳥巢道人)との関係は不詳

C1202 雨窓(うそう・新井あらい、名;誼道よしみち、戸板俊直2男) 1813-7563 陸前登米郡石森の生、
新井剛斎の養嗣子、儒;江戸の増島蘭園門、家兄が殺害され周遊しその仇討を果たす、
再び江戸遊学、昌平鬘修学;古賀侗庵門/帰郷後;陸前仙台藩士;藩校養賢堂学頭、蝦夷踏査、
1868奥羽連衡の画策に関わり投獄、「海防策」「言行類証」「地震考」「家譜書上抜記」著、
詩歌;「雨窓詩文集」「雨窓和歌集」「皇統歌」著、

[雨窓の字/通称/別号]字;子浩/希中、通称;三太夫/儀右衛門、別号;笹園かくえん/さくえん、退軒

雨窓(うそう・安達)	→	舒長(のぶなが・安達あだち、儒/詩歌)	C 3 5 5 5
雨窓(うそう・吉田)	→	鰲岐(ごうき・吉田/吉、儒者/歌)	I 1 9 2 3
雨窓(うそう・坂上)	→	玄長(げんちよう・坂上さかがみ、医者)	L 1 8 4 2
迂叟(うそう)	→	迂斎(うさい・三浦みづら、商家/文筆)	B 1 2 0 0
迂叟(うそう・桜井)	→	東門(とうもん・桜井さくらい、藩儒/詩人)	H 3 1 4 7
迂蔵(うそう・阪田)	→	雅夫(まさお・阪田さかた、医者/国学)	P 4 0 9 9
宇蔵(うそう・梅津)	→	六車(ろくしゃ・梅津うめづ、書家/日記)	5 2 9 0
卯蔵(うそう・寺沢)	→	利安(としやす・寺沢、国学者)	O 3 1 0 2
卯蔵(うそう・長沢)	→	春江(はるえ・長沢ながさわ/外村、歌人)	K 3 6 5 0
鳥蔵(うそう・野間)	→	隆喜(たかよし・野間のま、藩医者/歌人)	Y 2 6 9 1
雨草庵(うそうあん)	→	慶五(けいご・三牧/佐藤、俳人)	F 1 8 5 4
鳥巢道人(うそうどうじん)	→	謙斎(けんさい・加藤かとう、医者/詩文)	B 1 8 8 2

E1266 鳥村(うそん・熊谷くまがい) 1776-184671 信濃伊那郡一色村の庄屋役、

国学・歌人;服部菅雄・植松茂岳しげおか門、

[鳥村(;名)の通称/号]通称;半兵衛、号;霞賞/伊賀良居

雨村(うそん・浜村)	→	蔵六(4世ぞうろく・浜村/塩見、篆刻家)	J 2 5 2 6
------------	---	----------------------	-----------

E1260 歌(うた・大森おもり、通称;歌木/本寿院) 1732-181079 出雲松江藩主松平宗衍の側室、
治郷(不味)の生母、江戸住;歌人

D1200 雅楽(うた;通称・長井ながい時庸、泰憲男) 1819-63切腹45 長門萩藩士;4歳の時父没;家督嗣、
1836大番所詰/51奥番頭/58直目付;藩政中枢/61開国論を建言/62中老格、

時勢急変;弾劾罷免、「今諸侯非王臣説」「壬戌異聞書」著、「長井雅楽遺書」、
 [雅楽の別通称/号]別通称;与之助/与左衛門/雅楽允/隼人/右近、号;甫田/藍向

- 雅楽(うた・蓬萊) → 尚賢(ひさかた・蓬萊ほうらい、神職/国学者) 3 7 9 3
 雅楽(うた・蓬萊) → 尚広(ひさひろ・蓬萊/荒木田、神職/日記) B 3 7 8 7
 雅楽(うた・福井) → 末盈(すえみつ・福井ふくい/度会、神職) F 2 3 6 8
 雅楽(うた・井関) → 充長(あつなが・井関いぜき、神道家) E 1 0 9 2
 雅楽(うた・井面) → 守雅(もりつね・井面いのも/荒木田、神職/国学) F 4 4 8 2
 雅楽(うた・小国) → 重年(しげとし・小国/鈴木/清原、神職/国学) 2 1 1 4
 雅楽(うた・原田) → 甲斐(かい・原田はらだ、家老/伊達騒動) G 1 5 4 6
 雅楽(うた・添田) → 貞俊(さだとし・添田そえだ、藩家老/武術) I 2 0 8 3
 雅楽(うた・岩橋) → 時倚(ときより・岩橋いわたし/大江、神職/国学) U 3 1 3 1
 雅楽(うた・六人部) → 忠篤(ただあつ・六人部むとべ、神職/歌学) Z 2 6 8 5
 雅楽(うた・六人部) → 是愛(よしちか・六人部、忠篤孫/神職) P 4 7 4 9
 雅楽(うた・藤塚) → 知直(ともなお・藤塚ふじつか、神道家) Q 3 1 0 0
 雅楽(うた・丸岡) → 正善(まさよし・丸岡まるおか/久米、神職/国学) S 4 0 7 9
 雅楽(うた・戸田;変名) → 三良(さぶろう・尾崎おさき/若林、勤王家) L 2 0 5 1
 迂台(うだい・漁甫、謡曲研究、1736「高砂増々抄」) → 迂斎(うさい三浦) B 1 2 0 0
 右大臣(うだいじん:後撰) → 師輔(もろすけ・藤原、故実/歌人) 4 4 3 3
 右大臣(うだいじん:拾遺) → 顕光(あきみつ・藤原、堀川左大臣) C 1 0 5 9
 右大臣(うだいじん:後拾遺) → 顕房(あきふさ・源みなもと、六条右大臣) 1 0 1 2
 右大臣(うだいじん:詞花) → 雅定(まささだ・源、中院入道右大臣) C 4 0 5 2
 右大臣(うだいじん:続後撰) → 忠家(ただいえ・九条、一音院摂政) E 2 6 8 3
 右大臣(うだいじん:続拾遺) → 忠教(ただのり・九条、報恩院) F 2 6 6 0
 右大臣(うだいじん:新後撰) → 冬平(ふゆひら・鷹司、後照念院) E 3 8 3 8
 右大臣(うだいじん:玉葉) → 道平(みちひら・二条、後光明照院関白) C 4 1 3 5
 右大臣(うだいじん:続千載) → 家定(いえさだ・花山院、金光院入道) 1 1 3 5
 右大臣(うだいじん:続後拾) → 経忠(つねただ・近衛、後猪熊殿/関白) C 2 9 4
 右大臣(うだいじん:新拾遺) → 通相(みちまさ・久我/中院、千種太政大臣) B 4 1 6 5
 右大臣(うだいじん:新千載) → 道嗣(みちつぐ・近衛、堀河関白) B 4 1 8 6
 右大臣(うだいじん:新続古) → 房嗣(ふさつぐ・近衛、関白/歌人) C 3 8 1 5
 右大臣(うだいじん;新葉集) → 右大臣(みぎのおとど、姓名不詳;3説) 4 1 7 2
 → 冬実(ふゆざね・二条にじょう、南朝廷臣/歌) E 3 8 2 6
 右大臣(うだいじん:続詞花) → 公能(きんよし・藤原ふじわら/徳大寺、歌人) E 1 6 8 6
 右大臣家讃岐(うだいじんけのさぬき) → 讃岐(さぬき、後照念院関白家讃岐/歌) C 2 0 8 0
 右大臣従一位丸(うだいじんじゅいちいまる) → 麻呂(まろ・石上朝臣) 4 0 3 4
 右大臣北方(うだいじんのきたのかた) → 顕房室(あきふさのむろ、源隆子りゅうじ) 1 0 8 1
 右大臣僧正(うだいじんのそうじょう) → 実任(じつにん;法諱、真言僧) V 2 1 0 2
 右大臣大僧正(うだいじんのだいそうじょう) → 齋助(ちようじよ;法諱、真言僧) I 2 8 8 8
 右大夫(うだいふ・小槻) → 秀芳(ひでよし・小槻おつき、官人/衣紋術) I 3 7 6 9
 右大弁入道(うだいべんのにゅうどう) → 光俊(みつとし・葉室/真観、歌人) 4 1 2 6

- 1262 **歌右衛門**(初世うたえもん・中村なかむら、本名;大関栄蔵、俊庵男) 1714-9178 金沢の医家の生、
 幼少より芝居好き/1730(17歳)中村歌之助を名乗り旅芝居に出演/京の大芝居に出演、
 中村歌右衛門を名乗り上方中心の歌舞伎役者;実悪を得意/無類の名人と称される、
 1782加賀屋歌七と改名/中村嘉七名で作者を兼任、
 1784初五瓶「思花街容性」番付、85「鳴神祝ふて式三番」「殿下嬬西国物記」作
 [初世中村歌右衛門(;通称)の別通称/号]別通称中村歌之助/加賀屋歌七/中村嘉七、
 号;一先/一洗、屋号;加賀屋
- 1263 **歌右衛門**(2世うたえもん・中村なかむら/水木東蔵) 1752-9847 歌舞伎役者;初世門、1782襲名、
 1790中村東蔵に戻る
- 1264 **歌右衛門**(3世うたえもん・中村、姓;大関、名;市兵衛、初世歌右衛門男) 1778-183861 大阪歌舞伎役者、

1791中村福之助名で初舞台/94歌右衛門襲名/敵役・立役・女方・所作事を兼ねる最高役者、
歌舞伎作者：初世金沢竜玉、中座子供芝居頭目：中村福助、俳諧；土卯門/狂歌；南畝門、
1814「芝翫栗毛」20「けいせい花大樹」22「けいせい染分総」32「大躍浪花賑」、
1834「天満宮愛梅桜松」「蝶雙春花壇」「其裏梅真砂白浪」、「けいせい雪月花」外作品多数、
[3世中村歌右衛門(；通称)の別通称/号]別通称；豊玉竜扇/中村福之助/中村玉助、
金沢竜玉かなざわりゆうぎよく(初世；脚本名)、
号；芝翫しかん/梅玉/百歌/百戯園、屋号；加賀屋、法号；歌唄院

- 1265 **歌右衛門**(4世うたえもん・中村なかむら、本名；平野吉太郎)1798-185255 江戸下谷の孔雀茶屋の子、
伯父の舞踊家藤間勘十郎(初世)に入門；養子/振付師、歌舞伎役者；中村歌右衛門3世門、
上方で中村鶴助/2世中村芝翫を名乗る、1836歌右衛門を襲名/東西随一名優と称される、
1824(文政7)「鳥柏」編、
[4世中村歌右衛門(；通称)の別通称/号]別通称；藤間亀三郎/中村藤太郎/中村鶴助(初世)、
中村芝翫(しかん2世)、号；芝賞/翫雀(；俳号)/魁香舎かいこうしゃ、屋号；成駒屋なりこまや

歌垣綾麿(うたがきのあやまる)→ 綾麿(あやまる・歌垣、九鬼隆度、藩主/狂歌) F 1 0 1 5

- 1266 **歌城**(うたき・小林おばやし、名；元雄/昌雄、正保[昌休]男)1778-186285 母；宮崎久右衛門長義女、
旗本/幕臣；1796(19歳)家督継嗣；大番隊士、此の頃国学・歌；1796村田春海門、弓術に長ず、
1813(文化10)大坂城守衛；14帰参、家督を息子元梅に譲り隠居；歌城と号す、
文法語法研究/歌に精通、清水浜臣と共に春海門下の双璧、幕末期歌壇の一大勢力となる、
門人；久貝正典・久松祐光・寺山吾鬢・加藤行虎・内藤正美など、1809「ふたくさ日記」著、
1852家集「歌城歌集」(久貝正典編)、「歌城外集」/歌学「難武蔵野集」、俗謡「倭歌高名競」、
「歌城翁戯歌文」「歌城翁自筆詠草」「桂園一枝拾遺評」外著多数、
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」(息子元梅と共に)入、1860鋤柄助之「現存百人一首」入、
[隅田川つつみの桜くれ初そめて霞になりぬ今戸はしはま]、
(大江戸倭歌；春77/現存百人一首；冒頭1)、
[歌城(；号)の字/通称/号]字；子駿、通称；田兵衛/太兵衛/新次郎、
別号；髭岳堂こんがくどう/雪衣堂/雪衣狂夫/四不出齋/柿本猿丸さるまる、
歌城は剃髪の号、法号；鶴林院

歌木(うたき・大森) → 歌(うた・大森おもり、藩主側室/不味公母/歌人) E 1 2 6 0

- B1239 **歌木檢校**(うたぎけんぎょう、都名いちな；房一ふさいち) ?-? 江中期宝暦1751-64頃大坂の地歌作曲家(盲目)、
初め佳川檢校門；八橋流修得、地歌の端歌を改革；新傾向として流行、
「かくれんぼ」「露の蝶」「通ふ神」「菜の葉」など作曲多数

雨沢(うた) → 冬映(2世とうえい、俳人) B 3 1 3 0

- 1267 **歌国**(うたくに・濱松[浜待]はままつ/八重垣/金沢)1776-182752歳 大阪の木綿問屋の生、
歌舞伎作者；1800番付作者、浮世絵師；役者絵を描く、読本・随筆作者、
1805中村歌右衛門3世の江戸下りに同行；再び脚本作者、
読本；「駿河舞」、随；「撰陽落穂集」「南水漫遊」、「芝翫栗毛」「許多脚色帖」編、「恵寶大功記」、
「日本廻国勸懲記」「大和国筒井清水」「今昔二枚絵草紙」「勇ましき老嫗寿」外著多数、
[歌国(；号)の通称/別号]通称；清蔵/清兵衛/氏助、別号；颯々亭南水、屋号；布屋

- E1237 **宇多子**(うたこ・長井ながい) ? - ? 長井飛驒守の妻、歌人；賀茂真淵門、
本居大平「八十浦の玉」入、

[芽子が花咲き散る小野に花ずりの衣きよそひ見る人やたれ]、
(八十浦；上31/菅原信幸母八十賀屏風絵題和歌参加/秋野に花咲ける所人立てり)

- D1201 **歌子**(うたこ・山田やまだ、修験者町田円貞の女)1810-59or6050-51 山城淀の歌人；桂園派、
近衛家に出仕、薩摩藩士山田清安の後妻；1849藩主後継問題の内紛で夫は自害；
夫に殉じようとしたが未遂、1850種子島家の後室松寿院の歌の相手として種子島に配流、
「山田歌子刀自歌」著、
[吹く風も磯うつ波も心せよまだ里なれぬ旅の枕木](配流時の詠)

参照 → 清安(きよやす・山田、藩士、国学/歌人) D 1 6 6 9

- E1280 **歌子**(うたこ・中島なかじま、又右衛門女)1845-190360 母；福島いく(幾子)、武蔵入間郡森戸村の生、
名主・豪商の家、両親が江戸の水戸藩御用達池田屋の加藤佐右衛門の養子(実質買収)；

1850年代;江戸小石川住、父が藤田東湖と交流の縁で10-15歳頃水戸支藩府中松平家出仕、1861(18歳)水戸藩士林忠左衛門と結婚;水戸五軒町住、歌;水戸国学者林寰雄・伊東祐命門、1864夫が天狗党乱に連座;65没;自害?/歌子も2ヶ月投獄、歌人;1865加藤千浪門、維新後;伊東祐命を通じ御歌所に出仕、私塾[萩の舎]を小石川の自邸に開設;歌・書を指導、樋口一葉・三宅花圃の師、

[歌子(;名)の初名/号]初名;とせ、号;萩の舎/萩園

歌重(うたしげ・歌川) → 広重(初世ひろしげ・歌川/安藤、幕臣/絵師) G 3 7 0 2

歌重(うたしげ・歌川) → 広重(3世ひろしげ・歌川/安藤、絵師) G 3 7 0 5

歌島の局(うたしまのつばね) → とよ(・小野おの、藩老女/歌人) U 3 1 4 3

雅楽将監入道(うたしろうげんにゅうどう) → 道光(どうこう、三須、連歌) E 3 1 0 0

転(うた・新田目あらため) → 道茂(みちしげ・新田目/藤原/橋本、藩士/検地) B 4 1 6 2

歌種(うたたね・手枕) → 手枕歌種(たまくらのうたたね・狂歌/戯作) S 2 6 2 4

- 1268 宇多天皇(うだてんのう、定省さだみ、光孝天皇皇子)867-93165 母;斑子女王、884臣籍;源姓/887親王、887立太子/即位;在位887-897、菅原道真を重用/897讓位;醍醐天皇に「寛平御遺誠」を贈、899仁和寺に出家;法皇の称(最初)、同母兄弟;是忠・是貞親王ら、醍醐天皇・敦慶・敦実の父、詩歌会主催;913「亭子院歌合」催;判、「寛平后宮歌合」企画、真言宗広沢流第二祖;益信門、家集「寛平御集」、「金剛界二巻次第」「胎藏界次第」「三摩耶戒文」「周易抄」「亭子院御集」著、勅撰17首;後撰(4首279/1237/1323)新古(1019/1181)続後撰(841/853)続古(3首)新千以下、[白露の変るもなにか惜しからむありての後のちもやうきものを](後撰;279、伊勢への贈歌;亭子院前栽の朝露/永らえても辛い人生;露の消えるのも惜しくはない、伊勢の返歌;植ゑたてて君がしめゆふ花れば玉と見えてや露も置くらん)

[宇多天皇の通称/法号] 通称;亭子院/寛平法皇/王侍従、法号;空理/金剛覺

宇多天皇更衣(うだてんのうのこうい) → 小八条御息所(こはちじょうのみやすどころ) D 1 9 5 9

宇多都(うたと → うたのいち) → 宇多都(うたのいち、俳人) D 1 2 0 2

優陀那院(うだないん) → 日輝(にちき;法諱・堯山、日蓮僧) B 3 3 1 8

歌野(うたの・谷) → 亀野(かめ・谷たに/岩田、真潮妹/歌人) V 1 5 0 4

- D1202 宇多都(うたのいち) ? - 1718 伊賀上野の俳人、1698「続猿蓑」1句入、

[夏菊や茄子なすびの花は先へさく](続猿蓑;下/茄子花は菊に気後れし咲いてすぐ散る)

雅楽頭(うたのかみ・酒井) → 忠孝(ただたか・酒井さかい、藩主/和学者) X 2 6 3 6

雅楽頭(うたのかみ・酒井) → 忠以(ただかね・酒井さかい、藩主/歌/俳) F 2 6 0 8

雅楽頭(うたのかみ・酒井) → 忠学(ただのり・酒井さかい、藩主/歌) U 2 6 9 3

雅楽頭(うたのかみ・安倍) → 季良(すえはる・安倍あべ、楽人) F 2 3 5 6

宇多之丞(うだのじょう・菊池) → 長良(ながよし・菊池きくち、和算家) G 3 2 4 6

- D1203 雅楽之助(うたのすけ・小沢おざわ、名;信秀/字;一仙、半兵衛男)1830-68斬首39歳 伊豆江奈の宮大工、1857遠州掛川藩主抱え/甲州に移住;勤王家;1867京で高松隊を結成、東山道諸藩の官軍への帰順成功、1868東海道総督により偽勅使として処刑される、「製鉄吹立仕法書」著、

[雅楽之助の別通称] 石田馬次郎(変名)

歌之助(うたのすけ・岡田) → 惟平(これひら・岡田おかだ、国学/歌人) Q 1 9 5 8

雅楽之助(うたのすけ・横瀬/由良) → 国繁(くにしげ・横瀬/由良、武将/連歌) C 1 7 7 6

雅楽之助(うたのすけ・志水) → 清久(きよひさ・志水しみず、藩士/歌人) U 1 6 4 5

雅楽之助(うたのすけ・島) → 重道(しげみち・島しま/出雲宿禰、神職/国学) O 2 1 8 1

雅楽之助(うたのすけ・渡辺) → 尚(ひさし・渡辺わたなべ、藩校総裁/国学) M 3 7 3 8

雅楽助(うたのすけ・松木) → 智彦(ともひこ・松木/度会、神職/歌) Q 3 1 3 3

雅楽助(うたのすけ・石野) → 英氏(ひでうじ・石野いしの、藩士/記録) C 3 7 8 1

雅楽助(うたのすけ・岸) → 岸駒(がんとく;通称、絵師) G 1 5 2 3

雅楽之助(うたのすけ・松木) → 宅彦(いえひこ・松木、神職/歌/記録) E 1 1 9 5

雅楽介(うたのすけ・佐々木) → 景欽(かげよし・佐々木ささき/香川、歌人) U 1 5 6 9

雅楽介(うたのすけ・阪) → 広雄(ひろお・阪/坂はん、神職/国学) K 3 7 7 2

雅楽允(うたのすけ・三須) → 倫篤(ともあつ・三須みす/藤原、幕臣/連歌) P 3 1 1 5

- 雅楽允(うたのすけ・長井) → 雅楽(うた・長井ながい、藩士/開国論) D 1 2 0 0
 雅楽亮(うたのすけ・鈴木/藤原) → 広視(ひろみ・鈴木/高橋/藤原、神職/歌) H 3 7 1 9
 歌の屋(うたのや) → 老平(としひら・土屋つちや/武居、歌/史家) V 3 1 7 7
- B1245 歌姫(うたひめ・遊女) ? - ? 江戸吉原江戸町松葉屋の遊女、
 近衛流書道に長ず/狂歌作者、1784京伝「たなぐひあはせ」序文、
 [ふるかぢみ施主にはつかじかくばかりわかれにつらき鐘としりせば]
 歌政(うたまさ・喜多川) → 墨僊(ぼくせん・牧まき、藩士/絵師) D 3 9 6 1
- B1297 歌麿(うたまる) ? - ? 大阪の俳人:遠舟門?、1691賀子「蓮の実」4句入、
 [夏の日やたびたび休む古手買ふるてがひ](蓮の実;258/重い荷を背負う古物買いの辛さ)
- 1270 歌麿(初世うたまる・喜多川きたがわ/北川、名;信美/字;豊章とよあき) 1753-1806⁵⁴ 江戸絵師;鳥山石燕門、
 浮世絵:版元蔦重と提携、挿絵/美人画;大首絵創始、狂歌、1804太閤記取材の錦絵;筆禍、
 1779「女鬼産」「歌枕」87「画本虫撰むしえらみ」95「狂歌江戸紫」1804「吉原青楼年中行事」外画多数、
 [喜多川歌麿の通称/別号] 通称;勇助/勇記、
 別号;豊章/哥麿うたまる/忍岡歌麿/石要/紫屋/木燕/燕岱斎/筆綾丸ふでのあやまる(狂歌名)
 門人喜田川千代女は妻か?→千代女(ちよよ・喜田川きたがわ、黄表紙の挿絵師) K 2 8 4 0
- E1253 歌麿(うたまる・今村いまむら、) 1764-1834⁷¹ 近江彦根の歌人;小原君雄門、商家?、
 [歌麿(;名)の通称] 亀次郎/作右衛門
 歌麿(2世うたまる・喜多川) → 行町(ゆき町ゆきまち・恋川、戯作/絵師) F 4 6 6 0
- 1269 宇太麻呂(うだまろ・壬生使臣みぶのおみ) ?-? 奈良期廷臣;734(天平6)正七上少外記勲十二等、
 736遣新羅使の大判官/746外従五下右京亮/750(天平勝宝2)但馬守/754玄蕃頭、
 万葉四期歌人;5首十五3612・3669・3674・3675・3702(旋頭1首・短4首;すべて新羅行の歌)
 [あをによし奈良の都に行く人もがも 草枕旅行く船の泊とまり告げむに]、
 (万葉;3612旋頭歌/詞書;備後国の水調郡みづきのこほりの長井の浦に船泊てし夜作る歌)
- E1234 歌山(うたやま;女房名) ? - ? 伊勢桑名藩主松平忠刻ただとき家に出仕、
 1798刊石野広通「霞関集」入、
 [秋風もしのびてかよふ衣手の杜もりの下かげ夕ゆふ涼しき](霞関;夏347/杜下納涼)
 宇太夫(うだゆう・木村) → 信尹(のぶだ・木村、藩士/系譜作成) B 3 5 8 6
 卯太夫(うだゆう・重松) → 道雄(みちお・重松しげまつ、国学者/歌人) J 4 1 2 5
- D1204 宇多楽庵嬉丸(うだらくあんうれしまる) ?-? 滑稽本作者;1807「夷国滑稽羽栗毛にくこっけいはねくりげ」著
- D1205 雅楽郎(うたろう;通称・田中たなか、号;楽山) ?-? 江後期1818-30頃江戸医者/尾張藩医、
 1826刊「田子養生訣」著
 宇太郎(うたろう・木下) → 籬村(いそん・木下、儒詩) E 1 1 1 2
 宇太郎(うたろう・熊坂) → 磐谷(ばんこく・熊坂/熊阪くまさか、儒者) H 3 6 6 3
 宇太郎(うたろう・野田) → 石陽(せきよう・野田、藩士/儒;徂徠学) D 2 4 9 3
 卯太郎(うたろう・坂本) → 春樹(はるき・坂本さかもと、藩士/歌) G 3 6 2 6
- B1201 雨譚(うたん・小山こやま、名;玄良) ?-1805 江戸麻布の医者(鍼医)、川柳作者:麻布永坂柳水連主導、
 1785「柳多留二十篇」の序を執筆、1783-86組連句集「柳管」初-四篇刊、
 「雨譚注万句合」著(川柳評万句合の2400句に頭注を加えたもの)、
 1776「誹風末摘花」(似実軒酔茶じつげんすいちや編)?、李牛の父、
 [高うはござりますれども初鯉](柳管)
 羽丹(うたん;字) → 宥庵(ゆうりゅう;法諱、真言僧/天台学) 4 6 8 5
- E1273 内兄(うちえ・関戸せきど、) 1824- 1900⁷⁷ 尾張名古屋の国学者;植松茂岳しげおか(1794-1876)門、
 歌人/茶の湯に通ず、歌;観尊[たち花の香]・[明治響洋歌集]入、信秋(1850-73)の父、
 [内兄(;名)の初名/通称/号]初名;信充のおぎね、通称;梅吉/梅五郎/哲太郎、号;松下軒
- B1240 雨竹(うちく) ? - ? 俳人;吏登門、1746蓼太と上方行脚
 右竹(うちく・三輪) → 秀寿(ひでひさ・三輪みわ、藩士/歌人) D 3 7 7 3
- B1241 雨竹房(うちくぼう) ? - ? 俳人;鳥酔門、1745師と箱根湯治俳集「けふ時雨」入
 内子(うちこ・曾根) → つや女(つやよ・曾根そね/森山、俳/歌人) F 2 9 8 8
- 1271 有智子内親王(うちちないしんのう、嵯峨天皇皇女) 807-847⁴¹ 母;交野女王、漢詩文に通ず、
 810(大同5)初代の賀茂斎院に卜定、823嵯峨天皇の斎院の花宴に行幸時;詩を献上、

天皇はその詠作に感動；三品を叙す、831病で嵯峨西荘へ退く、833二品、
823「春日山荘詩」著、経国集入

- D1206 **内前**(うちさき・近衛このゑ、幼名；貞君、家久男/本姓藤原) 1728-85 58 廷臣；1743内大臣/45右大臣、
1749左大臣/57関白/62摂政/68太政大臣/72関白、61「親鸞聖人五百回忌追福和歌」、
1770「倭譚覚悟備忘」71「有馬六景」、「内前公記」「後桃園天皇諒闇記」著、経熙つねひろの父
- D1207 **内郷**(うちさと・河村かわむら、別名；稻城いなぎ) 1791-1857 67 美濃武儀郡有知村の郷士、
国学者；本居春庭・市岡猛彦・富樫広蔭門、1831曾代用水係争事件解決に尽力、
「美濃国喪山考」著、大野春彦(1823-97)の師、
[内郷の通称] 忠右衛門/宗右衛門/宗兵衛
- 1272 **内実**(うちざね・一条いちじょう、号；棲心院、家経男/本姓藤原) 1276-1304 早世 29 母；松殿良嗣女、
鎌倉期廷臣；1288従三位/93正二位/1302(乾元2)内大臣、1304急病没(29歳)、
冬実・道昭らの兄、内経(関白)・慈慶(大僧正)・性厳(しょうごん)・聖信・女(後円光院北政所)の父、
歌人、1289(14歳)正応二年和歌御会/万秋門院家歌合参加、1303嘉元仙洞百首参、夫木抄入、
勅撰19首；新後撰(6首；240/807/1040/1163/1399/1459)玉(952/1464/2238)続千(3首)以下、
[夏草のいづれともなき籬にも露の色そふとこなつの花]、
(新後撰；240/瞿麦帯露、とこなつ；なでしこの古名)、
[冴え氷る雲ははれゆく朝明の日影にみがく雪の山の端]、
(玉葉；冬952/朝雪/一条内大臣名)
- 内新好(うちしんこう) → 内新好(ないしんこう、俳人/戯作) 3 2 5 3
内孝(うちたか→うちり・北島)→内孝(うちり・北島たじま、歌人/書家) E 1 2 6 5
- D1208 **内嗣**(うちつぐ・一条いちじょう、初名；内平、号；光明台院、経通男/本姓藤原) 1335-? 1362 存 廷臣；
初め北朝、母；洞院公賢女倫子、房経の兄、1344北朝権大納言；正二位、
1351南朝；関白左大臣/56出家、歌；新葉集3首；351/1089/1396、
[我が袖にやどるたよりと成りにけり月のためには落ちぬ涙も](新葉；秋351)、
(光明台院入道前関白左大臣名/夜更けまで月を見ての詠)
- 1273 **内経**(うちつね・一条いちじょう、内実長男/本姓；藤原) 1291-1325 35 母；一条実経女、鎌倉期廷臣；
1300従三位/1318(文保2)内大臣/関白/氏長者/19従一位、「大原野社告文」、歌人、
「内経公百首」著、1320文保百首参/小倉実教[藤葉集]2首入、経通の父、法号；芬陀利華院、
勅撰23首；玉葉(745/2276)続千(205/336/575/1184/1920)続後拾(414/769/864)風雅以下、
[そことしも麓は見えね朝霧に残るもうすき秋の山の端は](玉葉；秋745)
[立ち帰る猶春寒し谷陰やうちいでし波の又こほるまで](文保百首；春302/藤葉；10)、
[内経(；名)の通称]芬陀利華院関白内大臣
- C1228 **打出小槌**(うちでのこづち) ? - ? 狂歌；1787「才蔵集」入；458
[寄紙恋 すき人のあつき心をかみかけて贈る思ひや幾重なるらん]
- 内人(うちと・鑄木) → 幸雄(ゆきお・鑄木かぶらき、神職/国学) G 4 6 2 3
- 1274 **内遠**(うちとお・本居もとあり、浜田孝祖男/本居大平婿養子) 1792-1855 64 尾張国学者；1820大平門・婿、
妻；大平女藤子、1833家督/紀伊和歌山藩士；「紀伊続風土記」編纂/54江戸藩邸国学所教官、
「紀伊国古文書纂」編、「独語弁」「初榛集」「木綿垣狂歌集」「愚撰集」「古学大意」外著多数、
豊穎とよかい・荒巻利蔭としかげ・徳田正稔の父、門弟600、歌；大平撰「八十浦の玉」下巻；長歌入、
蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、
[君が代の光そはずはあつめつる螢も雪もかひやなからん](大江戸倭歌；雑2050)
[内遠の別名/通称/号]別名；鎌次郎(幼名)/高国/孝国、通称；久次郎/安次郎/弥四郎、
号；木綿垣/榛園(はりぞの)
- D1209 **内直**(うちなお・松田まつだ/本姓；賀茂県主、直兄なお3男) 1814-1856 43 京の上賀茂社祠官/正四下、
能登守/遠江守、神道/歌；父(上賀茂社祠官/歌人)門、松田大直もとなおの弟・松田直子の兄、
1852「松鶴百首」編、
[内直(；名)の初名/通称]初名；八洲彦、通称；能登守/遠江守
- B1279 **内成**(うちなり・福廼屋ふくのや、鬼外楼、藤井勘次郎) ?-? 江後期江戸小舟狂歌作者；六樹園[雅望]門、
七宝連判者、1820「山水奇観狂歌集」22「狂歌水滸伝」編、24丘山「狂歌現在奇人譚」入、
1830「狂歌雪月花」編、「狂歌書画帖」「狂歌福聚抄」「狂歌録玉川」編

- 内蔵人一条の君(うちくらんどのいちじょうのみ)→ 一条(いちじょう、貞平親王女) G 1 1 2 5
- E1265 **内孝**(うちのみ・北島きたじま、全孝たけのり2男) 1837-71³⁵ 母;淑子すみこ(甘露寺国長女)、
出雲出雲郡の出雲国造家の生、脩孝ながりの弟、国学者;本居内遠門、歌人・書家、
[内孝(;名)の初名/通称]初名;以孝、通称;俱主ともぬし
裡葉内侍(うちばのないし、裏葉内侍)→ 永福門院内侍(えいふくもんいんのないし) 1 3 4 5
- D1210 **内平**(うちひら・松岡まつおか/本姓;源、忠甫男) 1786-1849^{64歳} 信濃安曇郡長尾村役人、
国学者;中村守臣門、1820本居大平門・本居春庭・足代弘訓門、
帰郷後;春廼舎はるのや社を興行/歌人、「幸袋」「浅間のすさび」「花かたみ」「松のみどり袋」、
「佐喜草の根」「四季のすさび」「伊勢の藻塩草」「老のしをり」著、
大平撰「八十浦の玉」下巻長歌(736)・短歌入、
[まき柱ふとき心のますらをもたわやめなしてめづる秋の野](八十浦;806)、
[内平(;名)の別名/通称/号]別名;忠郷、通称;己一郎/治部左衛門
号;平臣ひらおみ/春廼舎/有明廼屋/明の舎/貢也/懸静居/長岳/山柿門、屋号;田屋
内平(うちひら・一条) → 内嗣(うちつぐ・一条、廷臣;北→南朝/歌) D 1 2 0 8
- D1211 **内広**(うちひろ・小池こいけ、別名;氏広) 1832-77^{46歳} 越後蒲原郡の化粧品製造業、国学/神道:
平田鉄胤門/諸国歴遊し地誌研究/勤王派;戊辰戦に官軍方/1869越後府社寺取調掛、
弥彦神社権宮司/飛騨水無神社社司、
「神祭神略記」「越後国青海神社考」「和那美之水門考」著、
[内広(;名)の通称/号]通称;治五郎/弥兵衛、号;巖藻/静室主人、屋号;紅屋
内房(うちふさ・一条) → 兼輝(かねてる・一条、関白/故実家) O 1 5 6 6
内丸(うちまる・須藤) → 内膳(ないぜん・須藤、神職) 3 2 5 4
- D1212 **内麻呂**(内鷹うちまろ・藤原ふじわら、通称;後長岡大臣、真楯男) 756-812⁵⁷ 廷臣;794参議/806右大臣、
母;安倍帯麿女、冬嗣/衛の父、贈左大臣従一位、803「延暦交替式」、「石山寺交替式写」著
- D1213 **内基**(うちもと・一条いちじょう、一字名;杏、房通男) 1548-1611⁶⁴ 兄兼冬の嗣;安桃・江前期廷臣、
1576右大臣/77左大臣/81関白/従一位/氏長者、連歌;「聖護院道澄一条内基等何人百韻」
[内基(;名)の号]号;翫月、法号;自浄心院、
内山僧正(うちやまのそうじょう)→ 尋範(じんぱん;法諱、法相僧/歌人) 2 2 6 8
- B1242 **宇中**(うちゅう・和田わた、通称;菓種屋治平)?-1725 加賀小松の商家/俳人;支考門、小松俳壇中心、
1703「夜話ぐるひ」;支考と共編、06「百がらす集」編/08「東六鳳」編、
[宇中の別号] 寂保斎/桜鳥仙おううせん/不五舎人/北花坊
- B1243 **有中**(うちゅう)?- ? 俳人;祇川門、1802刊「俳諧七部拾遺」に「俳諧一橋」入
右中(うちゅう・勅使河原)→ 直誠(なおのぶ・勅使河原てしがわら/滝、藩士歌) N 3 2 9 3
右仲(うちゅう・斎藤) → 信幸(のぶゆき・斎藤さいとう、神職/国学) D 3 5 6 5
右仲(うちゅう・業合) → 大枝(おおえ・業合なりあい、神職/国学) B 1 4 7 0
右仲(うちゅう・亀田) → 末雅(すえもと・亀田/藤原/度会/福井/黒瀬、神職) F 2 3 3 5
右仲(うちゅう・樋口) → 周南(しゅうなん・樋口ひぐち、医者) I 2 1 1 9
右仲(うちゅう・永井) → 正峯(せいほう・串原/遠山/永井、和算家) J 2 4 6 3
右仲(うちゅう・黒沢) → 雉岡(ちこう・黒沢くろさわ、儒者) E 2 8 1 4
右仲(うちゅう・野村) → 素介(もとすけ・野村のむら/有地、藩士/政治/書) K 4 4 9 2
宇宙閑人(ちゅうかんじん) → 東郊(とうこう・壇だん、儒者) D 3 1 9 3
- B1244 **雨中齋**(うちゅうさい) ?- ? 江戸中期俳人、1729「独峰伝」著
右仲太(うちゅうた・山本) → 昌蔭(まさかげ・山本やまもと/源/中島、藩士/国学) O 4 0 8 9
宇宙堂(ちゅうどう) → 小三郎(こさぶろう・赤松/芦田、兵学者) M 1 9 5 5
宇宙堂(ちゅうどう) → 五観(ごかん・いつみ・内田うちだ、和算/天文) F 1 9 5 2
- D1214 **鳥頂**(ちりょう・井口いぐち、通称;市郎右衛門、別号;関井/走り井)?-? 江後期近江大津走井の餅商、
俳人;蝶夢門、「真蹟発句帖」、1781頃「走り井帖」著
- D1215 **羽長**(ちりょう・清水しみず、名;円)?- ? 江末期会津若松の医者;会津藩侍医望月家で修学、
奇薬収蔵し艾灸療法に精通、武術;剣術指導;門人多数、俳諧を嗜む、「外科訓」「僻疾論」著、
1856「俳諧萩日集」編、57「清雅集」著、
[羽長(;号)の字/通称/別号]字;義友、通称;伝左衛門、別号;一清庵/業斎

- 宇朝(うちょう・俳号) → 正章(まさあき・朝岡、儒/故実/俳) B 4 0 0 5
 雨聴(うちょう・三坂) → 美信(よしのぶ・三坂/三坂みさか、心学者) F 4 7 6 4
 E1219 有頂天長(うちょうてんちやう) ? - ? 江戸狂歌;1787「才蔵集」入;
 [野に匂ふ烟のくさの舞雲雀声をこまかにきざむ春風](才蔵集;一57、
 烟・舞・刻むは煙草の縁語/野焼の烟と煙草を掛る/風に声が途切れると煙草を刻むを掛る)
 迂直斎(うちよくさい・武田) → 豊城(とよき・武田たけだ、藩士/歌人) T 3 1 5 2
 団扇(うちわ) → 団扇(だんせん、俳人) Q 2 6 1 0
 団扇堂(うちわどう) → 百合(ひやくごう/ゆり・浅田、俳人) E 3 7 4 6
 蔚(うつ・大喜多) → 蔚(しげる・大喜多おおきた/泰山、諸学/教育) T 2 1 1 8
 蔚(うつ・小野) → 顕栄(あきひで・小野おの、神職/国学) H 1 0 1 8
 四月坊(うづきぼう) → 布門(ふもん・桑原/井上、医者/俳人) E 3 8 1 7
 寵(うつく、うづく・源) → 寵(ちやう、源精女、歌人) H 2 8 0 6
 B1246 身空田鈍太郎末孫白面書生(うつけたどんたろうがぼつそんはくめんしのしよせい) [人物未詳] ?-?
 1855仮名草子評判記「桃源集」著
 B1247 宇津山人菖蒲房(うつさんじんしょうぼう) ?-? 晰家、1773晰本「飛談語とびだんご」序
 蔚処人(うつしょじん) → 鉄石(てつせき・藤本、勤王/天誅組) C 3 0 5 1
 鬱潭(うつたん;号) → 針水(しんすい;法諱、真宗本願寺派僧) O 2 2 9 8
 うつの山坊(うつのやまぼう) → 黒露(くろく・山口やまぐち、俳人) C 1 9 4 0
 E1249 梁(うつぱり・飯田いいた/本姓;奥村、飯田慈峰三男) ?-1832 相模小田原の国学者・歌人、屋号;綿屋、
 父(賀茂真淵門人)門、
 [梁(;名)の通称] 喜兵衛
 B1280 梁仲墨(うつぱりのなかずみ) ? - ? 狂歌作者、徳和歌後万載集1首入:870、
 [石清水みてきた様ようにはなし鳥数は知らねど八まんもある](後万載;神祇870)、
 (石清水八幡の放生会について人の話すを聞きて)
 靱の家(うつぼのや/ゆぎのや) → 伴雄(ともお・長沢、藩士/故実/国学/歌) P 3 1 2 3
 靱舎(うつぼのや/ゆぎのや) → 守一(もりかず・関せき、神職/国学者) F 4 4 3 0
 靱舎(うつぼのや/ゆぎのや) → 顕光(あきみつ・柴田しばた、神職/歌人) H 1 0 7 2
 宇都宮入道(うつのみやにゅうどう) → 頼綱(よりつな・宇都宮、領主/浄土僧/歌) 4 7 3 3
 蔚明(うつめい・丸山) → 蔚明(もちあき・丸山、藩士/文運興隆) B 4 4 2 7
 E1278 遷(うつる・谷口たにぐち、) 1830 - 1892 63 近江甲賀郡岩根村の医家の生、
 大坂で華岡準平(青洲の娘婿)門/塾頭、帰郷;家業の医を継嗣;門弟指導、
 歌人;香川景樹門/詩人;広瀬旭莊門、
 [遷(;名)の字/号]字;喬卿、号;文達/春齋
 D1216 雨鼎(うてい、植木うえき、玄卿[遯窩]男) 1786-1838 53 丹波氷上郡和田村の医者、
 儒;南涯門・詩文を能くす、茶山/敬所らと交流、環山(友風/儒医・詩歌人)の父、
 「讚藝紀行」「一日百首」著、
 [雨鼎(;号)の名/字/通称]名;文剛、字;公賁、通称;簡修
 烏亭[窓](うてい[そう]) → 焉馬(えんば・立川たてかわ、狂歌/戯作/落語) B 1 3 3 3
 迂亭(うてい・頼) → 支峯(しほう・頼らい、儒者) F 2 1 7 0
 迂亭(うてい・永山) → 二水(じすい/にすい・永山ながやま、藩儒) T 2 1 9 6
 迂亭(うてい・桜間) → 青崖(せいがい・桜間さくらま/山中、絵師) H 2 4 7 5
 雨亭(うてい・福山) → 鳳洲(ほうしゅう・福山/福/杉山、儒者) B 3 9 4 0
 雨亭(うてい・加須屋) → 利章(としあき・加須屋かすや、藩士/国学) U 3 1 6 3
 卯亭(うてい・葛飾) → 北鳴(ほくめい・葛飾かつしか、絵師) D 3 9 9 7
 D1235 雨滴庵松林(うてきあんしょうりん) ?- ? 浮世草子作者;「風流夢浮橋」著
 易学の馬場信武と同一? → 信武(のぶたけ・馬場、軍談) B 3 5 7 8
 雨田(うでん・島地) → 黙雷(もくらい;法諱・島地/清水、真宗僧) B 4 4 1 2
 雨田舎(うでんしゃ) → 行虎(みちたけ・加藤/柴田、医者/歌人) B 4 1 7 4
 D1217 雨桐(うどう) ? - ? 尾張名古屋の俳人;芭蕉門、
 1686「春の日」9句/89「あら野」1句入

[雁きゝてまたひと寝入りする夜かな](春の日;秋)

- 1275 **于当**(雨当うとう・三津川みづかわ、通称;弥右衛門、別号;淵斎/猿後園)1763-1828⁶⁶ 近江坂本俳人、
;暁台門、1778幻住庵重修理、1798注釈「桃青翁句彙」/99「桃青翁句彙後編」、
1809/26「関清水物語」、「篠波集」著、[旅人となれば雪降る二月かな]
- D1218 **右稻**(うとう・植木うえき、名;裕益、葉月[八月]庵)?-1801? 羽後亀田の俳人;五明・月居門、
和泉佐野に住、1790二条家より[花の本]の称号、「俳諧深山菜」著
- D1219 **雨塘**(初世うとう・下河原しもがわら)?-? 下総の俳人;柳居門、2世雨塘の祖父
- 1276 **雨塘**(2世うとう・下河原しもがわら、五嶺館/眉尺、露柱庵5世、兎石男)1758-1832⁷⁵ 下総の俳人;白雄門、
祖父の雨塘を継承、[麦刈やはこべがくれに鳴く蛙]
- D1220 **迂堂**(うどう・眞山まやま、名;愿、字;陳逸/子恭、順治男)1822-81⁶⁰ 陸前仙台の生;貧窮の中で勉強、
仙台藩士;穀物改役、藩校養賢堂指南/目付、儒/地理;地球儀製作;地球先生と称される、
戊辰戦で国事に奔走、「松窓漫吟」著、
[迂堂の通称/別号]通称;保兵衛/温治、受洗名;保羅、別号;松窓/五斗翁/間放野夫
- 右藤太(うとうだ・大竹) → 言近(のぶちか・大竹おおたけ/中臣、国学者)H 3 5 6 8
うとき(物事の) → 物部疎(ものべのうとし、狂歌) E 4 4 8 6
疎(うとし) → 物部疎(ものべのうとし、狂歌) E 4 4 8 6
内舎人入道(うどねりにゅうどう) → 壹演(いちえん/いつえん;法諱、廷臣/真言僧)G 1 1 0 5
烏兎坊(うとぼう) → 眉山(初世びざん・中山なかやま、俳人) C 3 7 2 5
禹鈍(うどん) → 驚驢突先生(どろつきせんせい、狂文) S 3 1 0 0
- B1248 **疎人**(うとんど・勘定かんじょうの、本名;花島はなじま平蔵)?-? 江中期江戸深川土橋の狂歌作者、
1785徳和歌後万載/87才蔵集/新玉集/俳優風などに入
[我思ふひとは磯辺の松なれやすねた姿のなほぞ目につく]
- D1221 **宇内**(うない・田宮たみや)1761 - 1830 土佐赤岡村の郷士/儒;箕浦立斎・中井竹山門、
京で開塾/1806帰郷;北固私塾を開設;経史・書を教授/土佐藩主の侍講、「雞肋文集」著
- 右内(うない・中神) → 琴溪(きんけい・中神なかがみ、医者) Q 1 6 8 2
右内(うない・巻) → 菱湖(りょうこ・巻まき/館、書家) H 4 9 4 2
右内(うない・本堂) → 英興(ひでおき・本堂ほんどう、藩士/国学者)K 3 7 9 8
右内(うない・満山) → 雷夏(らいか・満山みつやま、藩儒;教育者) 4 8 2 4
右内(うない・岩井) → 重遠(しげとお・岩井/巖井/祝いかい、和算)R 2 1 6 4
宇内(うない・渋江) → 松石(しょうせき・渋江、儒者/藩士/神職)T 2 2 8 4
宇内(うない・鳥山) → 松岳(すうがく・鳥山とりやま、儒/詩人) 2 3 9 6
- 1277 **菟原壮士**(うないおとこ) ? - ? 万葉伝説歌人物、九1809・4211
- 1278 **菟原処女**(うないおとめ・宇奈比・芦屋処女)?-? 万葉伝説歌人物、1809-11、4212
- 1279 **海上安是嬢子**(うなかみのあぜのいらつめ)?-? 常陸風土記・伝説美少女;松と化す
- 1280 **海上女王**(うなかみのおおきみ、志貴皇子の女)?-? 奈良期歌人:724(神亀元)従三位、
万葉三期歌人;四530題詞/531:聖武天皇への答歌、
[梓弓爪つま引く夜音よとの遠音とおともにも君が御幸を聞かくし好よしも](万葉;531返歌)
- 海原中道(うなばらのなかみち;狂歌) → 元貫(もとつら・津田つた、医者/狂歌)D 4 4 2 0
- D1222 **自惚**(うぬぼれ・黄山きやま・通称;池田屋久三郎)?-? 江戸横山町絵師;北斎門/草双紙作者、
1784「万歳之嶋台」86「前々太平記」、「絵本万歳島台」「神楽の拍子」「万たび物語」著、
[黄山自惚の別号] 自惚山人/黄山人/十文字舎自惚じゅうもんじやじつ/葛飾北水(;画号)
- 畝夫(うねお・太田) → 保興(やすおき・太田おた/源、教育/歌人)F 4 5 5 4
- D1223 **畦臣**(うねおみ・富田とみた、字;子穂/通称;与右衛門、大橋小伝次男)1756-1828⁷³ 叔母富田氏の養子、
名古屋藩士/脚病のため致仕、信玄流小幡一統派軍学;父門/軍学教授、
歌:「富田畦臣家集」、「古文眞實後集悉註」「文選积文」著、
[畦臣の号] 大里/梓軒しげん/竹荘、法号;富田院
- 卯年吉(うねきち・山本) → 梅逸(ばいつ・山本やまもと、絵師) 3 6 5 3
畝彦(うねひこ・佐藤) → 斌彦(あきひこ・佐藤まさとう/飯塚、里正/国学)H 1 0 6 5
- E1282 **采女**(うねめ・長沼ながぬま、)1642-1713⁷² 駿河沼津の真田信幸の家臣、和学者、
[采女(;名)の号]石臥/左右軒

- 采女(うねめ) → 近江采女(おうみのうねめ) B 1 4 9 8
 采女(うねめ) → 明日香采女(あすかのうねめ) C 1 0 8 9
 采女(うねめ・竹本・梁塵軒) → 越前少掾(えちぜんのしょうじょう・豊竹、浄太夫/作) 1 3 0 9
 采女(うねめ・杉村) → 直記(なおき・杉村、家老) B 3 2 0 6
 采女(うねめ・堀田) → 正朝(まさとも・堀田ほった、藩主/茶道) S 4 0 4 3
 采女(うねめ・上杉) → 義陳(よしつら・上杉うえずぎ、高家旗本/歌) Q 4 7 1 8
 采女(うねめ・中川) → 長輝(ながてる・中川なががわ、藩士/記録) E 3 2 6 1
 采女(うねめ・松平) → 信興(のぶおき・松平まつだいら、藩主/文筆) B 3 5 0 1
 采女(うねめ・米倉) → 長昌(ながまさ・米倉よねくら/源、幕臣/歌) K 3 2 1 3
 采女(うねめ・中川) → 典義(のりよし・中川、家老/日記・記録) G 3 5 2 8
 采女(うねめ・藤堂) → 元甫(もととし・藤堂とうどう、藩士/地誌家) D 4 4 2 9
 采女(うねめ・黒沢) → 元重(もとしげ・黒沢/上曾、藩士/歌) C 4 4 6 0
 采女(うねめ・石井) → 忠虎(ただとら・石井、兵法家) E 2 6 4 5
 采女(うねめ・臼井) → 房輝(ふさてる・臼井うすい、幕臣/歌人) C 3 8 1 9
 采女(うねめ・北原) → 光裕(みつひろ・北原、藩士/史家/画) E 4 1 7 1
 采女(うねめ・狩野) → 探幽(たんゆう・狩野、絵師) I 2 6 6 1
 采女(うねめ・狩野) → 洞雲(とううん・狩野かのう、探幽門/絵師) B 3 1 2 0
 采女(うねめ・狩野) → 洞春(とうしゅん・狩野、洞雲の養子/絵師) F 3 1 0 7
 采女(うねめ・益田) → 広堯(ひろあき/ひろたか・益田ますだ/繁沢、家老) L 3 7 0 0
 采女(うねめ・眞宮) → 定広(さだひろ・眞宮まみや、藩士/歌人) J 2 0 5 7
 采女(うねめ・宮本) → 池臣(いけおみ・宮本みやもと/毛呂もろ、神職) F 1 1 3 8
 采女(うねめ・宮本) → 千穎(ちかひ・宮本、池臣男/神職/国学) N 2 8 6 3
 采女(うねめ・京極) → 高広(たかひろ・京極きょうごく、藩主) N 2 6 0 5
 采女(うねめ・岩城) → 隆恕(たかのり/たかひろ・岩城いわき、藩主/歌) D 2 6 4 6
 采女(うねめ・芥川) → 丹丘(たんきゅう・芥川、儒者/華音) I 2 6 0 5
 采女(うねめ・福井) → 春水(しゅんすい・福井ふくい、本草家) L 2 1 2 0
 采女(うねめ・松井) → 清柏(せいはく・松井まつい/平、医者) J 2 4 4 0
 采女(うねめ・座光寺) → 為磧(ためかた・座光寺ざこうじ、領主/歌人) X 2 6 2 8
 采女(うねめ・高橋) → 清臣(きよおみ・高橋たかはし/穴井、神職/尊攘) U 1 6 6 6
 采女(うねめ・牧野) → 竹所(ちくしょ・牧野まきの、幕臣/詩人) D 2 8 1 8
 采女(うねめ・水野) → 重明(しげあき・水野みずの、幕臣) Q 2 1 5 1
 采女(うねめ・大沢) → 清臣(すけおみ・大沢おおさわ、神道家) F 2 3 8 2
 采女(うねめ・臼井) → 秋澄(あきずみ・臼井うすい、旗本/歌人) G 1 0 6 1
 采女(うねめ・赤塚) → 孫重(まごしげ・赤塚あかつか、神職/歌人) N 4 0 0 5
 采女(うねめ・長岡) → 秋道(あきみち・長岡/栗田、神職/歌) I 1 0 1 6
 采女右衛門(うねめえもん・有沢) → 永貞(ながさだ・有沢、軍学者) D 3 2 6 5
 采女吉(うねめのきち・有沢) → 師貞(もろさだ・有沢ありさわ、藩士/軍学) H 4 4 2 1
 采女正(うねめのしょう・服部) → 一忠(かずただ・服部はっとり、小平太、武将) M 1 5 2 5
 采女正(うねめのしょう・土屋) → 寅直(とらなお・土屋、藩主) R 3 1 7 7
 采女正(うねめのしょう・京極) → 高広(たかひろ・京極きょうごく、藩主) N 2 6 0 5
 采女正(うねめのしょう・土屋) → 寅直(とらなお・土屋つちや、藩主) R 3 1 7 7
 采女正(うねめのしょう・戸田) → 氏教(うじのり・戸田とだ/藤原、藩主) C 1 2 5 7
 采女佑(うねめのすけ・高橋) → 俊璿(としひさ・高橋たかはし、廷臣) N 3 1 4 7
 采女助(うねめのすけ・最上) → 義連(よしつら・最上もがみ/源/井上、幕臣) K 4 7 8 3
 禹年(うねん・矢島) → 立軒(りっけん・矢島やじま、藩儒) B 4 9 7 7
 E1283 宇野(うの・沼田ぬまた、名;清きよ/号;香雪) 1817-1905 89 出羽横手の歌人/新体詩
 卯之吉(うのきち・堀) → 秀成(ひでなり・堀ほり、藩士/国学;音韻) D 3 7 5 2
 鶴ノ木の行観(うのきのぎょうかん) → 行観(ぎょうかん・称・覚融、浄土宗西山派僧) N 1 6 5 5
 卯之助(うのすけ・今村) → 正相(まさすけ・今村/源、藩士/兵法家) C 4 0 9 0

- 卯之助(うのすけ・水野) → 忠友(ただとも・水野みずの、藩主/老中) Q 2 6 1 4
卯之助(うのすけ・酒井) → 忠塚(ただきし・酒井さかい、幕臣/和学者) X 2 6 3 5
卯之助(うのすけ・本多) → 助芳(すけよし・本多ほんだ、藩主/国学) J 2 3 2 3
卯之助(うのすけ・伊達) → 宗房(むねふさ・伊達だて/田手、領主) D 4 2 9 1
卯之助(右之助うのすけ・奥宮) → 晁峰(ぎょうほう・奥宮おくみや、儒/書家) I 1 6 8 2
卯之助(宇之助うのすけ・山本) → 素堂(そどう・山本やまもと、儒者/絵師) K 2 5 2 4
卯之助(うのすけ・高橋) → 義泰(よしやす・高橋たかはし、藩士/和算家) H 4 7 8 4
卯之助(うのすけ・大岡) → 忠幸(ただゆき・大岡おおおか/藤原、歌人) U 2 6 5 2
卯之助(うのすけ・碧川) → 好尚(よしひさ・碧川みどりかわ、藩士/国学) G 4 7 3 1
卯之助(うのすけ・福田/丹羽) → 正雄(まさお・丹羽、農家/廷臣/勤王家) B 4 0 4 2
卯之助(うのすけ・青木) → 永古(ながひさ・青木あおき、神職/歌人) K 3 2 7 2
卯之助(うのすけ・立川) → 政峯(まさみね・立川たちかわ、歌人) Q 4 0 8 3
卯之助(うのすけ・伊藤) → 祐之(すけゆき・伊藤いとう/広沢、剣道/歌) L 2 3 3 7
卯之介(うのすけ・河原) → 雄蔵(ゆうぞう・太田/河原、商人/棋士) D 4 6 3 3
卯時庵(うのとときあん) → 珪琳(けいりん) 1 8 9 4
鷗野讚良皇女(うののさららのひめみこ) → 持統天皇(じとうてんのう) 2 1 2 9
菟野皇女(うののひめみこ) → 持統天皇(じとうてんのう) 2 1 2 9
卯花窓(うのはなそう) → 尺庵(せきりゅう・吉沢、国学/俳人) D 2 4 9 6
- D1224 雨柏(うはく) ? - ? 加賀鶴来の俳人、1691北枝「卯辰集」2句入、
[蛙子かへるこの泳ぎ習ひし古江かな](卯辰集;94/古びた池の入江でオマジヤクが泳ぎ回る)
- D1225 宇白(うはく) ? - ? 越前石動の俳人、1691北枝「卯辰集」2句入、
[塩ざかひしろ魚のかぎり風情あり](卯辰集;40/潮目の境を白魚が群れて遡る)
- D1226 宇白(うはく) ? - ? 筑前福岡の野坡系の俳人;万里門か?、
万里追善のため;1758(宝暦89「柴のほまれ集」「後の月集」編
- E1220 宇柏(うはく・岩室いわむろ、通称:善九郎、楽々男)?-1825 安藝広島醸造業/俳人、
松宇[6代喜右衛門]の弟、[花に人鳥よりは又まさりけり](短冊)
- 于伯(うはく・建部) → 尚行(なおゆき・建部たけべ、庄屋/国学/詩) N 3 2 7 7
雨白(うはく・松寿亭) → 益江(ますえ・松井まつい、藩士/本草/歌) S 4 0 6 1
右麦(うばく・桑原) → 右麦(うばく・桑原くわばら、俳人) D 4 6 5 8
禹麦(うばく・伊村) → 鷗沙(鷗砂おうしゃ/おうさ・伊村、俳人/書) 1 4 4 8
姥尉助(姥尉輔うばじょうすけ) → 南北(なんぼく・四世鶴屋、歌舞伎作) 3 2 3 5
鳥柏園(うはくえん) → 念斎(ねんさい・大縄おおなわ、藩士/詩人) 3 4 6 4
禹白堂(うはくどう) → 仏牛(ぶつぎゅう・天羽あもろ、藩士/俳人) D 3 8 2 8
姥尉助(3世うばじょうすけ) → 如臯(3世じょうこう・瀬川せがわ、歌舞伎作者) C 2 2 4 6
優婆塞竺愷(うばそくじくがい) → 千蔭(ちかげ・加藤/橋、国学/歌人) 2 8 0 3
卯八(うはち・田村) → 顕国(あきくに・田村たむら、国学者/神道) H 1 0 8 6
宇八郎(うはちろう・齋藤) → 鶴磯(かくき・齋藤さいとう、儒者) H 1 5 2 4
宇八郎(うはちろう・山屋) → 勝秀(かつひで・山屋やまや、藩士/和漢学) N 1 5 8 0
宇八郎(うはちろう・檜山) → 隆膺(たかむね・檜山ならやま、国学/歌人) N 2 6 3 4
有髪散人(うはつさんじん、俳人) → 白雪(はくせつ・太田) D 3 6 4 8
卯はる(うはる) → 白鯉館卯雲(はくりかんぼううん、木室、幕臣/狂歌/嘶本) 3 6 1 2
- E1222 右兵衛(うひょうえ、姓名不詳)?- ? 万葉歌人;十六3837;酒宴催し蓮葉の歌を詠(左注)
[ひさかたの雨も降らぬか蓮葉はちすはに淳たまれる水の玉に似たる見む](万葉;3837)
- 右兵衛(うひょうえ・檜垣) → 貞親(さだちか・檜垣/度会、神職) I 2 0 5 0
右兵衛(うひょうえ・檜垣) → 常名(つねな・檜垣ひがき/度会、神職/歌) C 2 9 7 7
右兵衛(うひょうえ・松田) → 葵亭(きてい・松田まつだ、儒者) L 1 6 5 3
右兵衛(うひょうえ・新藤) → 安精(やすきよ・新藤しんどう、藩士/文筆) B 4 5 3 0
右兵衛(うひょうえ・石王) → 文丸(ふみまる・石王いしおう/矢田部、神職/歌) H 3 8 9 8
右兵衛督(うひょうえのかみ) → 兵衛(ひょうえ・待賢門院/上西門院女房) 3 7 3 7
右兵衛督(うひょうえのかみ・徳川) → 宗睦(むねちか・徳川/松平/源、藩主/詩歌) B 4 2 6 0

右兵衛尉(うひょうえのじょう・安藤)→為実(ためざね・安藤、国学/歌人) G 2 6 8 6
右兵衛尉(うひょうえのじょう・岡部)→長常(ながつね・岡部おかべ、幕臣/奉行) E 3 2 5 7
右兵衛佐(うひょうえのすけ・浅野)→長晟(ながあきら・浅野あさの、藩主) K 3 2 7 9
右兵衛大尉(うひょうえのだいじょう・速水/座田)→惟貞(これさだ・座田さいだ、国学) E 1 9 2 0
宇風(うふう・辻) → 秋広(あきひろ・辻つじ、歌人) H 1 0 9 8

D1228 有物(うぶつ・石原いしはら) ? - 1841 上州佐波郡境町の俳人;小蓑庵碓嶺門、
1827(文政10)「俳諧一字題句合」編、

[有物(;号)の名/別号]名:弥七、別号:蛙声斎/其日庵/牽牛庵

右文(うぶん・朝枝) → 文信(ふみのぶ・朝枝あさえだ/長多、藩士/歌) H 3 8 9 4
鳥文斎(うぶんさい) → 峨眉丸(がびまる・月斎げっさい、絵師) P 1 5 2 1

D1229 宇平(うへい) ? - ? 俳人;1781「探荷たんか集」編;嵐雪の点印/探荷の高点発句集;
以後2・3編を白麻/4編を星衣/5・6編を完来が継承

右平(うへい・安藤) → 為章(ためあき・安藤あんど、国学/歌人) 2 6 5 4
卯平(うへい・田中) → 信謹(さねもり・田中/若林、儒者/医) L 2 0 4 4
卯平(うへい・久田) → 祐利(すけとし・久田ひさだ、紺屋/歌人) J 2 3 0 4
宇米園(うべいえん/うめその) → 春雄(はるお・河村、国学者) G 3 6 0 3
宇平次(うへいじ・金) → 岳陽(がくよう・金こん、儒者) H 1 5 8 0
卯平次(うへいじ・田村) → 顕行(あきゆき・田村たむら、国学/神道) H 1 0 8 7
卯平次(うへいじ・田村) → 清真(きよざね・田村、顕行男/国学者) U 1 6 5 9

D1230 宇平太(うへいた・田上たがみ、高杉小左衛門春明男) 1810-6960 長門萩藩士;田上平兵衛の養子、
儒;藩校で修学/蘭学;伊藤玄朴門、1850洋書類翻訳用掛/帰藩;西洋学師範用掛/目付、
長幕開戦;北第五大隊軍監、1849「海岸砲台略説」訳、

[宇平太(;通称)の名/別通称]名:由準/任準、別通称鶴五郎/源三、法号;鉄心軒

宇平太(うへいた・牛島) → 盛庸(もりつね・牛島うじま、和算家) F 4 4 8 0

D1231 宇兵衛(うへえ・伏見屋ふしみや)?- ? 江後期大阪の絵師、1780「御霊宮祭礼渡御図」、「天狗通」画

宇兵衛(うへえ・山形) → 長年(ながとし・山形やまがた、藩士/文筆) E 3 2 8 6
宇兵衛(うへえ・山形屋) → 高春(たかはる・山形やまがた、商家/歌人) 2 7 0 9
宇兵衛(うへえ・林) → 信亮(のぶすけ・林はやし、幕府儒官) B 3 5 6 8
宇兵衛(うへえ・宮川) → 松堅(しょうけん・宮川みやがわ、歌・俳人) S 2 2 0 6
宇兵衛(うへえ・杉木) → 正珍(まさつら・杉木すぎき/秦、神職/歌人) U 4 0 0 2
宇兵衛(うへえ・森野) → 冶天(やてん・森野もりの、藩士/医者/俳人) D 4 5 8 2
宇兵衛(うへえ・狩野) → 春湖(しゅんこ・狩野かのう/黒沢、絵師) J 2 1 5 2
宇兵衛(うへえ・津田) → 信成(のぶなり・津田、藩士/文筆) C 3 5 6 3
宇兵衛(うへえ・河内屋) → 祐佐(ゆうさ・伴ばん、書肆/浮世草子) B 4 6 6 9
宇兵衛(うへえ・島村) → 秋江(しゅうこう・島村しまむら/永野、藩儒) X 2 1 1 9
宇兵衛(うへえ・新井) → 有雄(在雄/蟻雄ありお・新井あらい、国学) C 1 0 3 1
宇兵衛(うへえ・中村) → 克正(かつまさ・中村なかむら、藩士/記録) N 1 5 8 7
宇兵衛(うへえ・成田) → 明遠(あきとお・成田なりた、藩士/儒/詩歌) I 1 0 1 8
宇兵衛(うへえ・野村) → 貞則(さだのり・野村のむら、藩士/国学/歌) P 2 0 1 0
宇兵衛(うへえ・牧野) → 義長(よしなが・牧野まきの、製菓/歌人) P 4 7 0 7
右兵衛(うへえ・村田) → 春道(はるみち・村田むらた、商人/国学/歌) 3 6 3 7
右兵衛(うへえ・檜垣) → 貞董(さだのぶ・檜垣/度会/松本、神職) J 2 0 2 0
右兵衛(うへえ・藤田) → 長孟(ながたか・藤田ふじた、国学者) O 3 2 5 9
右兵衛(うへえ・蓬萊) → 尚知(ひさあき・蓬萊ほうらい/磯辺、神職) K 3 7 9 3
右兵衛(うへえ・二見) → 定津(さだやす・二見ふたみ/堤、神職/国学) P 2 0 2 7
右兵衛(うへえ・堀家) → 善政(よしまさ・堀家ほりけ、神職/国学) P 4 7 0 1
右兵衛(うへえ・堀家) → 広政(ひろまさ・堀家、善政男/神職/国学) K 3 7 9 6
右兵衛(うへえ・堀家) → 輔政(すけまさ・堀家、広政孫/神職/国学) J 2 3 2 1
卯兵衛(初世宇兵衛うへえ・加賀屋) → 敬房(たかふさ・中西、書肆/暦算家) N 2 6 1 3
卯兵衛(うへえ・紅屋) → 馬宥(ばゆう・堀田/芳井、俳人) F 3 6 7 7

- 卯兵衛(うへえ・菊屋) → 鞠塙(きくう・佐原/北野、商家/俳人) J 1 6 9 9
卯兵衛(うへえ・鎰屋/鍵屋) → 黙我(もくが・安藤、商家/俳人) 4 4 7 2
卯兵衛(うへえ・金屋/物集) → 高世(たかよ・物集もずめ、国学者/歌学) E 2 6 0 3
卯兵衛(うへえ・阿波屋) → 祐利(すけとし・久田ひさだ、紺屋/歌人) J 2 3 0 4
- D1232 羽峯(うほう・南摩なんま、綱雅男) 1823-1909 87歳 岩代会津若松藩士/儒者:1847昌平黌に修学、
蘭学;杉田成卿門、1855藩命で関西を歴訪/62蝦夷視察/67藩邸の学職、
会津陥落後の越後高田で禁錮、「負笈管見」「内国史略」著、
[羽峯(;号)の名/字/通称]名;綱紀、字;士張、通称;三郎/八之丞
烏帽山人(うぼうさんじん) → 夢宅(むたく・桃沢ももさわ、名主/歌人) 4 2 8 6
羽北(うほく・狩野) → 良知(りょうち・狩野かのう、藩士/儒者) I 4 9 8 6
烏朴(うぼく・池田/谷) → 素外(そがい・谷たに/池田、商家/俳人) D 2 5 4 0
雨木(うぼく・泉いずみ) → 舎暉(いえてる・泉/荒木田、神職/詩歌) E 1 1 8 7
- D1233 馬(うま/むま) ? - ? 平安前期齋宮か齋院に出仕の女房/歌人;
977三条左大臣頼忠家前裁合参、後撰集1312、後撰1094詞書の馬(齋院の女房)と同一?、
[君が手をかれゆく秋の末にしものがひに放つ馬むまぞかなしき](後撰;離別羈旅1312)
(急に伊勢に旅立つ時に同僚からもらった送別歌への返歌/離れと枯れの掛詞)
馬命婦との関係不詳? → 馬命婦(うまのみょうぶ) D 1 2 3 4
美石(うまいし・中山) → 美石(うまいし・中山、国学/歌人) 1 2 8 6
- 1282 馬長(うまおさ/むまなが・田口たぐち朝臣)?-? 万葉歌人;十七3914:霍公鳥ほととぎすの歌;741年頃家持伝聞、
[霍公鳥今し来鳴かば万代に語りつぐべく思ほゆるかも](万葉;3914)
- 1283 宇合(馬養うまかい・藤原朝臣、不比等3男) 694?-737 44 母;蘇我連子女;娼子、式家の祖、光明子の兄、
716遣唐副使/717-8入唐/724持節大將軍;陸奥蝦夷平定、726式部卿;知造難波宮事兼任、
731参議/732西海節度使、正三位、737疫病で兄弟3人没、
詩歌:万葉三期歌6首;72/312/1535/1729-31、懷風;序・詩6首/経国入、
「藤原宇合集」(散佚)、新古1655/新拾1307、
[昔こそ難波田舎なにはあなかと言はれけめ今は都みやこ引き都みやこびにけり](万葉集;312)
(726・10月難波宮改造開始-732・3月完成時の詠/都引きは都を模倣して)
- 1284 馬養(馬甘うまかい・文忌寸あやのみき/みみのみき、禰麻呂男)?-? 716父の壬申乱功で賜田/737外従五下、
外従五上/738主税頭、筑後守/757鑄銭長官/758従五下、
万葉四期歌人1579-80:738年橘諸兄邸の宴に参加、
[朝戸あけてもの思ふ時に白露の置ける秋萩見えつつもとな](万葉;八1579)
- E1216 馬養(馬飼うまかい・伊与部[伊余部]連いよべのむらじ) 657?-?(701-704頃没;45歳) 廷臣;686撰善言司、
700-01大宝律令撰定参画;功績/従五下、「浦島子伝」を写(积日本紀「丹後国風土記」に記事)、
懷風藻36(吉野従駕応詔詩;皇太子学士職)
馬風(うまかぜ・俳号) → 通光(みちてる・肥田ひだ、庄屋/国学/俳) K 4 1 1 7
- 1285 宇万伎(美樹うまき・加藤かとう、旧姓;河津) 1721-77 57歳 大垣新田藩主の奥医師河津かづ祐之の女婿、
妻の没後;幕臣加藤氏の養子、1753清原葛くず(1740-60 21歳)と結婚、
幕臣;大番与力/大阪城代勤番/二条城在番中病死、
国学/歌;1746賀茂真淵門;県門四天王の1、
「県居静屋歌集」、「県居歌集」編、「古事記解」「土佐日記解」「仮字類纂」「静舎雑著」、
1768「土佐日記註」/69「雨夜物語だみことば」、「ひさうなきの辞の論」「南窓筆記」外著多、
[宇万伎(;名)の本姓/通称/号]本姓;藤原、通称;伊右衛門/大助/大介/五郎左衛門、
号;静舎/静廼舎しずのや、
- B1281 馬子(馬古/汗麻古/有明子うまこ・蘇我臣そがのおみ、鳴大臣、稻目いなめ男)?-626 廷臣;572大臣、
仏教興隆、物部守屋討滅、崇峻天皇擁立しのち暗殺、聖徳太子と協調、飛鳥法興寺創建、
「天皇記国記臣連伴造百八十部並公民本紀」著
☆参照 守屋と対立 → 守屋(もりや・物部ものべ、大連/豪族) M 4 4 2 4
美草廼舎(うまくさのや) → 恒雄(つねお・宮路みやじ、農業/歌人) F 2 9 9 8
馬五郎(うまごろう・中川) → 忠英(ただてる・中川、幕臣/奉行/文筆) F 2 6 3 4
馬五郎(うまごろう・渡辺) → 弥久馬(やくま・渡辺/斎藤、藩士/日記) 4 5 5 1

- 馬左衛門(うまさえもん・屋代)→師道(しどう・屋代/源/永邨/幕臣/書家) V 2 1 2 6
馬三郎(うまさぶろう・中瀬)→竹鶯(ちくおう・中瀬なかせ、俳人) C 2 8 7 2
右馬三郎(うまさぶろう・田中)→金峰(きんぼう・田中たなか、詩人) I 1 6 2 7
- 1286 美石(うまし・中山なかやま/本姓;丹治比、清勝男)1775-1843 69 三河吉田藩士;1786同心見習、
1813関所勤番、国学・歌;本居大平門/儒;錦城門、1816藩校自習館教授/藩政参画、
三河歌壇の中心、1812「後撰集新抄」23「春雨楼叢書」、29「中山美石詠草」、宮路恒雄の師、
息子豊村[1801-35]が早世/孫の繁樹が後継、1834家集「中山美石歌集」、「梅園文集」著、
大平撰「八十浦の玉」下巻入(;息豊村と)、
[鶯の鳴かむ春こそ来にけらしわぎへの梅の花咲きにけり](八十浦;698)、
[美石(;名)の幼名/通称/号]幼名;珉、通称;爰扇さくらと/弥助/為蔵、号;梅園、法号;英心院
- 1287 味稻(美稲うましね) ? - ? 吉野の人;柘枝つみのえ伝説中人物:万葉385左注、
続日本紀846年:熊志禰
- 馬次郎(うまじろう・石田)→雅楽之助(うたのすけ・小沢、宮大工/勤王) D 1 2 0 3
馬助(うますけ・本庄)→焉馬(えんば・鳥亭、狂歌/戯作/落語) B 1 3 3 3
午蔵(うまぞう・長谷川)→宣昭(のりあき/のぶあき・長谷川、幕臣/国学) E 3 5 2 2
馬大夫(うまだゆう)→成元(なりもと・橘、歌人) I 3 2 3 2
右馬頭(うまのかみ・島津)→忠将(ただまさ・島津しまづ、武将/日記) Q 2 6 7 9
右馬頭(うまのかみ・島津)→以久(もちひさ/ゆきひさ・島津、藩主) B 4 4 5 7
右馬頭(うまのかみ・徳川)→綱吉(つなよし・徳川、5代将軍) B 2 9 4 0
馬之允(うまのじょう・坂元/坂本)→玄岡(げんこう・坂元/坂本、儒者) I 1 8 8 2
右馬允(うまのじょう・臼井)→加兵衛(かへい・武宮たけみや、砲術家) P 1 5 2 8
右馬允(うまのじょう・大館)→氏義(うじよし・大館おおだち、藩士/歌人) E 1 2 5 8
右馬允(うまのじょう・糟谷)→武文(たけふみ・糟谷かすや/加須屋、藩士/国学) W 2 6 4 6
馬之助(うまのすけ・宮地)→藤(のぼる・宮地みやじ、藩士/儒/詩歌) E 3 5 1 8
馬之介(うまのすけ・佐々木;変名)→監物(けんもつ・斎藤、神官/勤王家) M 1 8 5 0
馬之祐(うまのすけ・中島)→詮海(せんかい;法諱、融通念仏僧) I 2 4 7 0
右馬助(うまのすけ・山本)→氏之(うじひき・賀茂/山本、神職) C 1 2 6 4
右馬助(うまのすけ・安東)→政藤(まさふじ・安東あんどう、室町幕臣) H 4 0 2 2
右馬助(うまのすけ・南部)→行信(ゆきのぶ・南部なんぶ、藩主/歌人) F 4 6 2 1
右馬助(うまのすけ・加藤)→泰義(やすよし・加藤かとう、神道/藩主嫡子) F 4 5 8 2
右馬助(うまのすけ・馬場)→信祥(のぶよし・馬場ばば、幕臣/和学者) J 3 5 5 8
右馬助(うまのすけ・筒井)→政憲(まさのり・筒井/久世、幕臣/海防) G 4 0 1 0
右馬之助(うまのすけ・千)→宗左(初世そうさ・千せん、江岑宗左/茶人) B 2 5 5 4
右馬之助(うまのすけ・山本)→泰樹(やすき・橘たちばな/山本、里正/歌) G 4 5 2 4
右馬之助(うまのすけ・秋山)→富南(ふなん・秋山あきやま、郷土/地誌) D 3 8 5 7
右馬之助(うまのすけ・鈴木)→泰輔(やすすけ・鈴木すずき/水野、国学/歌) G 4 5 0 6
右馬介(うまのすけ・金井)→質直(ただなお・金井、藩士/蝦夷郡代) Q 2 6 2 5
右馬亮(うまのすけ・波多野)→秀成(ひでなり・波多野はたの、藩士/兵法家) D 3 7 4 9
右馬允(うまのすけ・本多)→助成(すけなり・本多ほんだ、藩主/詩歌) J 2 3 2 2
- 1288 馬内侍(うまのないし/むまゝ、中宮内侍、源時致男?/時致弟の時明の養女)945/50-? 平安前期女房歌人、
齋宮女御徽子女房・円融天皇中宮皇子女房・大齋院選子内親王女房・東三条院詮子女房、
さらに一条天皇中宮定子にも出仕、朝光・道隆・道兼・道長・公任・実方・相如・覚運と恋愛、
晩年は宇治隠棲/尼?、隆円の母?、家集「馬内侍集」、中古36歌仙の1、
「大齋院前御集」(馬内侍歌日記)42首入、玄々集3首・後葉集2首・続詞花集4首入、
勅撰43首;拾遺(4首;554/792/840/1020)後拾(12首70/606下)金(3首)千(3首)新古(8首)以下、
[今夜よひ君いかなる里の月を見て都に誰を思ひ出づらむ](拾遺集;十三恋792/玄々;81、
玄々集81の詞書;あきのぶ[橘明順]但馬にありける 月を見ていひやる)
- 右馬入道道勝(うまのにゅうどうどうしゅう)→政国(まさくに・細川/源、武将/詩歌) C 4 0 3 6
- B1293 右馬耳風(2世うまのみみかぜ、加藤かとう、玉湧男)?-? 名古屋書肆、狂歌作者、
1717「画像狂歌百首」著、1820玉湧「弄花集」刊・「狂歌百人一首」著

- D1234 **馬命婦**(うまのみょうぶ/むま-) ? - ? 平安前期村上天皇期の命婦/歌;962応和二年内裏歌合参、
[待ちわびてきよふけぬめり時鳥あかつきをだにすぐさざらなん](内裏歌合;10)
- E1271 **美彦**(宇万彦うまひ・佐々木ささき、)1829-190779 大坂の座摩神社、国学者、
[美彦(;名)の通称] 義之祐よのすけ
- 1289 **肥人**(うまひと・こまひと・ひびと・田氏でんし;田口・田辺・田井等?)?-? 万葉三期834;730年旅人梅花宴参加;
太宰府少令史、
[梅の花今盛りなり百鳥の声の恋こほしき春来たるらし](万葉;五834)
馬道(うまみち・雪解/浅草)→ 浅草馬道(あさくさのうまみち、狂歌) D 1 0 0 1
馬道の狂言堂(うまみちのきょうげんどう)→ 如臯(3世じょう・瀬川、歌舞伎作者) C 2 2 4 6
厩戸皇子(うまやどのみこ) → 聖徳太子(しょうとくたいし、皇太子/摂政) Q 2 2 3 0
- B1294 **馬屋厩輔**(厩屋-うまやのまやすけ、山口やまぐち、名;隼人/通称;長兵衛) ?-? 高松藩士/小石川江戸藩邸住、
狂歌作者;朱楽連、1785「徳和歌後万載集」8首/87「才蔵集」入、
[しんしんと寒き月下の門徒寺もんとでら僧のたたくは鳥の骨なり](後万載;四冬333)
(本歌;賈島「鳥は宿す池中の樹 僧は敲く月下の門」、真宗寺で鳥の骨を敲くのは食用か)
- B1295 **生儘成**(うまれのままなり/なまのままなり) ?- ? 狂歌本町連、1785「後万載集」1首/87「才蔵集」1首入、
[いたづらに我が身は干葉ひばの年を経て昔の若葉今は恋しき](後万載;703/漬物用干し菜)
- E1281 **海一**(うみかず・永田ながた、)1845-191066 尾張佐屋の国学者、
国学・歌;植松茂岳・野村秋足門、尾張津島神社神職、
[海一(;名)の字/通称/号]字;忠養、通称;啓次郎、号;五百園
思五良(うみぐら・識名) → 盛命(せいめい・識名しきな/伊野波/毛、琉球三司官) D 2 4 0 0
海助(うみすけ・杉山) → 随翁(ずいおう・杉山すぎやま、儒者) E 2 3 2 3
海丸(うみまる・溪藤舎) → 海丸(かいまる・溪藤舎、狂歌) J 1 5 0 7
有無庵(うむあん) → 存義(ぞんぎ・馬場、俳人) E 2 5 7 3
有無庵(2世うむあん) → 泰里(たいり・橋本、俳人) C 2 6 2 8
有無庵(うむあん) → 桐雨(とうう・築山、俳人) B 3 1 1 7
有無庵(うむあん) → 五芳(ごほう・石田、俳人) N 1 9 6 4
有無香(うむか・武川) → 鈴応(れいおう;法諱・武川、浄土僧/俳人) B 5 1 5 5
- E1285 **梅**(うめ・林はやし、大館信勝男) ?-1792 尾張海東郡木田村の農業の生、
大館高門(1766-1839)の姉、国学・歌;本居宣長門、尾張中島郡に嫁ぐ
- E1226 **むめ**(梅うめ;組連) ? - ? 江戸麴町の川柳の組連、取次;1785「川柳評万句合」入;
取次例;[押し強く **でも**の茶づけを喰って来る](85万句合/前句;いたい事かな々々)、
(挨拶言葉で「茶漬**でも**いかが」と言うのと「ではいただきます」と本当に喰った)
1785梅連の句集「菟姑柳はこやなぎ」(初世川柳評/朱楽菅江序)刊行
うめ(梅・むめ/んめ) → うめ女(梅女うめじよ、俳人) B 1 2 4 9
梅(うめ) → 梅女(うめじよ・竹内、歌) E 1 2 3 3
梅(うめ) → 梅女(うめじよ、麻岡検校女/歌人) E 1 2 4 3
梅(うめ) → 梅女(うめじよ・安田やすだ/箕間、歌人) E 1 2 9 4
梅(うめ:一字名) → 植家(たねいえ・近衛このえ、関白/歌/連歌) 2 6 4 1
宇免(うめ・馬目) → 登波子(とわこ・岩上いわがみ、歌人) S 3 1 0 1
宇免(うめ・黒瀬) → 方子(まさこ・黒瀬くろせ、歌人) P 4 0 5 3
梅明(うめあき) → 梅園梅明(かいえんうめあき、狂歌) I 1 5 4 2
- 1290 **鳥明**(うまい) 1726 - 180176歳 江戸日本橋鉄砲町の交易商/運輸・両替業;弟に譲渡、
俳人;鳥酔門、1760松露庵3世を襲名、茶/香;清水玄昌門/生花、
1745「松露庵記」59「鳥明薙髮賀集」65「をしえ鳥」67「さがみの文」68「雲と鳥」著、
1769「南浦の春」「其きさらき」70「卯月の鳥」73「古にし夢」74「俳諧ふたつの文」著、
1796「夏柳集」編/外著多数、追善集「華の終」(1801刊);詳伝あり、
[鳥明の別号] 東海坊/東海房/木耳庵もくじあん/麻六坊/松露庵3世
- 1291 **雨銘**(うめい・岩瀬いわせ、通称;山琢、椎木庵しいのきあん) 1743-182280 筑前福岡藩医、江戸詰、
俳人・蝶夢門、1818「しのふくさ」編
梅衛(うめえ・堀田) → 梅園(ばいえん・堀田、商家/国学/歌) 3 6 6 3

- 梅夫(うめお・丸山) → 久成(ひさなり・伊藤いとう、国学/国事) L 3 7 1 2
 梅垣内(うめがいち) → 春夫(はるお・佐々木、商家/国学;万葉) G 3 6 0 5
- E1225 梅枝(うめがえ・むめがへ;組連)? - ? 江戸四谷の川柳の組連、
 取次;1763「川柳評万句合」入、
 取次例;[めしの湯に少々医者いやの気味があり](63万句合)、
 (曲直瀬まなせ道三どうさんの食後養生処方之道三湯を連想)
- 梅小路中納言(うめがこうじのちゅうなごん) → 宗隆(むねたか・藤原、廷臣/歌人) B 4 2 4 5
- D1236 梅員(うめがず・春道はるみちの、宮崎氏、別号;連日庵/麗斎)?-? 江後期江戸東両国狂歌:花園連、
 1823「狂歌十哲集」編
- 梅吉(うめきち・喜多) → 金宝(かねみち・喜多きた、酒造業/歌人) U 1 5 4 7
 梅吉(うめきち・関戸) → 内兄(うちえ・関戸せきど、国学者) E 1 2 7 3
- E1269 梅子(うめこ・原はら、) ? - 1885 信濃伊那郡の国学/歌人、
 原重与しげとも(1827-1915)の妹、後藤礼幾れき(1806-89、84歳没)の女?
- E1289 梅子(うめこ・丸山まるやま、棚谷元善女) 1844-1921 78 父は常陸笠間藩医、水戸の歌人、藩主に出仕、
 島原藩士丸山作楽さくら(1840-99)の妻、江戸住、のち長崎女学校教師、
 [梅子(;名)の別号]貞/伎美/喜美/宇米古
- E1276 梅子(うめこ・高橋たかはし、名;歌栄) 1850-80 31 京の歌人;太田垣蓮月門
 梅子(うめこ・津崎) → 村岡(むらおか、矩子、勤王派/歌人) D 4 2 0 9
 梅子(うめこ・三輪田) → 眞佐子(まさこ・三輪田みわた/中条/宇田、漢学/教育) S 4 0 8 8
 梅五郎(うめごろう・村尾/小泉) → 杏陰(きょういん・小泉、医者/詩) N 1 6 2 0
 梅五郎(うめごろう・関戸) → 内兄(うちえ・関戸せきど、国学者) E 1 2 7 3
- D1237 梅三郎(うめさぶろう・岸田) ? - ? 歌舞伎作者;番付;
 1784初世治助「大商蛭島おおあきないひるがこじま」助作
- 梅山人南北(うめさんじんなんぼく) → 南北(なんぼく・東西庵、狂歌/戯作) 3 2 3 4
- E1233 梅女(うめじょ・竹内たけうち) ? - ? 江中期;御数寄屋坊主竹内長林の母、
 歌;1798刊石野広通「霞関集」入、
 [山高き霞のうちにあらはれてほのかに見ゆる春の夜の月](霞関;春83/春月)
- B1249 うめ女(梅女うめじょ、梅・むめ/んめ、月溪後妻)?-1810 大阪新地の芸妓、俳人;几董門、
 1776几董「続明烏」/79泰里「其しをり」/82蕪村「花鳥篇」/83維駒「五車反古」入、
 1783樗良「月の夜」入/歌;98広通「霞関集」入、竹内長林(御数寄屋坊主)の母、
 [いとによるものならにくし風いかのぼり](花鳥篇;発句)
 (本歌;糸による物ならなくに別れ路の心細くも思ほゆるかな・古今415;貫之)
 [山高み霞のうちにあらはれてほのかに見ゆる春の夜の月](霞関;春83)
- E1243 梅女(うめじょ、平曲家の麻岡検校[?-1858]女)?-? 江後期;歌人、
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、
 [行末を契りし人も宿り木のあさきねざしぞ恨みなりけり](大江戸倭歌;恋1577)
- E1294 梅女(うめじょ・安田やすだ、旧姓;箕間) 1830-79 50 京の生、紀伊和歌山の商家安田穂並はなみの妻、
 国学者/歌人;夫(加納諸平・本居内遠門)門、1879(明治12)没;のち20日で夫も没
- 梅次郎(うめじろう・長) → 連愛(つらよし・長ちよう、藩士) E 2 9 5 3
 梅次郎(うめじろう・品川) → 藤兵衛(とうべえ・品川、通事/砲術/医) H 3 1 0 9
 宇米園(うめぞの) → 春雄(はるお・河村、国学者) G 3 6 0 3
- E1236 梅園(うめぞの;女房名、幕臣屋代師道[1710-86]女)?-? 江中期歌人、長門萩藩主家の女房、
 歌人;1798刊石野広通「霞関集」入(父と共に入集)、
 [はるばるとけふ立ちそめて旅衣うらめづらしきみるめをぞ思ふ]、
 (霞関;旅1105/はじめての旅立ち)
- 梅園(うめぞの) → 墨春亭梅麿(ぼくしゅんていうめまる、絵師/戯作) D 3 9 4 4
- D1238 梅太郎(うめたろう・杉すぎ、百合之助男) 1828-1910 83 母;村田右中女の滝子、長門萩城下松本村に生、
 吉田松陰の兄、幼時;弟松陰と叔父玉木文之進開設の松下村塾に修学/藩校明倫館修学、
 萩藩士;江戸に出府;松陰の米国渡航未遂事件で帰国、藩の諸役を歴任、
 廃藩後;山口県権典事/1876退職、のち松下村塾を再興;教育に尽力、

長男小太郎に吉田家を嗣がせる、1867「教民の詞」「香川津孝子伝」著、

[梅太郎(；通称)の名/字/別通称/号]名；修道ながみち、字；伯教、別通称；民治、号；学圃

梅太郎(うめたろう・西原) → 文虎(ぶんこ・西原にしばら、油商/俳人) F 3 8 1 2

梅太郎(うめたろう・才谷) → 竜馬(りょうま・坂本さかもと、藩士/国事) J 4 9 4 7

梅太郎(うめたろう・足助) → 武雄(たけお・足助あすけ/小槻/辻、神職) V 2 6 0 0

梅長者(うめちやうじゃ) → 童平(どうへい・井上、俳人) H 3 1 0 6

梅辻神主(うめつじのかんぬし) → 景久(かげひさ・賀茂かも、神職/歌人) B 1 5 9 2

梅坪(うめつぼ・平内) → 廷臣(まさおみ・平内へいのうち/福田、幕臣；工匠) B 4 0 6 1

梅坪(うめつぼ・真野) → 守約(もりちか・真野まの/佐藤、商家/歌) L 4 4 2 7

梅壺女御(うめつぼのによご、東三条院とうさんじやういん) → 詮子(せんし、歌人) F 2 4 6 1

梅壺女御(うめつぼのによご・弘徽殿女御；後朱雀女御) → 生子(せいし、歌人) B 2 4 7 9

梅道人(うめどうじん；号) → 巨海(こかい；道号・東流；法諱、曹洞僧) L 1 9 8 4

E1239 梅成(うめなり・中井なかい) 1802-1884 83歳 江戸日本橋の綿布商；大黒屋、歌人、
火事・暴風のため家や財産を失い廃業/風流の道に入る；勝海舟・浅田宗伯と交流、
歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[散り行くをなれも惜しむか蜘蛛のいにしばしかけたる花のひとひら](大江戸倭；春300)、

[梅成(；名)の別名/通称/号]初名；豊成、通称；新九郎、号；玄斎、屋号；大黒屋

梅野(うめの・宇田) → 眞佐子(まさこ・三輪田みわだ/中条/宇田、漢学/教育) S 4 0 8 8

1292 梅旭子(うめのあさひこ・梅旭女ばいぎよくじよ、5世団十郎の女すみ) ?-? 江戸堺町の芝居茶屋泉屋の女将、
7代目市川団十郎の母、狂歌作者；堺丁連、1785赤良「徳和歌後万載集」1首入、
[訪とひ来ます四方はひるまもなき比ころのさみだれ髪で筆をとりけり](後万載；二161)
(五月雨どき朝寝して四方赤良の訪問を受け詠/干る間と昼間・五月雨と乱れ髪を掛る)

梅小路中納言(うめのこうじちゅうなごん) → 長方(ながかた・藤原、歌人) 3 2 0 6

梅下風(うめのしたかぜ) → 下風(したかぜ・梅野、浄瑠璃作者) D 2 1 1 0

1281 梅下武士(うめのしたぶし) ? - ? 狂歌、1785徳和歌後万載集1首入；853、
[その昔きねがみうへの神の松たち白ほどになりける哉](後万載；853/住吉参詣)、
(巫覡きねは神に仕える人/みうへはお植えになった/立白は餅をつく白)

梅之丞(うめのじやう・佐草) → 武清(たけきよ・佐草さぐさ、神職/国学) X 2 6 1 6

梅之助(うめのすけ・若松) → 鷲水(りゅうみづ・青木あおき、俳人/浮与草子) 5 2 0 4

梅之助(うめのすけ・加藤) → 磯足(いそたり・加藤、国学者/歌) B 1 1 0 9

梅之助(うめのすけ・山高/今大路) → 正庸(まさつね・今大路/橘/曲直瀬、典薬頭) E 4 0 1 3

梅之助(うめのすけ・成島) → 和鼎(わかね・成島・秦、幕臣/儒/歌) C 1 5 1 7

梅之助(うめのすけ・谷；変名) → 晋作(しんさく・高杉、藩士/勤王家) E 2 2 3 1

梅の園(うめのその) → 道年(みちとし・武田たけざわ/出川、歌人) J 4 1 6 9

D1239 榎乃門荅兄(うめのとかけい) ? - ? 京の狂歌作者；

1862「狂歌三都集」；榎龍とりゅう・春見と共編

梅廻戸眞門(うめのとまかど/うめのやまかど；狂名) → 元義(もとよし・毛利、藩主/儒/詩) E 4 4 7 3

梅富(うめのとみ・戸沢) → 芳一(ほういち・戸沢とざわ、三戸、検校) G 3 9 2 9

D1240 梅信(うめのぶ・雲井園くもいえん、大江氏) ?-? 江戸の狂歌作者；花園連、両国元柳橋畔住、
「良材集」編、1858「江戸名所両岸図抄」「武総両岸図抄」著、

[雲井園梅信の別号] 花実園/竜司園

梅之房(うめのぼう) → 教覚(きやうかく・梅之房、社僧/連歌) C 1 6 3 2

梅之房(うめのぼう) → 亀岳(きがく・松本、教覚、絵師) J 1 6 8 6

梅廼実成(うめのみなり) → 平角(へいかく・平野ひらの、商人/俳人) 2 7 1 6

梅之本(3世うめのもと) → 沙山(しゃざん・土沢つちざわ、藩士/俳人) W 2 1 2 9

梅廼本(うめのもと) → 八束(やつか・鈴木すずき、国学/歌人) G 4 5 0 5

梅の本(うめのもと) → 為山(いざん・関、俳人) 1 1 8 5

梅の本(うめのもと) → 香以(こうい・細木ほそき/さいき、商家/俳人) 1 9 7 0

梅の本鶯斎(うめのもとおうさい) → 鶯斎(おうさい・梅の本、絵師) C 1 4 4 2

梅廼本耆山(うめのもときざん) → 宋路(そうろ・津田つだ、印刻業/為山門俳人) K 2 5 6 1

梅屋(うめのや)	→	茂喬(しげたか・坂井、詩人)	R 2 1 2 1
梅屋(うめのや)	→	頼庸(よりのつね・田中たなか、藩士/神職)	N 4 7 6 6
梅舎(うめのや)	→	政明(まさあき・川喜田かわきた、歌人)	B 4 0 1 0
梅舎(うめのや)	→	光満(みつまる・小田おだ、国学者)	E 4 1 9 2
梅舎(うめのや)	→	基弘(もとひろ・後藤ごとう、国学者)	E 4 4 1 6
梅舎(うめのや)	→	顕允(あきのぶ・小野おの、国学者)	H 1 0 1 7
梅廼舎(うめのや)	→	貞風(さだかぜ・羽室、歌人)	H 2 0 9 5
梅廼舎(うめのや)	→	俊信(としざね・千家/出雲、国学/歌人)	M 3 1 5 6
梅廼舎(うめのや)	→	利綱(としつな・佐々木、医者/詩歌人)	M 3 1 8 9
梅廼舎(うめのや)	→	清風(きよとお・中野、国学者)	P 1 6 9 5
梅廼舎(うめのや)	→	玄道(げんどう/はるみち・矢野、儒/国学者)	C 1 8 8 4
梅廼舎(うめのや)	→	貞風(さだかぜ・羽室/藤原、藩士/歌人)	H 2 0 9 5
梅廼舎(うめのや)	→	弘道(ひろみち・橋本、藩士/神職/歌)	H 3 7 3 4
梅廼舎(うめのや)	→	孝正(たかまさ・浦野うらの、国学/歌人)	V 2 6 8 8
梅廼舎(うめのや)	→	種知(たねとも・堅田かただ、神職/和漢学/歌)	W 2 6 4 9
梅廼舎(うめのや)	→	実秋(さねあき・財部たからべ、藩士/神職/歌)	Q 2 0 8 9
梅廼舎(うめのや)	→	直秋(なおあき・中堀なかぼり、藩士/歌人)	O 3 2 0 9
梅廼舎(うめのや)	→	とみ(・古庄こしょう/ふるじょう/後藤、歌人)	W 3 1 3 0
梅廼舎(うめのや)	→	言方(ことかた・林はやし、商家/国学/歌)	R 1 9 1 5
梅廼舎(うめのや)	→	忍介(にんすけ/おしすけ・野村のむら/折田、藩士/軍人/詩歌)	H 3 3 3 2
梅廼舎(うめのや)	→	守秋(もりあき・林田はやしだ、藩士/国学/歌)	L 4 4 0 4
梅廼舎(うめのや)	→	尚志(なおゆき・松野まつの、陪臣/国学)	O 3 2 9 0
梅乃舎(うめのや)	→	俊栄(としひで・千家せんげ、神職/国学者)	V 3 1 4 5
梅の舎(うめのや)	→	梅翁(ばいおう・田尻たじり、藩士/国学者)	3 6 6 8
梅の舎(うめのや)	→	俊信(としざね・千家、国学/歌人)	M 3 1 5 6
梅の舎(うめのや)	→	定久(さだひさ・大森おおもり、神職)	J 2 0 4 2
梅の舎(うめのや)	→	正之(まさゆき・大木おおき、村役/国学)	O 4 0 3 0
梅の舎(うめのや)	→	公效(きみのり・永沢ながさわ、神職/国学)	U 1 6 9 3
梅の舎(うめのや)	→	維清(これきよ・藤由ふじよし、国学者)	R 1 9 2 5
梅の屋(うめのや)	→	高門(たかかど・大館おおだち、医者/国学者)	C 2 6 6 4
梅の屋(うめのや)	→	信粹(のぶきよ・並木なみき、商家/国学/歌)	J 3 5 4 3
梅の屋(うめのや)	→	正之(まさゆき・五十嵐いがらし、大庄屋/歌)	N 4 0 2 8
梅の家(うめのや)	→	秀一(ひでかず・生駒いこま、医者/歌人)	L 3 7 1 0
梅の家(うめのや)	→	眞清(まさきよ・川津かわづ/萩原、神職/国学)	P 4 0 0 3
烏米廼舎(うめのや)	→	淳信(あつのぶ・佐伯さえき、神職/国学/歌)	H 1 0 6 2
烏米加宜廼舎(うめかぎのや)	→	淳信(あつのぶ・佐伯さえき、神職/国学/歌)	H 1 0 6 2
梅廼舎好也(うめのやこうや)	→	好也(こうや・梅廼舎うめのや、河野、豊業/狂歌)	L 1 9 3 5
梅舎春鳥(うめのやしゅんちよう)	→	墨春亭梅麿(ぼくしゅんていうめまる、絵師/戯作)	D 3 9 4 4
梅廼舎鶴子(うめのやつるこ)	→	鶴子(つるこ・梅廼屋、狂歌)	E 2 9 6 2
梅廼舎家真門(うめのやまかど)	→	元義(もとよし・毛利/大江、藩主/詩人)	E 4 4 7 3

- E1224 **梅鉢**(うめばち;組連) ? - ? 下総香取郡島の雑俳の取次;1748「筑丈評万句合歳暮会」入、取次例;[信心と浮気が五分の両大師](前句;春を待ちけり々々)、(開山堂[慈眼(天海)・慈恵両大師を祀る]は三十六坊遷座)、(遷座の供奉行列の参拝者の心理は信心と遊山の半々)
- 1293 **梅彦**(うめひこ・四方よもの、臼杵うすき氏?) 1822-96 75 江戸麹町読/人情本:種彦門、狂歌;魯文いろは連、のち歌舞伎作者;黙阿弥門、1851「源氏鄙詞」編、「多気競」8-10編、「嘉永大雑書」編、[四方梅彦の通称/別号] 通称;四方正木/四方新次、別号;狂月舎/松園梅彦/竹園梅彦/文亭梅彦/柳屋梅彦/竹彦/竹柴瓢蔵/柴垣其文しばがききぶん
- D1241 **梅秀樹**(うめひでき;通称、本名;荒木あらし彦二郎、号;以文堂)?-? 上州高崎の狂歌;鹿都部真顔門、「伊香保の茶話」著

- 梅衛(うめひら・堀田) → 梅園(ばいえん・堀田、商家/国学/歌) 3 6 6 3
- D1242 梅千丸(うめばしまる・壺中庵、小山魯)?-? 大阪狂歌・狂詩作者、1846「嵐山百題歌」著
- 梅町殿(うめまちどの) → 崇賢門院(すけんもんいん、仲子、後円融天皇母/歌) 2 3 9 8
- 梅松(うめまつ・杉田) → 恭卿(きょうけい・杉田すぎた、蘭学者) N 1 6 6 2
- 梅松(うめまつ・木村) → 好賢(よしかた・木村きむら、神道/歌人) M 4 7 4 0
- 梅松丸(うめまつまる・堀田) → 一輝(いっけい・かずてる・堀田、幕臣/歌人) B 1 1 3 6
- 梅丸(うめまる・石橋) → 日藻(にっそう・報寿院、日蓮僧/俳人) E 3 3 9 1
- D1243 梅麿(うめまる) ? - ? 豊前西小倉の俳人;1690言水「新撰都曲みやこぶり」2句入、
[胡馬こぼとめて明星みやうじやう薄うすし山桜](都曲;下385/中国北方の古典的情景)
- D1244 梅麿(うめまる・臥竜園がりょうえん、渡辺氏)?-? 江後期江戸本所緑町狂歌;朱楽菅江門、花園連主導者、
1823「女風俗鏡」/26「額面狂歌集」/29「狂歌眞木柱」/30「百千鳥」/31「玉藻集」外編著多数、
[臥竜園梅麿の通称/別号]通称;藤右衛門、別号;春江亭
- 梅麿(宇米麿うめまる) → 墨春亭梅麿(ぼくしゅんていうめまる・絵師/戯作) D 3 9 4 4
- 梅宮(うめみや) → 文智女王(ぶんちじょおう、歌人) G 3 8 1 4
- D1245 梅世(うめよ、青陽館せいようかん、石黒氏)?-? 江後期江戸神田狂歌;臥竜園梅麿門、金石連判者、
1824「狂歌扶桑名所図会」編、「狂歌駒競集」著
- 梅若(うめわか・鈴木すずき) → 海若(かいじやく・寺本てらもと、書家) I 1 5 6 8
- 有無庵(うむあん) → 祇空(ぎくう・稲津いなづ、俳人) 1 6 9 4
- 有無軒(うむけん) → 玄々一(げんげんいち・竹内、竹窓、俳人) B 1 8 6 9
- 宇無痘(うむとう) → 雲阿(うんあ・円竜、神職/僧/狂歌) D 1 2 5 3
- D1246 羽毛(うもう) ? - ? 越中魚津の俳人、
1776樗良「月の夜」/83陸史「まだら鴈」入、
[浦里や月の夜を吹く秋の風](月の夜52)
- 埋木舎(うめれぎのや) → 直弼(なおすけ・井伊、藩主/大老/国学) B 3 2 3 9
- E1275 右門(うもん・藤井ふじい、宗茂男)1720-1767処刑48 越中射水郡小杉宿生/1735(享保20)郷里を出奔、
上京;正親町三条家出仕/諸大夫藤井忠義の養嗣子、国学;松岡雄淵門、
皇学;竹内式部(敬持)門/皇学所教授;尊王論を主唱、1758(宝暦8)宝暦事件に連座、
江戸逃亡/右門と改称;山県大貳家に寄宿;甲府・江戸城攻撃の軍略を論ず、
1766(明和3)山県大貳・竹内式部と共に捕縛(明和事件)、
1767(明和4)幕府は尊王思想の山県大貳死罪/過激言動の右門は磔刑(牢死説も)、
維新後;贈正四位、
[右門(;通称)の名/別通称]名;吉太郎(;初名)/直明(なおあき、別通称;大和守/政之助
- 禹門(うもん・加藤) → 信成(のぶなり・加藤、儒/医/歌人) C 3 5 6 0
- 右門(うもん・奈良) → 一徳斎(いっとくさい・奈良なら、医者/書) H 1 1 7 3
- 右門(うもん・白土) → 恵堂(けいどう・白土しらと、藩士/儒者) G 1 8 4 7
- 右門(うもん・久保田) → 豪秀(たけひで・久保田、藩士/兵法家) O 2 6 6 6
- 右門(うもん・森) → 高雅(たかまさ・森もり、絵師) N 2 6 2 0
- 右門(うもん・山崎) → 蘭斎(らんさい・山崎やまさき、儒者) C 4 8 1 9
- 右門(うもん・山田) → 千疇(ちんちゆう・山田、国学者) 2 8 3 9
- 右門(うもん・鳥山) → 崧岳(すうがく・鳥山とりやま、儒/詩人) 2 3 9 6
- 右門(うもん・六角) → 重任(しげとう・六角ろっかく、医者) R 2 1 6 2
- 右門(うもん・富塚) → 隆義(たかよし・富塚とみづか、藩士/歌人) Y 2 6 4 1
- 右門(うもん・月田) → 蒙斎(もうさい・月田つきだ、藩儒;崎門学) 4 4 5 4
- 右門(宇門うもん・菱川) → 泰嶺(しんれい・菱川/菱、儒者/藩儒) 2 2 9 4
- 右門(うもん・二宮) → 守恒(もりつね・二宮にのみや、神職/国学) F 4 4 8 4
- 右門(うもん・泉/土屋) → 舎栄(いえよし・泉いずみ/土屋/荒木田、神職) J 1 1 9 1
- 右門(うもん・熊谷) → 直彦(なおひこ・熊谷くまがい/山本、藩士/絵師) L 3 2 9 9
- 右門太(うもんだ・中田) → 孝芳(たかよし・中田なかつ、国学者) Y 2 6 5 4
- 雨夜庵(初世うやあん) → 亀成(かめなり・山本、俳人/画) B 1 6 3 5
- 雨夜庵(2世うやあん) → 亀成(かめなり・山本、俳人/初世門) L 1 6 0 4

- 雨夜庵(うやあん) → 菊童(きくどう・峽田はざまだ、露布庵、俳人) J 1 6 2 8
 孟耶観(うやかん) → 李由(りゆう・河野、真宗僧/俳人) 4 9 0 5
 雨夜草庵(うやそうあん) → 御楯(みたて・宮城みやぎ、藩士/国学/歌) K 4 1 7 1
 E1217 雨邑(うゆい) ? - ? 俳人、1691北枝「卯辰集」11句入、
 [ふつゝかに青葉や交じる桃の花](卯辰集;一81/ふつつかには風情ももなくの意)
 1295 烏有(うゆう/烏有庵/烏有子/烏有先生)?-? 戯作者、1776歌謡「艶歌選えんかせん」、「萬世百物語」著
 烏有(うゆう) → 沢庵(たくあん;道号・宗彭、臨濟僧/詩歌) E 2 6 1 8
 烏有斎玄道(うさいげんどう) → 有斎(ゆうさい・賀川かがわ、産科医) B 4 6 7 3
 烏有山人(うゆうさんじん) → 黙老(もくろう・木村、家老/儒/隨筆) B 4 4 1 4
 烏有山人(うゆうさんじん) → 義彦(よしひこ・政田まさだ、文筆家) G 4 7 2 1
 烏有散人(うゆうさんじん) → 国芳(くによし・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 0 1
 烏有子(うゆうし;号) → 大玄(だいげん;法諱、浄土僧/戒律) J 2 6 9 0
 烏有子(うゆうし;号) → 光広(みつひろ・烏丸/藤原、廷臣/歌学) 4 1 3 1
 B1250 宇洋(うよう・前田まえだ) ? - ? 近江の俳人:土朗門
 羽陽(うよう・小田野) → 直武(なおたけ・小田野おだの、絵師) B 3 2 5 2
 E1235 うら尾(うらを;女房名)?- ? 伊勢亀山藩主家の女房/老女、
 1798刊広通「霞関集」入、
 [ねにぞなくうき中空を飛ぶ鳥の行方も知らぬ人を恋ふとて](霞関;恋718/寄鳥恋)
 1296 有楽(うらく・織田おだ、名;長益、信秀男/本姓;平) 1547-1621 75 武将/織田信長の弟、妻;平手政秀女、
 侍従/信長没後;秀吉御伽衆/剃髪;改名[有楽]、家康軍に参加;関ヶ原戦に功/冬陣豊臣方、
 大和芝村織田家の祖、歌・連歌、茶道;利休門 7 哲の1/有楽流、「茶湯手引草」「融覚歌集」著、
 [有楽(;号)の通称/別号]通称;源五郎/源吾、別号;有楽斎/如庵、法名;融覚
 有楽斎(うらくさい) → 有楽(うらく・織田おだ、武将/茶人) 1 2 9 6
 有楽斎(うらくさい・後藤) → 義質(よしただ・後藤ごとう、医者/国学) M 4 7 8 8
 E1256 浦子(うらこ・小田切おだぎり、旧姓;渡辺、号;菫園)?-? 甲斐八代郡の歌人;青島貞賢[1819-96]門、
 渡辺青洲の孫娘、浦子が撰し弟渡辺沢次郎が刊行した私家版歌集「さゝのをち葉」がある
 1297 浦島子(うらしまのこ・うらのしまこ・水上みずのえ)?-? 万葉伝説歌中人物、巻九1740-41
 ウラジミール=ヨシフォビチ=ヤマトフ(大和夫)[洗礼名]
 → 耕斎(こうさい・橘、ロシア滞在/辞典編) B 1 9 2 0
 1298 裏住(うらすみ・大屋おほやの、姓;久須美) 1734-1810 77歳 磐城白河藩士、のち更紗屋/貸家業、
 狂歌;ト柳門/本町連主宰、野呂松人形使、「更紗便覧」、「狂歌秋の野良」「狂歌大つとゐ」著、
 「万載狂歌集」「後万載集」「才蔵集」/1786宿屋飯盛「吾妻曲あづまぶり狂歌文庫」など入集、
 [ともし火にせんと思へばたちまちにたちぎえのする窓のあは雪](吾妻曲狂歌文庫)、
 [大屋裏住の通称/別号]通称;白子屋孫左衛門、別号;大奈権厚紀だいなごんあつき/萩廼屋/窓雪院
 裏築地権大納言(うらついちのございごん) → 忠季(ただすえ・正親町おおぎまち、廷臣/歌) F 2 6 1 5
 裏築地宰相(うらついちのさいしやう) → 公什(こうじゅう;法諱、天台僧/歌人) B 1 9 2 9
 トの門(うらないのもん→しめのと) → 清明(きよあき・ト田しめだ、国学者) U 1 6 4 9
 裏成(初世うらなり・浅黄) → 岡持(おかもち・手柄、朋誠堂喜三二きさんじ) 1 4 0 9
 裏成(2世うらなり・浅黄) → 長根(ながね・芍薬亭、三橋喜三二) 3 2 1 4
 裏なり(うらなり・立花) → 立花裏なり(たちばなのうらなり、狂歌作者) T 2 6 6 8
 浦廼屋(うらのや) → 寛敬(ひろたか・三原みはら、国学者) L 3 7 3 2
 裏[裡]葉内侍(うらばのないし) → 永福門院内侍(えいふくもんいんのないし) 1 3 4 5
 浦人(うらびと・戸松) → 浦人(ほじん・戸松、俳人) F 3 9 9 7
 B1284 浦辺干綱(うらべのほしあみ) ? - ? 江戸後期江戸狂歌スヤ連、1785刊「後万載集」2首入
 [玉づさをかけてくるわにかりがねもおつるや多き人あしの中](後万載254)
 (本歌;誰がためとうはの空なる玉章をかならずかけて雁はきぬらむ;新後拾:335経教)
 裏堀蟹子丸(うらぼりのかにこまる、狂歌) → 蟹子丸(かにこまる、文々舎の父?) F 1 5 6 1
 裏堀蟹子丸(うらぼりのかにこまる) → 文々舎蟹子丸(初世ぶんぶんしゃかにこまる、狂歌) G 3 8 3 8
 D1247 占正(うらまさ・玉光舎、姓;住田)?-? 江戸四谷の彫工/狂歌作者:五側、
 1807「蓬萊集」10「春興集」著

- B1202 **鳥栗**(うりつ・来川) ? - ? 伊賀上野の俳人;芭蕉門、
1694「枯尾花」師芭蕉への追悼句入、98続猿蓑入集、
[一筋は花野にちかし畑道はてけみち](続猿蓑;巻下秋草/風流で人々が自然に踏み固めた道)
- D1248 **雨律**(うりつ・均下亭、錦雨斎巴国男)?-? 日向清武の俳人、「あきの名残」編、
1774美角「ゑぼし桶」1句入、
[朝風や雪に狂へる若大衆わかだいゆ](ゑぼし桶;58/雪の庭に若い僧達がはしゃぎ戯れる)
雨律(うりつ) → 貞中(さだなか・佐伯、酒造業/俳・歌人) J 2 0 0 3
- 1299 **瓜坊**(うりぼう) ?- ? 南越の行脚僧/俳人;青羅門、
1789俳撰集「はりまあんご」編
- D1249 **雨柳**(うりゅう) ? - ? 加賀松任の俳人;1691北枝「卯辰集」1句入、
[玉祭なくなく質を置く女](卯辰集;301/亡き人の魂祭のためお金を借りるかまげさ)
- B1203 **羽笠**(2世うりゅう・高橋たかはし、初世羽笠男)?-1726:80余歳 尾張熱田の商家橋屋経営、
俳人・芭蕉門、1684「冬の日」入(初出)、86「春の日」91「猿蓑」入、「曠野後集」「橋守」入、
文長(俳人/羽笠3世)の父、
[いかに見よと難面つれなく牛をうつ轂](冬の日;追加発句/いかには感動の歌語表現)、
[2世羽笠(;号)の通称] 通称;弥左衛門、
羽笠(3世うりゅう) → 文長(ぶんちよう・2世羽笠男/俳人) G 3 8 2 0
有柳(うりゅう・樋口) → 有柳(ゆうりゅう/うりゅう・樋口ひぐち、俳人) E 4 6 0 1
宇隆(うりゅう・目賀田) → 文村(ぶんそん・目賀田めがた、絵師) G 3 8 0 9
雨柳堂(うりゅうどう) → 蟬衣(せまい・雨柳堂/俳人) E 2 4 8 3
雨涼(うりよう・桜田) → 古秀(こしゅう・八田はった、絵師) M 1 9 7 5
雨凌(うりよう・久富) → 山公(さんこう・久富ひさとみ、俳人) M 2 0 1 8
- B1251 **雨林**(うりん) ? - ? 相模の雑俳点者、1766「さがみぶり」入
- B1252 **宇鱗**(うりん、南畝かその同好者の戯名)?-? 1781黄表紙評判記「菊寿草」著
- D1250 **有隣**(うりん・大島おおしま)1755- 1836:82歳 武州葛飾大島村の名主の家/心学・中沢道二門、
1785郷里に恭儉舎開塾/1812石見津和野/浜田で布教/江戸人足寄場教諭方/心学講話、
1814「心学和合歌」26「心学心得艸」33「心学道歌集」39「心学信徳録」14「心学和合歌」著、
[有隣(;号)の名/通称/別号]名;義展、通称;幸右衛門、号;蓋簪舎がいしんしゃ/八十翁、
法号;慈心院
- D1251 **宇林**(うりん・佐藤さとう、春慶)?- ? 尾張佐屋の俳人/等亀の父、
1732等亀追善「蓮葉はちすば集」編
于麟(うりん;字・小野) → 東溪(とうけい・小野、儒者) D 3 1 0 7
雨林(うりん・穎川/葉) → 雅範(まさのり・穎川えがわ/葉/盧、通事) G 4 0 2 7
芋隣(うりん・堀田) → 燕斎(えんさい・堀田、旗本/川柳作者) B 1 3 7 5
雲林院供奉(うりんいんぐぶ) → 永胤(えいいん/よういん、法師/歌人) 1 3 0 0
雲林院親王(うりんいんのみこ) → 常康親王(つねやすしんのう、歌人) E 2 9 0 9
有隣斎(うりんさい) → 有隣斎(ゆうりんさい・三浦、歌/紀行) E 4 6 1 4
鳥鱗子(うりんし・石川) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7
嬉(うれし・賀来) → 正臣(まさおみ・賀来かく、藩士/歌人) O 4 0 7 3
嬉丸(うれしまる・宇多楽庵) → 宇多楽庵嬉丸(うだらくあんうれしまる、滑稽本作) D 1 2 0 4
雨簾(うれん・石河) → 積翠(せきすい・石河いじこ、幕臣/俳人) D 2 4 6 4
雨露(うる・矢彦) → 知充(ともみつ・矢彦やひこ、国学/書/俳人) W 3 1 7 8
右老房(うろうぼう) → 文輔(ぶんぼ・藤森ふじもり、紺屋/俳人) G 3 8 4 3
- B1253 **宇鹿**(うるく・西田にじだ)1669 - 1732:64歳 肥前長崎の蕉門俳人、
1694「はせを翁十六篇」/1700「艸の道」編
- D1252 **雨鹿**(うるく) ? - ? 加賀鶴来俳人;1691北枝「卯辰集」入
[から風の蓑脱ぎて見るつららかな](卯辰集)
宇碌(うるく・近藤) → 行政(ゆきまさ・近藤こんどう、国学者) G 4 6 8 4
- E1229 **うろこ組**(;組連) ? - ? 江中期江戸神田塗師ぬし町の雑俳の組連、
取次;1737「収月評万句合」入、

- 取次例;[御不足がないから色の青い事](万句合/前句よろりよろりと/酒池肉林の過勞)
 鱗形屋三左衛門(うろこがたやさんざえもん)→三左衛門(さんざえもん・山野、書肆) F 2 0 8 2
 鱗形屋杖人(うろこがたやじょうじん)→杖人(じょうじん・東武、書肆/雑俳) O 2 1 0 6
 鱗形屋孫兵衛(うろこがたやまごべえ)→孫兵衛(まごべえ・山野、書肆) 4 0 8 3
- B1254 雨露住(うろずみ・榎えのきの、牧村まきむら内記ないき)?-? 江戸牛込榎町住/狂歌;親友の赤良(南畝)門、
 1785徳和歌後万載集/87狂歌才蔵集入、黄表紙;「四人詰律義一片」著、
 [つれなさよ風のたよりに言ひよれど張り子の虎のかぶりのみして](後万載;八恋上)
 (張り子の虎は頭を左右に振るのみ)
 雨和庵(うわあん) → 権之助(6世ごんのすけ・河原崎、歌舞伎座元) G 1 9 9 9
 芸(うん・片岡) → 芸亭(うんてい・片岡、商家/儒者) D 1 2 9 7
 芸(うん・田崎) → 草雲(そううん・田崎たさき、藩士/絵師) 2 5 5 9
 雲(うん;一字名) → 公条(きんえだ・三条西/西三条、古典/歌学/連歌) 1 6 5 6
 雲(うん・佐藤/草野) → 潜溪(せんけい・草野くさの、藩儒/書/詩) M 2 4 1 3
 云(うん;一字名) → 興意親王(こういしんのう、天台僧/連歌) H 1 9 3 1
 耘(うん・柴田) → 拗斎(ようさい・柴田/新発田、地理学者) 4 7 9 9
- D1253 雲阿(うんあ;法諱・円竜;法号、俗姓柴田、還俗名;上月こうげつ興那おきな) 1808-8073 尾張名古屋の社僧、
 名古屋東照宮大僧正、東照宮別当尊寿院11世、狂歌作者、「茂乃身名集」著、
 [雲阿の号] 月道人/天竺花老人/風花翁/権現坊/六字吟社/宇無痘/百号子/銅鑼和尚
 雲愛子(うんあいし、「哥仙大坂俳諧師」序者;匿名)→西鶴(さいかく・井原) 2 0 0 1
- B1255 雲庵(うんあん、洛東隠士/跪東)?-? 軍記作者;1643「北越軍記(北越太平記)」著
 D1255 雲庵(芸庵うんあん・宇治田うじた、友春) 1618-8669歳 紀伊和歌山北桶屋町の医者、「医学辨害」著
 D1256 芸庵(うんあん・柴田) ?-? 江後期天保1830-44頃江戸の医者、
 1853刊「活幼心法附説」補填
 芸庵(うんあん・赤塚) → 正賢(まさかた・赤塚あかつか/春原、神職/歌) N 4 0 0 6
 雲庵(うんあん・鍋島) → 直與(直与なおとも・鍋島、藩主/洋学/歌) B 3 2 8 7
 雲庵(うんあん・秋吉) → 錦水(きんすい・秋吉あきよし、医者) R 1 6 2 5
 雲庵(うんあん・宮城) → 完(ひろし・宮城みやぎ、藩医者/歌人) L 3 7 4 2
 雲一(うんいち・松下) → 烏石(うせき・松下まつした、書家) B 1 2 7 7
 雲逸(うんいつ・藤堂) → 高克(たかかつ・藤堂とうどう、藩家老/教育) Y 2 6 3 9
 雲隠(うんいん・松山) → 天姥(てんぼ・松山まつやま、藩士/書家) E 3 0 2 4
 雲盈(うんえい) → 椿園(ちんえん・伊丹、商家/読本作者) 2 8 3 2
- B1204 雲円(うんえん・法諱) ?-? 南北期?僧;権少僧都/法印・歌人;新後拾遺1432、
 [うつつとも夢ともわかでこし方の昔語りになるぞはかなき](新後拾;雑1432)
- D1257 雲煙(雲烟うんえん・安西あんざい、名;於菟おと、字;山君/舟雪) 1807-5246 江戸両国の書画鑑定業、
 1840「詠三十首和歌」、「玉巖堂漫録」「笑戯曲雑談」「雲烟清賞録」「雲烟叢語」著
 [雲煙(;号)の通称] 和泉屋虎吉/和泉屋寅吉/虎
 雲遠(うんえん・益田) → 勤斎(きんさい・益田ますだ、篆刻家) H 1 6 8 7
 雲淵(うんえん・豊島) → 正美(せいび・豊島とよしま、和算・天文家) J 2 4 4 6
 雲援(うんえん・吉田) → 洞谷(とうこく・吉田よしだ、蘭英斎、絵師) V 3 1 5 5
 雲煙堂(うんえんどう) → 温古(はるひさ・栗原くりはら/亀田、国学/教育) K 3 6 1 0
- D1258 雲翁(うんおう;法諱) ?-? 江中期真言僧;泰翁門、1717備前西大寺観音院住持、
 「備前国西大寺縁起」の延宝(1673-81)以降編集(享保本)、「伝法灌頂」著
 雲翁(うんおう) → 宗竹(そうちく・雲翁、連歌作者) C 2 5 5 1
 芸翁(うんおう) → 守宣(もりのぶ・藺田/荒木田、禰宜/故実) G 4 4 2 1
 雲屋(うんおく) → 弘範(ひろのり・神吉かんなき、国学/歌人) G 3 7 8 9
- C1293 云花(うんか) ?-? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入、
 [君にえやいはれぬ恋は死ぬやまひ](二葉之松;447、
 前句;あまり淋しく文ふみの徒むら書き、えやは疑問・反語;どうにも伝えられない)
 云何(うんか・大橋) → 重保(しげやす・大橋、書家/右筆/歌) S 2 1 9 5
 雲渦(うんか・大塚) → 昌伯(しょうはく・大塚おおつか、医者/詩人) L 2 2 3 7

- 雲柯(うんか・増島) → 蘭園(らんえん・増島/平/増、幕臣儒官) B 4 8 5 9
- B1205 雲雅(うんが、光音寺僧正、花山院通雅男/本姓;藤原)?-? 鎌倉期;天台叡山僧;憲雲門、法務、法印、比叡山大塔探題/権僧正、二条派歌人;頓阿と交流、1315京極為兼[詠法華経和歌]出詠、1319文保百首参加/35内裏千首入、続現葉集入、藤葉とうよう集入、勅撰23首;新後撰(938/1258)玉(807)続千(6首206/557/648/1207/1445/1633)続後拾以下、[ながらへてあらばと思ふ心こそ人もちぎらぬ頼みなりけり](新後撰;恋938)[文保百首歌(281)に、
やまぶきの色にならばでいかなれば井出のかはづの音にはたつらん](藤葉;春82、古今集春125[かはづなくみでの山吹ちりにけり花のさかりにあはましものを]、井出の玉水;山城綴喜郡泉川渡北の歌枕で山吹と蛙の名所)
- D1259 雲臥(うんが;法諱、法号;眞蓮社証誉、俗姓;長田)1640-171071 江戸番町の浄土僧;栖岸院快竜門、増上寺学寮に修学/1700檀林飯沼弘経寺住職/増上寺34世/1702大僧正/綱吉の帰依を得る、「浄土安心章」「浄土大綱鈔」「敬仏感応鈔」「選択集私」、「念仏用意集」著、[雲臥の号] 独清/容膝/不可停
- D1260 雲快(うんかい;法諱、土御門[本姓;源]通親男)?-? 天台叡山僧;大塔日吉別当/僧正、1242平経高を訪問、1233「探題記」著
雲海(うんかい;号) → 周諭(しゅうゆ;法諱・黙庵;道号、臨濟僧)H 4 4 0 2
雲解(うんかい;字) → 竜温(りゅうおん;法諱・雲解、大谷派学僧)D 4 9 1 0
- D1261 雲蓋(うんがい、杉安すぎやす浅右衛門男)1795-186066 安藝豊田郡本郷の真宗本願寺派寂静寺9世、道振門、宗乗・余乗及び神道研究、のち遠江豊田郡に住、「安樂集講録」「神道概論」「神代卷註解」「六字积仰信録」著
- D1262 雲外(うんがい・高こう、名;鋭、良斎の長男)1833-95自刃63歳 阿波徳島の儒者;大阪の藤沢東眩門、さらに篠崎小竹・坂井虎山門、のち江戸昌平饗で古賀茶溪・羽倉簡堂門、蘭学者;川本幸民門、1865徳島藩蘭学教授/のち儒員兼任、詩文に長ず、維新後太政官左院二等書紀など各省官吏歴任/のち1895自刃、「高氏家録」「書東荘四時詞後」「関市寓目」「学鶯堂摘稿」「名物義証」「海外事物総覧」著、[雲外(;号)の字/通称/別号]字;子敏、通称;鋭一、別号;吞雨どんう/独嘯
- E1288 雲外(うんがい;号・真山まやま、名;峻たかし/通称;仲太夫)1843-190765 陸奥仙台の和漢学者、儒・国学・詩歌;佐藤直翁ちよくおう門
雲崖(うんがい;道号) → 道岱(どうたい;法諱・雲崖、臨濟僧) G 3 1 3 2
雲涯(うんがい・井上) → 智信(とものお・井上いのうえ、国学/書) T 3 1 0 7
雲外(うんがい;道号) → 東竺(とうじく;法諱・雲外、臨濟僧) E 3 1 7 8
雲外(うんがい;道号) → 智庵(ちりゅう;法諱・雲外、曹洞僧) K 2 8 4 9
雲外(うんがい;号) → 佐激(しょうとん;法諱・高泉;道号、黄檗僧) P 2 1 5 7
雲外(うんがい;道号) → 元冲(げんちゅう;法諱・雲峰うんぼう;道号、臨濟/黄檗僧) L 1 8 2 0
雲外(うんがい) → 一茶(いっさ・小林、俳人) 1 1 2 1
雲外(うんがい;号) → 大乘(だいじょう;法諱・三玄;字、曹洞僧) K 2 6 3 8
雲外(うんがい・胎岳院) → 国臣(くにのみ・平野/大中臣、勤王/歌) 1 7 0 6
雲外(うんがい・渡辺) → 岱青(たいせい・渡辺、藩士/俳人) B 2 6 7 5
雲外(うんがい・日置) → 忠尚(ただひさ・ただなお・日置へき/池田、藩老/画) Z 2 6 4 0
雲介子(うんかいし) → 関通(かんつう;法諱・無礙、浄土僧) R 1 5 4 3
- D1263 雲鶴(うんかく;法諱) ? - ? 伊勢津の僧、天野信景と交流/歌人;1730「奉納百首和歌」著
- B1206 芸閣(うんかく・千葉ちば、名;玄之/字;子玄/通称茂右衛門)1727-9266 江戸儒者;秋山玉山門/売講、徂徠学信奉/詩文;護園けんえん風、下総古河藩出仕/致仕、江戸開塾;門弟多数、1764「唐詩選掌故」69「詩学小成」、「標箋荀子全書」、1777「芸閣先生文集」90「唐詩選講釈」著
- D1264 雲鶴(うんかく・杉林すぎばやし、名;徳/有鄰、字;子鄰/子徳)?-? 江後期大阪の書家、1845「筆意」書
[雲鶴(;号)の通称/別号] 通称;徳右衛門、別号;雲鶴散人
雲鶴(うんかく・葛飾) → 北泉(ほくせん・葛飾かつしか、絵師) D 3 9 5 8
雲鶴(うんかく・柏原) → 正康(まさやす・柏原かしわばり、国学者) O 4 0 8 4

- E1286 **雲岳**(雲嶽うんがく・東山ひがしやま、) ?-1874 伊豆加茂郡伊東の真宗本願寺派宝専寺11世；
1860(万延元)火災後に再建
雲壑(うんがく；道号・永集)→ 永集(えいしゅう；法諱・雲壑、臨濟僧) C 1 3 9 0
雲壑[道人](うんがく[どうじん])→ 通恕(つうじよ；法諱・惟忠；道号、臨濟僧) 2 9 3 9
雲客居士(うんかくこじ) → 卦斎(かいさい・高橋たかはし、藩士/俳人) I 1 5 6 4
雲鶴散人(うんかくさんじん) → 雲鶴(うんかく・杉林さぎばやし、書家) D 1 2 6 4
雲霍磨(うんかくまる・佐藤)→ 清臣(きよおみ・佐藤/高橋/大関、国学) O 1 6 6 6
雲窩亭(うんかてい) → 知虎(とむとら・土屋、家老/詩文) P 3 1 9 6
運霞堂(うんかどう) → 椿年(ちねん・大西おおにし、絵師) K 2 8 9 5
雲霞楼(うんかろう) → 厚生(あつなり・朝夷あさいな、藩士/文筆) E 1 0 7 1
- D1265 **雲漢**(うんかん・中谷なかつたに、名；輝) 1812-7766歳 河内天河村の儒者・藤沢東暎門、1830尼崎藩士、
1869藩校正業館督学、「雲漢集」「積奠考」著、
[雲漢(；号)の字/別号]字；南明、別号；竜寿軒/竜州
雲間(うんかん・松平) → 雪川(せつせん・松平、治郷の弟/俳人) E 2 4 4 8
- D1266 **雲巖**(うんがん・山名やまな、名；義方) 1640-171172歳 江戸湯島の儒者、安藝広島藩儒、
浅野家3代藩主に出仕/側儒、「雲巖略集」、1695「山水軒之記」著、
[雲巖(；号)の字/通称/別号]字；敬直、通称；十蔵、別号；黄鳥軒/梅居
雲巖(うんがん；道号) → 道巍(どうぎ；法諱・雲巖、黄檗僧) C 3 1 5 8
雲巖(うんがん・岡村) → 箕斎(きさい・岡村おかむら、儒者/勤王派) K 1 6 4 9
雲岩(雲巖うんがん；道号・聖秀、臨濟僧)→ 範秀(のりひで・小串、歌/早歌) F 3 5 5 3
雲関居(うんかんきよ) → 西巒(せいらん・野村/丹治比、藩儒/香道) D 2 4 0 8
雲巖居士(うんがんこじ) → 範秀(のりひで・小串おぐし/こぐし、歌/早歌) F 3 5 5 3
雲巖道岫(うんがんどうしゅう)→ 信秋(のぶあき・豊原とよはら、楽人) 3 5 7 0
雲間野衲(うんかんのう) → 仁如(にんじよ；道号・集弁；法諱、臨濟僧/詩文) G 3 3 9 7
雲起(うんき・山本) → 南陽(なんよう・山本やまもと、儒者) J 3 2 6 0
雲喜(うんき・氏家) → 緑山(りよくざん・氏家うじえ、藩儒者) J 4 9 7 6
運吉(うんきち・関) → 養軒(ようけん・関せき、儒/藩校創設) 4 7 7 4
芸暉堂(うんきどう) → 蘆中(ろちゅう・古沢ふるさわ、俳人) C 5 2 1 0
芸暉堂(2世うんきどう) → 利風(りふう・奥村おかむら、俳人) C 4 9 4 3
雲脚子(うんきゃくし) → 竹陰(ちくいん・藪内やぶのうち、茶人) C 2 8 5 0
雲休堂(うんきゅうどう；堂号)→ 都の錦(みやこのにしき、浮世草子) 4 1 3 9
雲居(うんきよ・高木) → 秀真(ひでざね・高木、藩士/歌人) D 3 7 0 6
雲橋庵(4世うんきょうあん) → 午有(ごゆう・野口のぐち、医者/俳人) N 1 9 8 1
雲興軒(うんきょうけん) → 玄昌(げんしょう；法諱・文之、臨濟僧/詩) C 1 8 1 7
雲橋社(うんきょうしゃ) → 季充(りじゅう・加藤かとう、国学/俳人) B 4 9 2 2
雲錦(うんきん・雲錦亭) → 季鷹(すえたか・賀茂/山本、神織/歌人) 2 3 0 6
雲琴堂(うんきんどう) → 芳野(よし・榊原さかきばら、国学者) F 4 7 5 2
雲隅翁(うんぐうおう/雲隅窩)→ 羅江(らこう・中嶋なかじま/源、俳人) B 4 8 3 2
雲窟(うんくつ・池上、雲窟孤峯)→ 隼之助(じゆんのすけ・池上いけがみ、藩士) L 2 1 7 3
- B1207 **雲華**(うんげ；号・大含だいがん；法諱、俗名；末広すえひろ信慶、泥蓮院円黙男) 1773-185078 豊後竹田の生、
豊前古城真宗大谷派正行寺の養子/14世住職/1819高倉寮擬講/34講師、儒詩；法蘭門、
のち南冥門/竹田・茶山・山陽らと親交、書画、「雲華草」「再興演説集」、外講義録多数、
[雲華の別号] 鴻雪/独秀/枳東きとう/染香人/雲華院大含
- B1208 **運慶**(うんけい、康慶男) ? - 1223? 鎌倉初期彫刻家；仏師、興福寺北円堂の諸仏制作、
東大寺南大門仁王像；快慶と共作
- B1209 **雲溪**(うんけい；道号・支山；法諱、初号；雲石、美濃守護土岐頼清男) 1330-9162 臨濟僧・雪村友梅門、
播磨長良に護聖寺開/1388相国寺5世、画；雪舟門、「西巖集」「雲溪山禅師語録」「金蘭簿」著
- B1210 **雲溪**(うんけい・笠原かさばら/小笠原・修姓；原、名；龍鱗/字；子魯/通称玄蕃) ?-? 江前期山城儒者・詩、
伊藤仁斎門、武術、1736「桐葉篇」、「唐詩訓解」「唐詩法律」著
- D1267 **雲溪**(うんけい；法諱・号；竜華院、俗姓蓮井) ?-1885 豊前川崎真宗光蓮寺住職、1853高倉学寮で講義、

1865擬講/嗣講、「最要鈔雲溪録」「三経往生文類随聞記」著

- E1267 **雲溪**(うんけい;法諱、俗姓;粕谷) 1830-? 画僧;1837武蔵入間郡北野村の曹洞宗全徳寺に入門、京の興聖寺で修学/山口の来迎寺住持/1857(28歳)全徳寺13世、絵師;墨梅図に長ず、寺子屋の師匠として村内の子弟に教育、画;維新後;内国勸業博覧会に連続優賞、1880全徳寺火災;多くの資料焼失
- 雲卿(うんけい・大原) → 呑響(どんきょう・大原おおはら、儒/経世家) S 3 1 1 3
雲卿(うんけい・井坂) → 松石(しょうせき・井坂いさか/井/坂東、商家/詩人) K 2 2 3 0
雲卿(うんけい・長尾/井田) → 赤城(せきじょう・井田いだ/長尾、儒者) K 2 4 1 9
雲桂(うんけい・秋吉) → 錦水(きんすい・秋吉あきよし、医者) R 1 6 2 5
雲溪(うんけい;法諱) → 洞水(とうすい/桃水とうすい;道号・雲溪、曹洞僧) F 3 1 6 7
雲溪(うんけい・新宮) → 凉民(りょうみん・新宮しんぐう/柚木、蘭医) J 4 9 5 1
韞卿(うんけい・和田) → 東郭(とうかく・和田わだ、医者) C 3 1 1 3
雲馨院(うんけいいん;号) → 荷洲(かじゅう;法諱・雲馨院、真宗大谷派僧) L 1 5 8 3
雲鯨斎(うんげいさい) → 英信(えいしん・雲鯨斎、絵師) D 1 3 0 4
- B1211 **蒔賢**(うんけん;法諱・楽阿らくあ;号、俗姓;武藤掃部助為用、為季男)?-? 僧、歌;冷泉為秀門、1366頃月並会催/66年中行事歌合/67新玉津島歌合参加、勅撰2首;新拾遺1476・新続古1424、[今ぞみる四十余あまのことはにあらはれざりし露のひかりを]、(新拾遺;釈教1476/無量義経の四十余年未顕真実の心を)
連歌の楽阿法師との関係は? → 楽阿(らくあ、武藤、歌/連歌) B 4 8 0 3
蒔謙(うんけん;道号) → 戒琬(かいわん・蒔謙、黄檗僧) J 1 5 1 6
雲軒(うんけん・竹田) → 昌忠(まさただ・竹田/永原、藩士/儒) D 4 0 4 9
雲軒(うんけん・由利) → 公正(きみまさ・由利ゆり/三岡、藩士/財政/政治) I 1 0 7 5
雲溪(うんけん・洞水/桃水) → 洞水(とうすい/桃水とうすい・雲溪、曹洞僧) F 3 1 6 7
- D1268 **雲虎**(うんこ・和尚) ? - ? 1706「菊の塵」に園女の雲虎和尚に答える文入
- B1213 **雲鼓**(うんこ・堀内ほりうち) 1664- 1727 64歳 大和吉野の俳人:方山門/歌;長伯門、京五条橋東に住、1699岡山行脚、1701因幡伯耆行脚/1704洛東迎光庵結;剃髪、1711頃雑俳点者、1695(元禄8)雑俳集「夏木立」編(雲鼓点の笠付集)、1702(元禄15)「西国船」編(京の福森兵左衛門版、京・備前・因幡・伯耆・美作の笠附集)、1705俳書「やどりの松」著/12雑俳書「家の風」編/13「削りかけ」雲堂と共編、1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、1728刊「志加聞しかぎき」(没後に雲峰編)/1730刊「俳諧浜の真砂」共編(没後刊)、追善集;「孤雲上」「二日月」「雲の台」、雲堂・雲峰の師、[寒病の我をおどすな松の声](伊丹発句合;冬)、[雲鼓(;号)の別号] 迎光庵/千百翁/吹簫軒/助給、法号;仏誉助給
- E1223 **雲鼓**(うんこ) ? - ? 江中期江戸の俳人;雑俳点者、1737-48「雲鼓評万句合」編
雲壺(うんこ・馬場、木室卯雲ぼううん・嘶家) → 白鯉館(はくりかん) 3 6 1 2
雲湖(うんこ・中田) → 粲堂(さんどう・中田/藤、与力/儒者) M 2 0 6 6
雲湖(うんこ・宮川) → 緑斎(ろくさい・宮川みやがわ、農業/詩・書) 5 2 8 1
- B1212 **雲居**(うんこ;道号・希膺きよう;法諱、号;把不住軒、小浜左京男) 1582-1659 78 臨濟僧;一亩東黙門、大坂冬の陣に捕縛/赦免;若狭摂津に住/1636松島瑞巖寺中興/45妙心寺153世、「ほそ道」入、「般若心経大意」「医生物語」「雲居和尚語録」「雲居発心省要」「雲居和尚往生要歌」著、[雲居の諡号] 慈光不昧禅師/大悲円満国師
- D1269 **雲口**(うんこう) ? - ? 俳人;1691北枝「卯辰集」2句入、[さみだれやあかるき方ほうに鶏とりの声](卯辰集;198)
芸香(うんこう) → 紅蘭(こうらん・梁川景婉、詩人) C 1 9 0 1
雲行(うんこう・山形) → 高春(たかはる・山形やまがた、商家/歌人) 2 7 0 9
蘊香(うんこう・立花) → 玉蘭(ぎよくらん・立花/矢島、女流詩人) P 1 6 4 1
雲耕庵(うんこうあん、日桓) → 一瓢(いっぴょう・川原、日蓮僧/俳人) B 1 1 6 3
運光院(うんこういん) → 経孝(きょうこう;法諱、天台僧) N 1 6 7 2
雲光院(うんこういん) → 稚子(まさこ・北小路きたのこうじ/大江、歌) C 4 0 4 7

- 雲興軒(うんこうけん) → 玄昌(げんしょう;法諱・文之、臨濟僧/詩) C 1 8 1 7
 芸香亭(うんこうてい) → 芸亭(うんてい・片岡、商家/儒者) D 1 2 9 7
 雲谷(うんこく;道号・玄祥) → 玄祥(げんしょう;法諱・雲谷、臨濟僧) J 1 8 9 3
 雲谷[軒](うんこく[けん];号) → 等楊(とうよう・雪舟、臨濟僧/水墨画) H 3 1 7 1
 雲谷山人(うんこくさんじん) → 勝盛(かつもり・谷口たにぐち/谷梅、藩士/歌) V 1 5 0 5
 雲居寺上人(うんごじしょうにん) → 瞻西(せんさい・せんせい;法諱、天台僧/歌人) G 2 4 1 6
 D1270 雲根(うんこん;通称・山本やまもと、字:文恭、号;醉月)?-? 江後期文政天保1818-44頃岩代会津の医者、
 塩釜に開業、「活潑々」著
 雲根斎(うんこんさい) → 昌麿(まさまろ・斎藤、国学者/歌人) H 4 0 3 3
 D1271 雲左(うんさ;道号・日唯にちゆい;法諱)1767-1840 74 江後期日蓮僧;1820佐賀日蓮宗觀照院住職、
 1827京本満寺住職、1834肥前小城光勝寺住職、
 俳人;美濃派宗匠/1817文台を耳風に譲、1824「歴遊笠の露」編、
 [雲左の別道号] 十方院/十方庵/画山/雲左坊
 雲斎(うんさい・小寺) → 清先(きよさき・小寺こでら、神職/国学) D 1 6 1 5
 雲斎(うんさい・矢田) → 秋世(あきつぐ・矢田やだ/源、神職/国学) I 1 0 5 8
 芸齋(うんさい→げいさい) → 藝齋(げいさい・市川、儒者) F 1 8 6 8
 運察(うんさつ;初法諱) → 法岸(ほうがん;法諱、浄土僧) 3 9 3 4
 雲左坊(うんさぼう) → 雲左(うんさ・日唯にちゆい、日蓮僧/俳人) D 1 2 7 1
 D1272 雲山(うんざん;道号・愚白;法諱)1619-1702 84歳 江前期肥後益城の曹洞僧、1635出家;斧山・月舟門、
 越中瑞竜寺を開創/和泉成合寺を開創、「雲山和尚語録」著
 B1214 雲山(うんざん・有木ありき吉、別号;元善/雲山道人)?-? 備後沼隈の医者;山脇東洋門/儒者、
 1761「吐納暇言」・66「道学正要」著
 D1273 雲山(うんざん・山崎やまざき、名;吉)1771-1831 61歳 能登羽咋郡滝の絵師/書に長ず、
 古画譜を独学で修学/晩年に聾となる;聾雲山と称された、「乗燭談」著、
 [雲山(;号)の字/通称/別号]字;元祥、通称;滝吉ろうきち、
 別号;雲仙/文軒/石洞陳人/雪芙蓉道人/亀岩滝吉
 B1215 雲山(うんざん・宮沢みやざわ、名;雉/達、字;神遊/上侯)1780-1852 73 武州秩父儒詩;市河寛齋門/
 江湖詩社入、江戸浅草住、1818帰郷;詩結社、「唐詩佳絶」「宋詩佳絶」「清詩佳絶」編、
 「錦繡叢」「碎珊瑚」「焦尾琴」「三大家百絶」「破硯随筆」「探勝遊記」著、「雲山遺稿集」、
 遺詩集「三雲絶句」(雲濤・雲山・雲如の遺詩、木内子陽ら共編)、
 [雲山の別号] 破硯翁/細庵/小無絃/再生翁/小青軒/酒肉頭陀
 D1274 雲山(うんざん・池原いけはら、名;以文/字;良章、別号;桜顔山人)?-?1830までに没 幕府医官、
 江戸麻布に住、1821頃表御番医師、詩人、1824「桜花五百詠」、「傷寒論大疏并衍義」著
 雲山(うんざん) → 良頼(よしより・三木みつき/姉小路、武将) I 4 7 0 4
 雲山(うんざん・馬場) → 一梯(いつてい・馬場ばば、儒者/書家) H 1 1 6 6
 雲山(うんざん;号) → 恵船(えはく;法諱、真宗本願寺派学僧) E 1 3 2 1
 雲山(うんざん・野呂) → 見龍(けんりゅう・野呂のろ、医者/詩文) M 1 8 8 5
 雲山(うんざん・青木) → 雲岫(うんしゅう・青木あおき、儒者/兵学) D 1 2 8 3
 雲山(うんざん・児島) → 政毅(まさたけ・児島こじま/土田、商家/国学) P 4 0 6 6
 雲山觀公(うんざんかんこう) → 良頼(よしより・三木みつき/姉小路、武将) I 4 7 0 4
 芸山莊主人(うんざんそうしゅじん) → 規綱(のりつな・渡辺、家老/茶/陶芸) F 3 5 0 9
 雲山道人(うんざんどうじん) → 雲山(うんざん・有木ありき、医者/儒者) B 1 2 1 4
 D1275 雲子(うんし、玄々斎/松濤軒)?-? 安藝瀬野の真宗竜善寺の僧、
 1843京本山詣「癸卯紀行」著、俳人;1849「高点抜句」著
 雲史(雲翹うんし) → 豊綱(とよつな・真野まの、神官、国学/俳) R 3 1 3 0
 運七(うんしち・大沢) → 惟貞(これさだ・大沢おおさわ、藩士/文筆家) O 1 9 3 2
 B1216 雲室(うんしつ;号・鴻漸/了軌;法諱、恵随男)1753-1827 75 真宗僧/絵師;信州光蓮寺生/1773江戸住、
 儒;瀧水しんすい・林家門、1792光明寺26世、詩画;結社小不朽社、随筆、「室中之燭」「西峰放言」、
 「花叟解意」「老君解意」著、1812「花濺涙帖」画/16「宋詩画伝」画、27「雲室随筆」著、
 [雲室の字/別号] 字;元儀/公範、別号;石窓/拳石道人/小拳子/大洲上人、法号;震大院

- D1276 **雲珠**(うんしゆ) ? - ? 戦国期連歌作者;1518宗長「東山千句」参加
 雲樹(うんじゆ・小林) → 文康(ふみやす・小林/有賀、国学) E 3 8 1 0
 雲澗院(うんじゆいん;諡号)→ 神興(じんこう;法諱、徳母院/大谷派僧) O 2 2 3 4
- D1277 **雲岫**(うんしゆ;法諱) ? - ? 江前期黄檗僧;潮音道海門?、1679「南北顕正論」著
- D1278 **雲岫**(うんしゆ) ? - ? 江前期京の俳人;1690言水「新撰都曲」1句入、
 [松風に先づ角おらす田螺哉](都曲;下321/春風に角を吹き折られた蝸牛のよう)
- D1283 **雲岫**(うんしゆ・青木あおき、名;体信(なり)のぶ)?-1778 羽後秋田藩(久保田藩)梅津忠英の家臣、
 儒者;経学、兵学、歌、1744「一南師談」、「論語合読」著
 [雲岫(;名)の通称/別号]通称;直右衛門、別号;余韵/雲山、法号;古峰
- D1279 **雲岫**(うんしゆ) ? - ? 江中期俳人、1773魯玉「俳諧むかし鑑」跋/歌仙入
- D1280 **雲集**(うんしゆ;法諱・是心院;号、俗姓;調しらべ、大谷派円竜男)1819-99⁸¹ 筑後の真宗大谷派僧、
 筑後栄久寺住職/1868擬講/97講師、「横川法語講義」、「解深密経記」著
 雲洲(うんしゆ・黒田) → 正足(まさたり・黒田/源、藩士/詩歌) D 4 0 6 8
 雲岫(うんしゆ・西村) → 清臣(きよおみ・西村にしむら、藩士/歌人) U 1 6 0 5
 雲岫(うんしゆ・田中) → 頼庸(よりつね・田中たなか、藩士/神職) N 4 7 6 6
 運周(雲岫うんしゆ;字) → 寂本(じやくほん;法諱、真言僧) G 2 1 3 7
 芸聚(うんしゆ) → 日栄(にちえい・芸聚、日蓮僧) 3 3 6 4
 雲従(うんじゆ・多紀) → 元琰(げんえん・多紀たき、幕臣/医者) H 1 8 9 8
 雲十(うんじゆ・仲野) → 安雄(やすお・仲野なかの、庄屋/儒・神道) B 4 5 0 1
 雲岫斎(うんしゆさい) → 忠裕(ただやす・青山、藩主) R 2 6 0 7
 雲从堂(うんじゆどう/うんしよどう)→ 蘇民(そみん・安枝やすえ、藩士/文筆家) K 2 5 4 2
 雲叔(うんしゆく;道号) → 宗慶(そうけい;法諱・雲叔;道号、臨濟僧) G 2 5 8 8
 雲樹国済国師(うんじゆこくさいこくし)→ 覚明(かくみょう;法諱・孤峰、臨濟僧) B 1 5 7 3
- D1281 **雲処**(うんじよ・蒔田またた、名;亮、字;公弼/通称;凡、雁門男)1812-65⁵⁴ 福井詩人/越前高柳村代官、
 仏道、詩文/書画、「百自吟」「北冥集」「烟霞堂雑録」「羽山小隠吟草」「梅亮冗言」著、
 1864「雲処詩鈔」著
 雲処(うんじよ・柏原) → 正康(まさやす・柏原かしわばり、国学者) O 4 0 8 4
 雲処(うんじよ・岩室/室) → 子鑄(しじよう・岩室いわむろ、醸造家/詩) L 2 1 0 0
- D1282 **雲助**(うんじよ;法諱) ? - ? 江中期享保1716-36頃;真言宗醍醐寺安養院の僧、
 中院有雅・寛順門、権僧正、1720「灌頂伝聞記」、「伝法灌頂記」「伝法灌頂伝聞記」著
- B1217 **雲如**(うんじよ・遠山とおやま・建部、名;有孚ありざね/澹、小倉大輔男)1810-63⁵⁴歳 江後期江戸の儒者、
 ;長野豊山門/梁川星巖門、各地遊歴、京に住、詩人;「玉池吟社詩」「棧雲集」「湘雲詩鈔」、
 「湘雲嶽雪集」「湘雲集」「雲如山人集」「雲如山人第三・四集」「雲如山人詩鈔」著、
 「雲如先生遺稿」、遺詩集「三雲絶句」(雲濤・雲山・雲如の遺詩、木内子陽ら共編)、
 [雲如(;号)の字/別号]字;子発/雲如、別号;浴斎/雲如山人
- B1218 **雲聖**(うんじよ、通称;大納言、宮内卿藤原範氏[浄覚]男)?-1323 鎌倉期天台僧;日光門/法印、
 権大僧正、歌人、玉葉集1902、
 [散る花を尾上をのへのかねにかへりみて夕山いづる春の里人](玉葉;雑・春1902)
- B1219 **運徹**(うんじよ;法諱・泊如;道号、俗姓;藤原)1614-93⁸⁰歳 大阪の真言僧;1629出家/30日誉門/
 さらに元寿・寛濟・良誉門、1655奈良で三論等を修学/56叡山で天台を修学、
 1661京智積院7世能化/82隠退、
 詩文、1649「性霊集鈔」63「三教指帰刪補」71「性霊集便蒙」89「谷響集」93「端林集」外著多数、
 [運徹の字] 元春/元俊
 雲章(うんじよ;道号) → 一慶(いっけい;法諱・雲章、臨濟僧) B 1 1 3 9
 雲章(うんじよ・塩川) → 文麟(ぶんりん・塩川、絵師) G 3 8 7 9
 雲樵(うんじよ) → 既白(きはく・無外庵、曹洞僧/俳人) B 1 6 7 0
 雲樵(うんじよ・長谷川) → 杏所(きょうしよ・長谷川はせがわ、医者) O 1 6 0 2
 雲樵(うんじよ・森田) → 千庵(せんあん・森田もりた、医者) L 2 4 5 5
 雲樵(うんじよ・麻生) → 策応(さくおう・麻生あそう、僧/歌人/能書) N 2 0 6 6
 雲樵(うんじよ・勝部) → 眞楯(またて・勝部かつべ/佐々木、国学者/神職) O 4 0 9 1

- 雲城(うんじょう・劉) → 石秋(せきしゅう・劉りゅう/合谷ごうや、儒者) D 2 4 5 2
 雲城(うんじょう・鍋島) → 桜洲(おうしゅう・中井なかい、国事/詩) C 1 4 4 9
 雲城(うんじょう・矢田部) → 盛次(もりつぐ・矢田部やたべ、神職/国学) L 4 4 7 5
 雲松院(うんしょういん:諡) → 淳子(ちんこ・伊達、歌人) E 1 0 5 6
 雲松院(うんしょういん:諡) → 温子(ぬるこ・伊達だて/徳川、藩主室) K 3 6 3 5
 雲章弘宗禪師(うんしょうこうそうぜんじ) → 一慶(いつけい;法諱・雲章、臨濟僧) B 1 1 3 9
 雲蕉斎(うんしょうさい) → 重房(しげふさ・寺井、絵師) S 2 1 5 1
 雲裳存庵(うんしょうそんあん) → 愛親(なるちか・中山、大納言) I 3 2 4 5
 雲从堂(うんしょうどう) → 蘇民(そみん・安枝やすえ、藩士/文筆家) K 2 5 4 2
 雲如山人(うんじょさんじん) → 雲如(うんじょ・遠山とおやま・建部、詩人) B 1 2 1 7
 運四郎(うんしろう・坂本) → 英臣(ひでとみ・坂本、藩士/砲術師範) D 3 7 3 3
 雲津(うんしん・松浦) → 武四郎(たけしろう・松浦、探検家;北海道名付親) E 2 6 3 8
 雲津(うんしん・岡野) → 石圃(せきほ・岡野おかの/岡、絵師) K 2 4 4 6
 B1256 運尋(うんじん;法諱) ? - ? 鎌倉期僧:浄弁門/歌人、
 1316浄弁より古今伝授を受
 蘊眞堂(うんしんどう) → 淡雅(たんが・菊池/大橋、商家/儒者) T 2 6 2 1
 B1285 雲水(うんすい・頭陀樂ずだらく、愧然ほれほれ主人、愧然堂夢囈むげい) ?-? 江後期上方滑稽本作者:
 1808「井中水」著(一文亭画)
 D1284 雲水(うんすい・無庵) ? - ? 狂歌;橘州門、1782橘州「狂歌若葉集」入
 雲水山人(うんすいさんじん) → 春彦(はるひこ・近藤、国学者) B 3 6 7 2
 雲水陳人(うんすいちんじん) → 皆山(かいざん・坂本さかもと、医者) I 1 5 6 5
 雲水子(うんすいし) → 重右(しげすけ・大和田おおわだ、藩士/歌人) N 2 1 8 3
 雲水房(うんすいぼう) → 既白(きはく・無外庵、曹洞僧/俳人) B 1 6 7 0
 雲水房(うんすいぼう) → 道阿(どうあ;法諱、僧/歌人) V 3 1 8 3
 雲水无尽(うんすいむじん) → 容斎(ようさい・菊池、武保、幕臣/絵師) 4 7 9 5
 雲寸六郎(うんすんろくろう) → 六郎(ろくろう、狂文作者) B 5 2 1 9
 D1285 雲晴(うんせい;法諱、増田正宅男) ?-? 1723存 高松の真言宗行徳院主;1723「水精山記」著
 雲聖(うんせい) → 雲聖(うんしょう、天台僧/歌人) B 1 2 1 8
 雲晴(うんせい・柴田) → 光寛(みつひろ・柴田/藤原、商家/蔵書) E 4 1 6 9
 雲世(うんせい・作並) → 鳳泉(ほうせん・作並さくなみ、藩儒者) F 3 9 3 5
 雲栖(うんせい;号) → 神興(じんこう;法諱、徳母院/大谷派僧) O 2 2 3 4
 雲棲(うんせい・小泉) → 蒼軒(そうけん・小泉こいずみ、地誌/測量家) H 2 5 0 8
 運清(うんせい;字) → 智明(ちみょう;法諱、真言律僧) F 2 8 4 4
 雲井園(うんせいえん) → 梅信(うめのぶ・雲井園くもいえん、狂歌) D 1 2 4 0
 雲井園(うんせいえん) → 都竜軒(とりゅうけん・山本、茶舗/狂歌) R 3 1 9 0
 D1286 雲石(うんせき・内海うつみ、重致男) ?-1849 伊勢藤堂家家臣、槍術教授、槍奉行/旗奉行、
 漢学;経学/易学、詩文/俳諧に通ず、「易繫私鈔」「学庸私鈔」著、
 [雲石(;号)の名/字/通称]名;重彝しげり、字;原卿、通称;左門、
 雲石(うんせき;初号) → 雲溪(うんけい・支山、臨濟僧/1330-91) B 1 2 0 9
 雲石(うんせき・平松) → 理準(りじゆん・平松ひらまつ、真宗大谷派僧/詩歌) L 4 9 8 6
 雲石(うんせき・高見) → 祖厚(そこう・高見たかみ、藩士/国学/書) L 2 5 0 4
 雲石堂(うんせきどう;号) → 寂本(じやくほん;法諱、真言僧) G 2 1 3 7
 雲雪(うんせつ・関) → 葦雄(あしお・関せき、茶道/国学) H 1 0 7 9
 D1287 雲泉(うんせん・鉤くしろ、名;就じゆ) 1759-1811 53歳 肥前の文人絵師/南宋画;山水画に長ず、
 [雲泉(;号)の字/通称/別号]字;仲孚ちゆうふ、通称;文平
 別号;魯堂/岱学たいがく/六石ろくせき/磊落居士らいらくこじ
 D1288 雲扇(うんせん・井上いのうえ) ? - ? 江後期京伏見の俳人;如泉/雲堂[畔甘舎]門、雑俳、
 1846「玉かつら」編、「父母」「はいかい四海浪」著、貞扇の師、
 [雲扇の別号] 枯木庵/畔甘舎2世/犬水
 雲泉(うんせん;号) → 円解(えんげ;法諱、真宗大谷派僧) E 1 3 5 3

- 雲泉(うんせん・丸山) → 活堂(かつどう・丸山/山、藩士/和学) H 1 5 8 2
 雲泉(うんせん・打它) → 光軌(みつり・打它うた/うちだ、歌人) E 4 1 4 5
 雲泉(うんせん・岩井) → 雅重(まさしげ・岩井いらい、和算家/教育) C 4 0 7 9
 雲泉(うんせん・大原) → 景寛(かげひろ・大原おおはら、農業/国学) T 1 5 9 7
 雲川(うんせん;号) → 大極(たいきよく/たいぎよく;道号、臨濟僧) B 2 6 2 6
 雲川(うんせん・松浦) → 武四郎(たけしろう・松浦、探検家;北海道名付親) E 2 6 3 8
 雲船(うんせん・有馬) → 頼永(よりとお・有馬ありま、藩主/詩文) J 4 7 1 3
- B1220 雲禪(うんぜん) ? - ? 南北期の僧;法印、歌人、1335内裏千首参加、
 勅撰6首;続千載(1951)続後拾(595)新千載(667/899/1886)新拾遺(1445)、
 [いく秋かかはらぬ月の宿ならん跡は昔の庭のあさぢふ](続千;雑1951)
- D1289 蘊善(うんぜん;法諱、号;清雅堂) 1775-? 江後期真言僧、高野山声明;南山進流、大原流音曲、
 1790頃浄雲院/1813頃西蓮院/1830-44頃報恩院住、1815「音律開合」33「声明輪転図」著
- 運善(うんぜん・青方) → 運善(ゆきよし・青方あおかた、家老/記録) 4 6 2 8
 雲仙(うんせん・山崎) → 雲山(うんざん・山崎やまさき、絵師/書) D 1 2 7 3
 雲泉庵(うんせんあん) → 青峨(せいが・山田やまだ、俳人) H 2 4 6 6
 雲泉軒(うんせんけん) → 精酔(せいすい・雲泉軒、俳人) C 2 4 3 9
 雲泉野衲(うんせんやのう) → 太極(たいぎよく;道号、碧山、臨濟僧/日記) B 2 6 2 6
- D1290 雲窓(うんそう・山田やまだ、恒久、通称;栄蔵) 1775-1826 52歳 安藝広島の儒者、詩/俳諧/絵画に通ず、
 来青の双子の弟/終生兄の来青に寄食、「雲窓紀行」著、
 「雲窓遺稿」(1828頼杏平の題詩付きで刊)
 兄 → 来青(らいせい・山田やまだ、俳人) D 4 8 3 8
- B1286 雲淙(うんそう・鷹羽たかのほ、名;童年/世宜、未有男) 1796-1866 71 志摩鳥羽藩士/儒;昌平覺出;
 林檎字てい・岡本花亭門、儒詩、帰郷後神職/1845藩校尚志館賓師/督学、「蓑唱羽城集」著、
 1813「蓑唱菴存稿初編」47「志摩詩志」55「僊月影唱和」61「蓑唱老稿初編」、「詩醇蕉飲録」著、
 [雲淙の字/通称/別号]字;莊潮/半鱗、通称;主税、別号;瀑翁/天紳子/根石/布袋/蓑唱庵
- 雲窓(うんそう;号) → 如是観(にょぜかん・雲窓、真宗僧/国学) G 3 3 0 3
 雲窓(うんそう・金内) → 格三(かくぞう・金内かねうち、儒者) K 1 5 1 8
 雲莊(うんそう・鈴木) → 伍草(ごそう・鈴木すずき、藩士/儒者) M 1 9 9 9
 雲叟(うんそう・鍋島) → 直与(なおとも・鍋島、藩主/洋学/歌) B 3 2 8 7
 芸叟(うんそう;法号) → 玄修(げんしゅう・山脇/三宅、医者) J 1 8 5 7
 芸窓(うんそう、芸窓主人) → 太華(たいか・山県、藩士/儒者/詩) B 2 6 0 8
 篋窓(うんそう) → 迷庵(めいあん・市野、質商/儒者) 4 3 0 0
 運蔵(うんそう・江幡) → 通静(みちきよ・江幡えぼた、儒国学/歌人) I 4 1 2 2
 芸窓翁(うんそうおう) → 常夏(つねなつ・久志本/度会、歌人) C 2 9 8 7
 雲蔵居(うんそうきよ) → 尺童(せきりゅう・吉沢、国学/俳人) D 2 4 9 6
 雲巢主人(うんそうしゅじん) → 尚賢(ひさかた・柳やなぎ/千野せんの、医・和算) 3 7 9 4
 雲巢道人(うんそうどうじん) → 雄風(おかせ・清原、医者/歌) 1 4 3 2
 雲足(うんそく・重井) → 重雪(じゅうせつ・重井しげい、俳人) H 2 1 8 9
- D1291 雲帯(うんたい・成沢なるさわ、名;寛致、万屋七郎左衛門男)?-? 信州上田原呉服商/俳人;白雄門、
 諸国歴遊、1810「俳日記」補、寛満の父/寛経ひろつねの祖父、
 [雲帯の通称/別号]通称;金兵衛/七郎左衛門(父を踏襲)、別号;槐園/指峯楼
 孫 → 寛経(ひろつね・成沢、百合舎、商家/国学者) G 3 7 4 4
- D1292 雲台(うんたい・宮崎みやざき、名;郁/有成、伊藤当易男/叔父宮崎淳庵養子) 1738-1810 73 熊本藩医官、
 藩校時習館入学;秋山玉山/藪孤山門、1767八代郷校伝習堂教官、詩文、
 「菊存園詩集」「菊存園文集」著、
 [雲台の字/通称/別号]字;子文、通称;瑞庵/瑞安/柳水、別号;菊存園、
- 芸台(うんたい) → 肇(はじめ・楠部くすべ、郷土史家) E 3 6 3 9
 雲台(うんたい・沢野) → 喬緒(たかお・沢野さわの、詩人) L 2 6 6 0
 雲台(うんたい・松平) → 定賢(さだよし・松平、藩主/国学/詩) K 2 0 2 4
- D1293 雲沢(うんたく・原はら、名;尚賢、字;子才、別号;湖南) 1710-74 65 江戸湯島医者/儒;太宰春台門、

1744「斥非」校訂刊

- 雲沢(うんたく) → 真蘂(しんずい;法諱・季瓊きけい;道号、臨濟僧) 2 2 3 6
 雲沢(うんたく) → 大倉(だいそう・遠藤説夫、医者/詩歌) K 2 6 5 6
 雲倬(うんたく・岸) → 岱(たい・岸きし、岸岱、絵師) 2 6 0 0
 運太夫(うんだゆう・広瀬) → 台山(たいざん・広瀬、藩士/絵師/詩) K 2 6 0 7
 運太夫(うんだゆう・門崎) → 盛時(もりとき・門崎かんどき、兵学者) F 4 4 8 9
 雲多楼鼻垂(うんたろうはなたれ) → 春足(はるたり・遠藤、商人/狂歌/戯作) G 3 6 5 1
- D1294 雲潭(うんたん・鏑木かぶらぎ、名;祥胤/字;三吉、市河寛斎男/鏑木梅溪養子) 1782-1852 71 江戸絵師、
 谷文晁門、梅溪に見込まれ1800養子、1815「残雲片水」編、「東海道名勝詩集」画、市河米庵の弟、
 [雲潭の通称/別号] 通称;米蔵/祥蔵、別号;実斎/当左生/尚左生
 運智(うんち;字) → 日達(にちだつ;法諱・了義院、日蓮僧) C 3 3 8 4
- D1295 雲竹(うんちく・北向きたむき/林/野田、名;観/正実/忍) 1632-1703 72 京;東寺観智院僧/書;藤木敦直門、
 大師流書道;細楷、篆刻/墨竹、「蘭桂和歌歌集類題」、芭蕉と交流、1691「猿蓑」其角序清書、
 1697「ねざめのとも」書/1700「円光大師伝」書、「向阿上人伝」書、「吸日窩印譜」著、
 [雲竹の通称/別号] 通称;八郎右衛門、別号;溪翁/太虚庵/吸日窩、法号;明誉了海
 雲竹(うんちく・森) → 友益(ともます・森、医者) Q 3 1 6 0
 雲竹小居(うんちくしょうきよ) → 竹庵(ちくあん・広瀬、蘭学) C 2 8 4 8
 雲茶店(うんちやてん) → 治天(やてん・森野もりの、藩士/医者/俳人) D 4 5 8 2
 運籌真人(うんちゆうしんじん) → 兵原(へいげん・平山ひらやま、兵学/武芸者) 2 7 2 5
 雲疇道人(うんちゆうどうじん) → 竹陰(ちくいん・藪内やぶのうち、茶人) C 2 8 5 0
- F1200 運澄(うんちやう;法諱、) ? - ? 南北期僧;大法印(法華経)、
 1387(至徳4)淨阿5代奉納[隱岐高田明神百首和歌]出詠、
 [よそに又さそふも見えて山風の落葉をはらふ谷のいたばし](高田明神歌;58/橋落葉)
- D1296 雲頂(うんちやう;法諱、法号;喚誉/慈風/遣蓮社) 1679-1753 75 浄土僧;岩槻浄国寺/飯沼弘経寺檀林、
 江戸小石川檀林、1750幕命で京知恩院51世、大僧正、「四教集註講述」「選択集講」著
 雲蝶(うんちやう) → 幾晝(きぎやう、僧/俳人) 1 6 9 2
 雲潮(うんちやう;法諱) → 虎角(こかく;字・雲潮;法諱、浄土僧) L 1 9 8 6
- D1297 芸亭(うんてい・片岡かたおか・修姓;岡、名;正英/芸) ?-1818 大阪釣鐘町の富豪、儒;梁田蛻巖(いざがん)門、
 山城淀藩儒、木村巽斎(もくすんさい)・江田世恭と親交、「芸香亭漫録」/1754「芸亭随筆」著、
 1757「法華自我偈鈔」69「子蘭文集」著、
 [芸亭(;号)の字/通称/別号]字;子蘭、通称;淀屋重右衛門/十右衛門、
 別号;芸香亭(うんこうてい)/香亭/穆斎(もくさい)
- D1298 雲停(うんてい・関根せきね/通称;栄吉) 1804-77 74 江戸四谷永住町絵師;大岡雲峯門、花鳥画/博物画、
 精密画;1829「草木錦葉集」32「小おもと名寄」40「ホトトギス図説」、「椰子萌芽図」画
 芸亭(うんてい・久志本) → 常彰(つねあきら・渡会/久志本、神職/歌) B 2 9 5 7
 芸亭(うんてい) → 東谿(とうけい・市川、商家/絵師/詩歌) D 3 1 1 5
 雲亭(うんてい・中島) → 棕隠(そういん・中島なかじま、漢学/詩人) 2 5 0 4
 雲梯(うんてい) → 直之(なおゆき・石橋、歌人/俳人) C 3 2 8 4
 芸亭居士(うんていこじ) → 宅嗣(やかつぐ・石上) 4 5 0 1
- D1299 雲東(うんとう・黒岩/黒巖(くろいわ)、名;安節/字;達夫) ?-? 1774 存 江中期土佐佐川村医者、達谿の父、
 儒者;「雲東遺稿」「雲東遺稿別集」
- E1200 雲濤(うんとう・水落みずおち、名;恭倩/字;良輔/別号;二顛、元簡男) 1813-75 63 越後柏崎医者・蒼竜門、
 詩;梅辻春樵門、桑名藩領柏崎で父の医業を継嗣/桑名藩医待遇、
 1846「雲濤集」著、梅磡(うめい)の兄
- B1257 雲濤(うんとう・竹内たけうち、名;鵬/字;九万、山上準庵男/竹内家を嗣) 1816-62 47 江戸儒詩・星巖門、
 「玉池吟社詩」共編、1832「雲濤詩集」40「百衲琴一集」55「雲濤談海二編」著、
 遺詩集「三雲絶句」(雲濤・雲山・雲如の遺詩、木内子陽ら共編)
 [雲濤の通称/別号]通称;玄寿、別号;醉死道人/海棠詩屋/不可無竹居主人
- E1290 雲濤(うんとう・中野なかの、名;信戴) 1821-1908 88 伊予松山の絵師;丸山閑山門;墨竹画を修学、
 墨竹画は吉田蔵澤→大高坂南海→丸山閑山→中野雲濤へ続く

- 雲濤(うんとう・後藤) → 象二郎(しょうじろう・後藤、藩士/政治家) J 2 2 9 1
- B1258 雲堂(うんどう・加藤かとう/本姓;橘、名;勝明/鼎)?-? 江前期京の俳人:貞門、貞室と親交、1650「歩荒神・同追加」(重頼の毛吹草への論難書)、「雲堂文集」「遊神明山記」著、[雲堂の通称/別号]通称;半左衛門、別号;貫風/空門子くうもんし/遮莫亭
- E1201 雲堂(うんどう;法諱・乗音じょうおん;字、初諱;立英、俗姓阿部)?-1692 和泉真言僧;12歳で高野山修業、興山寺立詮/法輪寺宥以/栄山寺玄翁門、1663興山寺6世/66高野紛争で奥州配流;二本松遍照尊寺東金剛院創建/赦免帰山、詩歌を詠む、「興山集」「古頌諺解」「釈教和歌三十六首」著、[雲堂の号] 宝月/天岳、
- B1259 雲堂(うんどう・川勝かわかつ、別号;畔甘舎/吹松庵)1661-173070 江前中期京の俳人;雲鼓門、雑俳、「腹鼓」編、1713「削りかけ」28「雪の梅」30「花の兄」編
- E1202 雲洞(うんどう・前田まえだ、名;潤、前田赤淵養嗣)1746-183287歳 丹波福知山藩士の家の生、越前福井藩士前田家の養子、1759養家の家督嗣/儒;上京し闇齋学修学、1770福井藩儒、1772藩主に侍し江戸詰/留守物頭/先物頭/旗奉行を歴任/1819藩校正義堂初代総監、1829致仕、「雲洞詩文集」著、梅洞はいどの父、[雲洞(;号)の字/通称/別号]字;土河/土明、通称;彦次郎、別号;曇川/瑞梅館、法号;理光院
- E1203 雲幢(うんどう;法諱・幻華げんか/げんげ;号、諡;深信院、慈靈男)1759-182466 伊予の生、真宗本願寺派僧、1767(9歳)安藝広島 of 報専寺慧雲門/真宗義を修学、安藝賀茂郡教順寺住、1803佐伯郡草津に住/1804広島竹街に幻華庵を結ぶ、法主に聖教を3度講説、1823(文政6)広島善正寺に観経講義中罹病/翌年没、「安樂集玄譚」「往生論註玄談」「五願六法大意」「浄土真宗唯信訣」「選択集聞持記」外著多数
- E1204 雲洞(うんどう・岡田おかだ、名;和/字;文鳴、香雪男)1796-186974 越後魚沼郡中条村の農業/里正、儒;円通寺荷笠門/画;倉石乾山門、詩文;小杉蘿齋/尾台榕堂と結社;講習、「雲洞詩文稿」著
- 雲洞(うんどう・内田/佐伯) → 旭雅(きょくが;法諱・恵浄、真言僧) O 1 6 5 3
- 雲洞(うんどう;号) → 神童(しんりゅう;法諱、真宗大谷派学僧) Q 2 2 0 9
- 雲洞(うんどう・青蓮社) → 亮徹(りょうてつ;法諱、浄土僧) L 4 9 5 5
- 雲洞(うんどう・岩井) → 重賢(しげかた・岩井・巖井、和算家) Q 2 1 7 8
- 雲堂(うんどう・岩室) → 楽々(らくらく・岩室、醸造家/俳人) D 4 8 3 7
- 雲土園(うんどえん) → 右範(ゆうはん・渡辺/各務、俳人) D 4 6 6 0
- 雲突房(うんとつぼう) → 泰純(たいじゆん・岡宗おかむね、医者) K 2 6 3 0
- 雲南(うんなん・三木) → 隆盛(たかもり・三木晋堂、国学/俳人) N 2 6 4 8
- 雲奴(うんぬ) → 盲月(もうげつ、俳人) 4 4 5 0
- 雲農(うんのう;;法諱) → 浄嚴(じょうごん;法諱・覚彦、真言律僧) S 2 2 2 2
- E1263 運之丞(うんのじょう・門崎かどさき、)1695-177076 陸奥(陸中)磐井郡門崎の肝入、国学者
- 運之助(うんのすけ・阿部) → 正精(まさきよ・阿部あべ、藩主/書画/歌) L 4 0 5 9
- 雲梅(うんばい・佐竹) → 永海(えいかい・佐竹さたけ、絵師) B 1 3 9 3
- 運八郎(うんぱちろう・市川) → 方静(ほうせい・市川いちかわ、藩士/和算) C 3 9 0 1
- B1299 雲颯(うんぱん・間中まなか、名;宜之/字;楨卿、吉原吉熊の長男)1818-9376歳 伯父間中宜鑑の養嗣、北総の儒者・1833(16歳)朝川善庵門、詩;大沼枕山門、維新後官に就く;1877致仕、東京駒込千駄木林町に隠居、「千朶山房詩」著/「雲颯余影」「雲颯うんぱん遺詩」
- B1221 雲濱(うんぴん・梅田うめだ、名;定明、別号;東塙とうとう)1815-59 若狭藩士/儒者、尊攘派、安政大獄に連座、維宣「歎涕和歌集」獄中詠入、妻;梅田(旧姓上原)しん(1827-55/歌人)
- 雲浜(うんぴん・浜崎) → 景斎(けいさい・浜崎はまさき、医者/歌人) N 1 8 6 7
- 雲夫(うんぶ・林) → 十江(じゅうこう・林/高野、篆刻家) E 2 1 8 6
- 雲風子(うんぷうし) → 林鴻(りんこう・堀江、俳人/浮世草子) K 4 9 2 2
- 雲府観(うんぷかん) → 天歩(てんぽ・雲府観、読本作者) E 3 0 2 6
- 運平(うんぺい・黒野) → 日珥(にちがん;法諱、修験僧) B 3 3 1 7
- 運平(うんぺい・川佐) → 広好(ひろよし・浅裏庵あさうらあん、藩士/狂歌) H 3 7 7 1
- 運平(うんぺい・山田) → 北海(ほっかい・山田やまだ、儒者) E 3 9 5 1

- 運平(うんぺい・後藤) → 宏生(ひろなり・後藤ごとう、国学/歌) J 3 7 5 6
 運平(うんぺい・藤田) → 子徳(しとく・藤田ふじた、藩士/和算家) V 2 1 3 4
 雲平(うんぺい・大島) → 吉綱(よしつな・大島/横江、槍術家) E 4 7 7 1
 雲平(うんぺい・大島) → 常久(つねひさ・大島、藩士/槍術家) D 2 9 3 8
 雲平(うんぺい・草野) → 潜溪(せんけい・草野/佐藤、藩儒/書/詩) M 2 4 1 3
 雲平(うんぺい・華岡) → 青洲(せいしゅう・華岡はなおか、外科医) I 2 4 6 2
 雲平(運平うんぺい・丸山) → 活堂(かつどう・丸山/山、藩士/神道) H 1 5 8 2
 雲平(うんぺい・丸山) → 乗春(のりはる・丸山、活堂男/藩士/神道) K 3 5 0 7
 雲平(うんぺい・六人部) → 秀香(ひでか・六人部むとべ、神職/国学) L 3 7 4 7
 雲平(うんぺい・亀山) → 筋宇(せつう・亀山かめやま、藩儒) K 2 4 7 0
 運甕斎(うんべきさい・天野) → 信景(さだかげ・天野あまの、藩士/国学者) 2 0 1 8
- B1260 雲歩(うんぽ; 法諱・行巖ぎょうごん; 号、曹洞僧泉携男/俗姓原田) 1628-9871 豊前の生/熊本の曹洞僧;
 流長院囲岩門/江戸牛込の天徳院住、仮名草子; 1651鈴木正三門、55帰郷、
 1665豊後鶴崎の能仁寺開山、78熊本に天徳院建立、1661「因果物語方かな本」編、
 [雲歩の初諱/通称] 初諱; 完元、称; 昨歩犢畔(うんぽとくうん)
- D1227 雲歩(うんぽ; 法諱) ? - ? 江中期; 僧、俳人、
 1714月尋「伊丹発句合」; 四季発句入、[辻歌やすごくふりたる空のつき](伊丹発句合; 秋)
 雲浦(うんぽ・山本) → 由之(よしゆき・山本、良寛弟/国学/歌) K 4 7 3 1
- B1222 雲峰(うんぽう・居初いそめ) 1677- 174771歳 京の俳人; 雲鼓門/雑俳点者、
 1726雲鼓追悼「志加聞しかきき」編、1728亀岡「峯の嵐」編/28「都富士」43「一夜泊」編、
 「雲の台てな」「神路山」「神風」編、戯作「怪談御伽桜」「渡世伝授車」著、
 貞五堂乾峰[初世けんぽう]の父、
 [雲峰(; 号)の別号] 都塵舎/年々翁/花洛誹林
- B1287 雲峰(うんぽう・竹原たけはら) ? - ? 絵師、1801青氏「戯場節用集」画
- B1288 雲鵬(うんぽう・勝田かつた、名; 養元/字; 子彝) ?-? 江中期儒者; 順庵門(木門)/詩人、
 1706?「木門14家詩集」入、「雲鵬詩集」著
- E1205 雲峯(うんぽう・大岡おおおか、名; 成寛/字; 公栗、牛田忠光男) 1765-184783 幕臣; 1788家督/江戸四谷住、
 1791表右筆/92致仕、絵師; 高芙蓉/谷文晁門、山水花鳥画、「狂歌雅友集」画、「雲峯画譜」画、
 [雲峯(; 号)の通称/別号] 伝之助/金十郎/次兵衛、別号; 四谷南蘋(よつやなんびん)
- E1259 云鳳(うんぽう・大塚おおつか、通称; 梧桐) ?-? 江後期; 筑前福岡の浄土真宗大谷派浄慶寺僧、
 歌人; 大隈言道(ことみち/1798-1868)門
- 雲峰(うんぽう; 道号) → 元冲(げんちゅう・雲峰、臨濟/黄檗僧) L 1 8 2 0
 雲峰(うんぽう・青木) → 周斎(しゅうさい・青木、医/儒者/詩人) X 2 1 3 0
 雲鵬(うんぽう・小野) → 機(き・小野おの、絵師/書) T 1 6 7 1
 云鳳(うんぽう・牧野) → 忠精(ただきよ・牧野まきの、藩主) F 2 6 0 2
 雲芳軒(うんぽうけん) → 宗順(そうじゅん; 法諱、歌人/連歌) F 2 5 0 9
 雲峰子(うんぽうし) → 常牧(じょうぼく・つねまき・半田、俳人) B 2 2 6 2
 雲木(うんぼく・三宅) → 澹庵(たんあん・三宅、藩士/儒者/歌人) H 2 6 8 7
 昨歩犢畔(うんぽとくうん) → 雲歩(うんぽ; 法諱・行巖、曹洞僧/仮名草子) B 1 2 6 0
- E1206 雲夢(うんむ・越智おち/修姓; 越、曲直瀬まなせ[越智]平庵男) 1686-1746or4861-63 幕府医官、
 1724家督嗣/本姓越智を名乗る、法眼、儒古文辞; 徂徠門、詩文に長ず、
 「医方捷徑」「懷仙楼集」「懷仙楼集雜記」「神門余筆」著、
 [雲夢(; 号)の名/字/別号] 名; 正珪、字; 君瑞、別号; 神門叟/雪翁(致仕後の号)
- E1272 雲夢(うんむ・沢部さわべ、通称; 升順) ?-? 信濃松本藩医、歌人; 冷泉為村(1712-74)門、
- E1207 雲夢(うんむ・大竹おたけ、名; 親従) 1764-183168歳 常陸儒者; 菊池景英門/1793水戸藩彰考館入、
 1834致仕、1802「皇子伝考書」、「楠参議事蹟考」「花咲松弁」著、
 [雲夢(; 号)の字/通称/別号] 字; 子虚、通称; 与五兵衛、別号; 長嘯
- 雲夢斎(うんむさい・植田) → 孟縉(もうしん・植田うねだ、幕臣/史家) 4 4 5 8
 雲無心庵(うんむしんあん) → 神竜(しんりゅう; 法諱、真宗大谷派学僧/詩文) Q 2 2 0 9
- B1278 雲溟(うんめい・舟越ふなこし、名; 重郷、江田義亮男) 1833-7442歳 下野鹿沼の絵師; 青木南溟門、

- 勤王派/山稜奉行戸田忠至の修復事業に随従し山稜を写生;士分、「雲溟画帖」画
- 雲黙翁(うんもくおう) → 黙斎(もくさい・桑名くわな、藩儒) 4 4 7 9
- 雲母溪(うんもけい) → 羅山(らざん・林はやし、幕府儒官祖;幕政) 4 8 0 2
- 雲母山人(うんもさんじん) → 明(あきら・松崎まつさき、医者/詩文) E 1 0 1 8
- 雲母荘(うんもそう) → 団人(だんじん、雑俳点者) I 2 6 8 7
- E1208 雲門(うんもん・増野ますの/修姓;曾、名;有原/原、字;子泉、通称内記) 1718-63 46 長門萩藩儒;周南門、講説業、「雲門遺稿」
- E1209 雲門(うんもん・三木みき、名;毅、字;士訥/通称宗太夫)?-1799 讃岐高松藩儒・1789藩校講道館督学、1786「四書類編」著
- 雲門(うんもん;道号) → 即道(そくどう;法諱・雲門、曹洞僧) J 2 5 5 0
- B1261 云也(うんや・半井なからい/和氣わけ、云也ト養、通称;ト養軒/号;奇雲、古仙慶友男)?-? 堺医者/俳人、1635独吟「落髮千句」(成安「埋草」入)、成安師、紀行「岩国下向記」著、連歌:「沢庵江月両和上云也居士三吟連歌」、妻;津田宗及女、参照 息;宗松そしゅうト養→ ト養(ぼくよう・半井、俳人/狂歌) 3 9 6 7
- 云也ト養(うんやぼくよう) → 云也(うんや・半井、慶友男、俳人) B 1 2 6 1
- 雲陽(うんよう・末吉) → 捨介(すてすけ・末吉すえし、儒者/教育者) D 2 3 8 2
- 雲容(うんよう・松宮) → 清春(きよはる・松宮まつみや、藩士/詩歌) V 1 6 2 6
- E1210 雲羅(云良うんら・後南海・櫟庵)?-? 江中期行脚俳人;1772から近江八幡住、のち大阪に住、1781(天明元)頃から京住、1777江涯「仮日記」2句入、1776「月の夜」入の雲良うんりょうと同一? [雨白し鳥羽の轍わだちらに鳴く蛙かはう]、(仮日記;春4/郊外に杖を曳きて/夕立の轍の跡の水溜の蛙)
- B1223 雲楽斎(うんらくさい・朝倉/長坂、名;高景、朝倉景保男/長坂高美の婿養子) 1761-? 幕臣;1788家督、書院番士/元方弘方納戸衆、狂歌;赤良門/洒落本作者、1781「無陀物語」82「鯉池全盛嘶」83「傾城智恵鑑」著、万載狂歌集入/徳和歌後万載集;3首入 [いつとなくよい中抜きもあしぎまに踏みつけられてうき草履取](後万載;恋505) [雲楽斎の通称/別号] 通称;源之助/忠七郎、別号;雲楽山人
- 雲楽斎(うんらくさい・植田) → 孟縉(もうしん・植田うねだ、幕臣/史家) 4 4 5 8
- 雲楽山人(うんらくさんじん) → 雲楽斎(うんらくさい・朝倉/長坂、幕臣/狂歌/戯作) B 1 2 2 3
- 雲巒道与(うんらんどうよ) → 顕氏(あきうじ・細川/源、武将/歌/連歌) 1 0 5 9
- B1263 雲裡(うんり・渡辺わたなべ) 1693- 1761 69歳 尾張の俳人:支考門、伊勢桑名住/近江大津住;1747義仲寺無名庵5世、幻住庵再興に尽力、蕪村と交友、1728「柱隠」43「桑名万句」47「二季彼岸」48「俳諧仮名字彙」著、1752「蕉門名録集」編、「四季部類発句集」、「雲裡坊夜話記」著、3回忌追善「烏帽子塚」、[雲裡の別号] 雲裡坊/杉夫/三四庵/鳥巢仁/有椎翁/無名庵むみょうあん5世
- B1262 雲裡(うんり) ? - ? 俳人・樗良門、1786「樗良文集」編
- 雲里(うんり・内山) → 眞龍(またつ・内山うちやま、国学者) 4 0 3 0
- 雲律居士(うんりつこじ) → 木海(もつかい・長谷川、俳人) B 4 4 8 2
- 雲裡坊(うんりぼう) → 雲裡(うんり・渡辺わたなべ、俳人) B 1 2 6 3
- 雲裡房(うんりぼう) → 去尼(きよに・雲裡房、俳人) D 1 6 4 7
- 雲竜(うんりゅう・青山) → 拙斎(せつさい・青山延子のぶゆき、儒者) E 2 4 3 3
- 雲笠(うんりゅう・菊池) → 容斎(ようさい・菊池、武保、幕臣/絵師) 4 7 9 5
- 雲竜院宮(うんりゅういんのみや) → 常胤親王(じょういんしんのう、天台座首/連歌) F 2 2 2 4
- 雲竜社(うんりゅうしゃ) → 堪忍舎二字守(かんにんしゃにじもり、狂歌) R 1 5 5 9
- E1211 雲良(うんりょう) ? - ? 江中期俳人;1776樗良「俳諧月の夜」1句入、[初雁のひとつおりけり月のうへ](月の夜;177)、1777「仮日記」入の雲羅(云良うんら)と同一?
- 運良(うんりょう;法諱) → 恭翁(きょうおう;道号・運良、臨濟僧) N 1 6 3 4
- E1293 雲林(うんりん・毛内もうない、名;茂幹しげもと、宜応ぎょう[茂肅]男) 1757?-1837 80余 陸奥弘前藩士、

幼少より絵画・和漢学・地理・暦法・茶道・華道・書道など多才;特に南画に長ず、
1782(天明2)父隠居;家督嗣;300石/1790諸手足頭/持筒足軽頭/大組武頭/持槍奉行歴任、
1798(寛政10)大目付/用人/1806(文化3)留守居組頭/1811(文化8)隠居;剃髪;雲林号、
邸内に春秋庵を作り風流生活/谷文晁・比良野貞彦と交流、津軽南画の祖と称される、
門弟数十人;松山雲章・工藤五鳳・平尾魯仙・片谷楽斎・工藤立風・矢部義貞など、
裕胤の父/毛内有之助(新選組隊士)の祖父、1837(天保8)没、石山雅朝の兄、
[雲林(;剃髪号)の字/通称/別号]字;子誉、通称;辰次郎/左門次郎/有右衛門(父の称)、
別号;春秋庵/溝城みぞき茂(門弟と諸国漫遊時の変名)

- E1212 **雲隣**(うんりん・青山あおやま樵、石泉/暢春楼ちようしゅんろう) 1770-1819.50 讃岐高松の絵師;長町竹石門、
「暢春楼展観」編
- E1213 **雲琳**(うんりん;通称・児島こじま、号;君玉、宗説男)?-? 江後期会津藩侍医、父の口述「古医方晰義」編
- E1214 **雲麟**(うんりん・竹村たけむら、名;泰)?-? 江後期の絵師、
甲府勤番浅野梅堂の命で甲斐御岳新道の景勝画、1854「仙嶽關路図」画
- 雲隣庵(うんりんあん) → 景寛(かげひろ・乾いぬい、国学/歌人) T 1 5 7 0
 雲林院(うんりんいん) → 慈静(じじょう;法諱、天台僧正/歌) B 2 1 3 6
 雲林院供奉(うんりんいんぐぶ) → 永胤(えいいん/よういん、法師/歌人) 1 3 0 0
 雲林院親王(うんりんいんのみこ、雲林院宮) → 常康親王(つねやすしのう、歌人) E 2 9 0 9
 雲林閣(うんりんかく) → 延貞(のぶさだ・明星あかばし、商家/歌人) H 3 5 1 1
 雲林斎(うんりんさい;法号) → 徳馨(とくけい・平栗、庄屋/詩歌) K 3 1 6 0
 雲林亭(うんりんてい) → 延貞(のぶさだ・明星あかばし、商家/歌人) H 3 5 1 1
- B1225 **雲鈴**(うんれい・吉井よい、摩詰庵・茶九蓮寺・娑旦人) 1665?-1717.53 南部盛岡藩士/僧、
俳人;各務支考・森川許六門、佐渡/越後住;20余年、
1703「摩詰庵入日記」/14「笈之若葉おのわかば」編/「淡雪」編、追善集「茶九蓮寺」
- B1224 **雲鈴**(うんれい・吉井・吹簫軒2世) 1674-1751.78歳 京の俳人・雲鼓門、吹簫軒を継承、
1727「二日月俳集」/「住吉躍」/「たから舟」編
- 1294 **雲樞**(うんれい;道号・泰禅たいぜん;法諱、俗姓;長埜) 1752-1816.65 越後新潟の曹洞僧;1760(9歳)出家、
諸宗を修学/日輪当午・玄楼奥竜門/1773名古屋の鉄文道樹門;嗣法、志摩の常安寺住持、
備後玉泉寺・播磨天正寺・下総総寧寺を歴任、「夢菴藁」/「雲樞和尚語録」/「三時業落草」、
「碧巖録止啼」/「法華経備考」/「妙法蓮華経魔説」/「他受用三昧」/1804「戒会落草談」外著多数、
瑞谷穆応(1838「雲樞禅師行実」著)の師、
[雲樞泰禅の号] 随处楼/爾時庵/夢遊/矮道人
- E1215 **雲嶺**(うんれい・石野いしの、名;彝/世彝、字;希之) 1790-1870.81 駿河藤枝の儒者、
菊池五山・梁川星巖らと交遊、詩人、小坂に皆梅園を営む、
1838「雲嶺樵響」44「香国為政」58「雲嶺樵響閩集」著、
[雲嶺の通称/別号] 通称;金平、別号;天均
- 雲嶺(うんれい・鈴木) → 重賢(しげかた・鈴木すずき、藩士/国学・歌) Z 2 1 0 7
 雲樞(うんれい;道号) → 泰禅(たいぜん;法諱・雲樞、曹洞僧) K 2 6 4 7
 雲蓮社空華(うんれんしゃくうげ) → 諦忍(たいにん;字・妙竜;法諱、浄土僧/真言律) C 2 6 0 4
- E1218 **雲郎**(雲朗うんろう・麦竜舎ばくりゅうしゃ、阪本さかもと宣澄のりずみ)?-1792 上州富岡豪商堺屋4世、
絹・麻・煙草問屋/薬種業、俳人;建部綾足(涼岱)門/歌;澄月門、
1753綾足「太山樞みやまきみ」編/1758綾足「華盗人」編
[麦竜舎雲郎(;号)の名/通称/別号/屋号]名;宣澄のりずみ/重由、通称;治兵衛、
別号;麦隴舎ばくりゅうしゃ、屋号;堺屋
- 雲楼(うんろう・年梅) → 昌之(まさゆき・年梅ねんばい、接骨医/国学) R 4 0 4 6
 雲浪舎(うんろうしゃ) → 鯨吹(けいすい・森もり、俳人) D 1 8 5 4
- C1204 **雲鹿**(うんろく・林) ? - ? 備前岡山の俳人;北村季吟門、同郷の晩翠と交流、
「名の兎」編、「元禄十七甲申歳旦」編、1691江水「元禄百人一句」目録入
- 云六斎(うんろくさい) → 菘陵(かりよう・西田にしだ、俳人) P 1 5 7 7
 雲廬道人(うんろどうじん) → 日謙(にちけん;法諱、日蓮僧) B 3 3 6 3

